

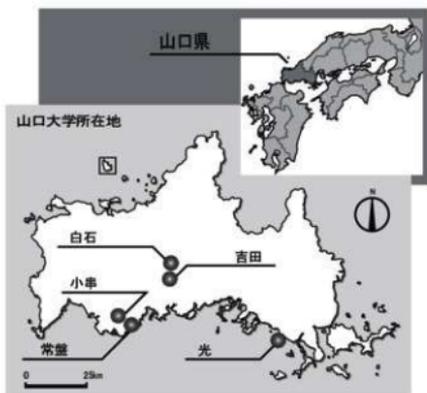
山口大学埋蔵文化財資料館年報  
—平成24年度—

2016

山口大学埋蔵文化財資料館

# 山口大学埋蔵文化財資料館年報

平成24年度 山口大学構内遺跡発掘調査概報  
平成24年度 山口大学埋蔵文化財資料館活動報告



2016

山口大学埋蔵文化財資料館



## 序

山口大学埋蔵文化財資料館は、吉田構内をはじめ小串・常盤・白石・光地区に所在する山口大学構内遺跡における埋蔵文化財の発掘・保護を基幹業務としています。同時に、学術資料の管理と発信を主要業務とする大学情報機構所属の一組織として、これら埋蔵文化財の調査成果や学術的価値を広く社会に告知するため、資料展示や年報および広報誌発行、社会教育活動など、情報発信活動にも積極的に取り組んでおります。

さて、平成24(2012)年度は、埋蔵文化財保護業務に関しては、本発掘調査2件、予備発掘調査3件、立会調査11件を吉田構内、白石構内、光構内で実施し、主として吉田構内と光構内に埋蔵文化財に関する新たな知見を得るに至りました。特に吉田構内で実施した図書館改修工事に伴う本発掘調査と、光構内で実施した下水道接続工事に伴う本発掘・立会調査においては、膨大な量の遺物が発見され、山口県の考古学研究における基礎資料を得る事になりました。

その他の取り組みとして、新たに山口大学所蔵学術資産継承検討委員会の事業成果展「宝山の一角」を当館の共催にて開始しました。複数分野の学術資料が当館展示室に集合することにより、本学の新たな教育研究空間が創出することを期待しています。

本書には、当館が同年に実施した構内遺跡の調査成果をはじめ、収蔵資料の展示活動や社会連携活動、館員の研究活動を収録しております。本書が山口大学および学外研究機関、地域社会において幅広く活用されることを願います。

当館は、埋蔵文化財保護体制をはじめ、出土品や調査記録の整理・保管場所の不足が年々深刻化するなど多くの課題を抱えていますが、学内ばかりでなく地域に開かれた学術研究・教育の場として、活用していただくよう、全力を尽くして取り組む所存です。これまで当館の調査・研究活動にご支援、ご協力を頂いた関係機関、関係各位に心から厚く御礼申し上げますとともに、今後とも変わらぬご理解、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成28年3月

山口大学埋蔵文化財資料館長  
山内 直樹



## 例言

1. 本書は、山口大学埋蔵文化財資料館(以下「資料館」と呼称)が平成24年度に実施した、山口大学構内の遺跡発掘調査成果報告と、同年度に資料館が実施した社会教育等の活動報告を記したものである。
2. 構内遺跡発掘調査に関しては、現地での調査は資料館員である田畑直彦(大学情報機構埋蔵文化財資料館助教)・横山成己(大学情報機構埋蔵文化財資料館助教)・松浦暢昌(事務局情報環境部学術情報課教務補佐員※当時)が担当した。  
また、現地での調査に際しては、有限会社久富工務店、時盛建設株式会社、兼本建設株式会社に協力を依頼した。
3. 出土資料の整理は、平成25年度から平成27年度にかけて、資料館員である田畑・横山・乃美友香(事務局情報環境部学術情報課技術補佐員)・松浦が担当した。
4. 発掘調査における現地での実測は田畑・横山・松浦が、写真撮影は田畑・横山が行った。出土遺物に関しては、実測・写真撮影を田畑・横山・川島尚宗(大学情報機構埋蔵文化財資料館助教※平成25年11月1日より)・山田圭子(事務局情報環境部学術情報課教務補佐員※平成27年4月1日より)・横山佐夜子(臨時職員)が行った。製図・整図は田畑・横山・乃美・山田が行った。
5. 本書掲載遺物については、市来真澄氏(山口県立萩美術館・浦上記念館)、亀田修一氏(岡山理科大学)、佐藤浩司氏(北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室)、永井宏幸氏(愛知県埋蔵文化財センター)、三吉秀充氏(愛媛大学埋蔵文化財調査室)に助言を仰ぎ、懇切なご教示を得た。記して感謝の意を表したい。
6. 発掘調査に伴う事務は、事務局情報環境部学術情報課総務係が統括した。
7. 発掘調査の諸記録類と出土資料は資料館で適正に保管している。
8. 本文の執筆分担は目次に記した。
9. 本書の編集は資料館員の補佐を得て横山が行った。

## 凡例

1. 山口大学の古田・白石・小中・常盤・光構内は、いずれもが文化財保護法(法律第214号)で示される「周知の埋蔵文化財包蔵地」内に位置する。各構内の位置する遺跡名は以下の通りである。

古田構内～古田遺跡　白石構内～白石遺跡　小中構内～山口大学医学部構内遺跡  
常盤構内～山口大学工学部構内遺跡　光構内～御手洗遺跡・月待山遺跡

2. 古田構内における調査区および層位・遺構の位置は、日本測地系に基づいた国土座標を基準として北から南へ1～24、西から東へA～Zの番号を付して50m方眼に区画した、構内地区割のA-24区南西隅を起点(構内座標x=0, y=0)とする構内座標値で表示している。なお、平面直角座標系第三系における座標値(X, Y)と構内座標値(x, y)とは下記の計算式で変換される。

$$x = X \div 206, 000$$

$$y = Y + 64, 750$$

3. 平成24年度に実施した予備発掘調査に関しては、以下の略号により資料整理を行っている。

古田構内産業動物実験施設工事に伴う予備発掘調査……………YD2012-1  
区書館改修工事及び環境整備(岡古館周辺道路迂回)工事に伴う本発掘調査……………YD2012-2  
横野寮新営工事に伴う予備発掘調査……………YD2012-3  
第1学生食堂増築工事に伴う予備発掘調査……………YD2012-4  
光構教育学部附属光小学校公共下水接続工事に伴う本発掘調査……………MTR2012-1  
光構教育学部附属光小学校公共下水接続工事に伴う立会調査……………MTR2012-2

4. 各遺構は下記の記号で表記することがある。

堅穴住居……………SB	掘立柱建物……………SH	土塙……………SK
溝……………SD	柱穴・ピット……………Pit・SP	落ち込み……………SX

5. 本書で使用した方位は、古田構内では国土座標を基準とした真北、他の構内では磁北を示す。

6. 標高数値は海拔標高を示す。

7. 土層および土器の色調記号は、農林省農林水産技術会事務局監修『新版標準土色帖』(1976)に準拠した。

8. 遺物の実測図は、下記のように分類した。

断面黒塗り……………須恵器、陶質土器、陶器、磁器

断面白抜き……………縄文土器、弥生土器、土師器、土師質土器、瓦質土器、石器、木器、金属器

# 本文目次

第1章	平成24年度山口大学構内遺跡の調査	1
第1節	平成24年度に実施した遺跡調査の概要	(横山) 1
第2節	吉田構内(吉田遺跡)の調査	
1	産業動物実験施設工事に伴う予備発掘調査	(横山) 5
2	図書館改修工事及び環境整備(図書館周辺道路迂回)工事に伴う本発掘調査	(横山) 10
3	榎野寮新営工事に伴う予備発掘調査	(横山) 89
4	第1学生食堂増築工事に伴う予備発掘調査	(田畑) 95
5	陸上競技場トラック排水改修工事に伴う立会調査	(田畑) 104
6	人文・理学部管理棟EV設置工事に伴う立会調査	(横山) 107
7	農場本館事務室等改修機械設備工事に伴う立会調査	(横山) 108
8	図書館改修その他工事(廃棄物プール設置)に伴う立会調査	(横山) 109
9	国際交流会館1号館引込給水管改修工事に伴う立会調査	(横山) 110
第3節	白石構内(白石遺跡)の調査	
1	教育学部附属幼稚園遊具設置工事に伴う立会調査	(横山) 111
2	教育学部附属幼稚園園舎テラス取設工事に伴う立会調査	(横山) 112
3	教育学部附属山口中学校看板表示設置工事に伴う立会調査	(横山) 113
4	教育学部附属山口中学校テニスコート防球ネット嵩上げ工事に伴う立会調査	(横山) 114
5	教育学部附属山口中学校武道場新営植物移植工事に伴う立会調査	(横山) 115
第4節	光構内(御手洗遺跡・月待山遺跡)の調査	
1	教育学部附属光学校下水道接続工事に伴う本発掘調査・立会調査	(田畑) 116
付節1	平成24年度 山口大学構内遺跡調査要項	204
付節2	山口大学構内の主な調査	207
第2章	平成24年度山口大学埋蔵文化財資料館の活動報告	(横山) 230
第1節	資料館における展示・情報公開活動	
1	第33回企画展『遺跡調査に見る山口大学の原風景1 中世 村落 誕生』を開催	(横山) 231
2	第34回企画展『学生発！行動展示 遺跡と向き合う』を開催	(横山) 232
3	山口県大学ML連携企画巡回展『風化させない記憶への一歩～自然とともに～』 梅光学院大学会場・徳山大学会場・山口福祉文化大学会場を巡回	(横山) 233
4	平成24年度山口大学所蔵学術資産継承事業成果展「宝山の一角」 を共催にて開催	(横山) 235
5	平成24年度刊行物	(横山) 236
第2節	資料館における社会教育活動	
1	第12回公開授業 「古代人の知恵に挑戦！—古代のお米をつくってみよう7—」を開催	(田畑) 237
付篇	光市東之庄神田遺跡出土の縄文時代石棒	(川島) 240

## 挿図目次

<b>第1章第1節 平成23年度に実施した遺跡調査の概要</b>	
図1 山口大学吉田・白石構内位置図……………2	図36 出土木製品実測図①……………46
図2 小串・常盤構内位置図……………4	図37 出土木製品実測図②……………47
図3 光構内位置図……………4	図38 出土木製品実測図③……………48
<b>第1章第2節 吉田構内（吉田遺跡）の調査</b>	図39 出土木製品実測図④……………49
図4 調査区位置図……………5	図40 出土木製品実測図⑤……………50
図5 調査区平面図……………7	図41 図書館調査区の位置関係……………86
図6 調査区土層断面図……………8	図42 図書館2号館調査区土層断面図……………87
図7 調査区位置図……………10	図43 調査区位置図……………89
図8 調査区平面図……………12	図44 調査区平面図・断面図……………92
図9 調査区東壁・南壁土層断面図……………13	図45 東西トレンチ北壁土層断面図……………93
図10 調査区アゼ土層断面図……………14	図46 出土遺物実測図……………94
図11 調査区北部木製品出土状況平面図……………21	図47 調査区位置図……………95
図12 3層出土土器実測図①……………23	図48 調査区詳細図……………96
図13 3層出土土器実測図②……………24	図49 A調査区北西部平面図・土層断面図……………98
図14 3層出土土器実測図③……………25	図50 A調査区Pit1断面図……………98
図15 4層出土土器実測図①……………25	図51 A調査区南東部平面図・土層断面図……………99
図16 4層出土土器実測図②……………26	図52 B調査区平面図・土層断面図……………100
図17 河川堆積土出土土器実測図①……………27	図53 C調査区平面図・土層断面図……………100
図18 河川堆積土出土土器実測図②……………28	図54 C調査区Pit1断面図……………100
図19 河川堆積土出土土器実測図③……………29	図55 D調査区平面図・土層断面図……………100
図20 河川堆積土出土土器実測図④……………30	図56 出土遺物実測図……………103
図21 河川堆積土出土土器実測図⑤……………31	図57 調査区位置図……………104
図22 河川堆積土出土土器実測図⑥……………33	図58 調査区位置図……………107
図23 河川堆積土出土土器実測図⑦……………34	図59 土層断面柱状図……………107
図24 河川堆積土出土土器実測図⑧……………35	図60 調査区位置図……………108
図25 河川堆積土出土土器実測図⑨……………36	図61 B地点土層断面柱状図……………108
図26 河川堆積土出土土器実測図⑩……………37	図62 調査区位置図……………109
図27 河川堆積土出土土器実測図⑪……………39	図63 土層断面柱状図……………109
図28 河川堆積土出土土器実測図⑫……………40	図64 調査区位置図……………110
図29 河川堆積土出土土器実測図⑬……………41	図65 土層断面柱状図……………110
図30 旧耕土出土・層位不明土器実測図……………41	<b>第1章第3節 白石構内（白石遺跡）の調査</b>
図31 出土土製品実測図……………43	図66 調査区位置図……………111
図32 出土金属器実測図……………43	図67 土層断面柱状図……………111
図33 出土土器実測図①……………43	図68 調査区位置図……………112
図34 出土土器実測図②……………44	図69 土層断面柱状図……………112
図35 出土土器実測図③……………45	図70 調査区位置図……………113
	図71 土層断面柱状図……………113

図72 調査区位置図	114
図73 土層断面柱状図	114
図74 調査区位置図	115
図75 土層断面柱状図	115
<b>第1章第4節 光橋内（御手洗遺跡・月待山遺跡）の調査</b>	
図76 調査区位置図	117
図77 A～C調査区第1遺構面平面図 ・土層断面図	120
図78 A～C調査区第2遺構面平面図	122
図80 A～C調査区第3遺構面平面図	123
図81 SK1・Pit11土層断面図	123
図82 D調査区第1遺構面平面図・土層断面図	124
図83 D調査区第2遺構面平面図	125
図84 D調査区第3遺構面平面図	125
図85 D調査区第2遺構面・第3遺構面 検出遺構断面図	125
図86 E調査区平面図・土層断面図	126
図87 F・G調査区第1遺構面平面図 ・土層断面図	127
図88 F調査区第2遺構面平面図・断面図	128
図89 F調査区第2遺構面Pit1断面図	128
図90 F調査区第3遺構面平面図1	128
図91 F調査区第3遺構面平面図2 ・G調査区第3遺構面平面図	128
図92 F調査区第3遺構面断面図1	128
図93 F調査区第3遺構面断面図2	129
図94 H調査区平面図・土層断面図	130
図95 出土遺物実測図①	142
図96 出土遺物実測図②	143
図97 出土遺物実測図③	143
図98 土層断面柱状図①	157

図99 土層断面柱状図②	158
図100 土層断面柱状図③	159
図101 土層断面柱状図④	160
図102 土層断面柱状図⑤	161
図103 土層断面柱状図⑥	162
図104 出土遺物実測図①	175
図105 出土遺物実測図②	176
図106 出土遺物実測図③	177
図107 出土遺物実測図④	178
図108 出土遺物実測図⑤	179
図109 出土遺物実測図⑥	180
図110 出土遺物実測図⑦	181

#### 第1章付部2 山口大学の主な調査

図111 山口大学吉田構内地区割 および主な調査区位置図	223・224
図112 山口大学白石構内（幼稚園・小学校） 調査区位置図	225
図113 山口大学白石構内（中学校） 調査区位置図	226
図114 山口大学小串構内調査区位置図	227
図115 山口大学常盤構内調査区位置図	228
図116 山口大学光橋内調査区位置図	229
<b>付篇 光市東之庄神田遺跡出土の縄文時代石棒</b>	
図117 東之庄神田遺跡周辺遺跡分布図	240
図118 山口県内出土縄文時代石棒実測図①	241
図119 山口県内出土縄文時代石棒実測図②	243
図120 中四国地方・九州北東部における 類似資料分布図	245
図121 桜ヶ丘型石器分布図	247

## 写真目次

#### 第1章第1節 平成23年度に実施した遺跡調査の概要

写真1 吉田構内航空写真	2
写真2 白石構内（教育学部附属山口幼稚園・小学校） 航空写真	2

写真3 白石構内（教育学部附属山口中学校） 航空写真	2
写真4 小串構内航空写真	4
写真5 常盤構内航空写真	4

写真6 光構内航空写真	4	写真44 調査区北部木製品検出状況	22
<b>第1章第2節 吉田構内(吉田遺跡)の調査</b>		写真45 出土遺物(土器)①	51
写真7 調査地点遠景	5	写真46 出土遺物(土器)②	52
写真8 調査前全景	5	写真47 出土遺物(土器)③	53
写真9 建設中の農学部附属農場本館	6	写真48 出土遺物(土器)④	54
写真10 吉田第IV地区調査遠景	6	写真49 出土遺物(土器)⑤	55
写真11 吉田第IV地区調査風景	6	写真50 出土遺物(土器)⑥	56
写真12 吉田第IV地区調査風景	6	写真51 出土遺物(土器)⑦	57
写真13 東西トレンチ完掘状況	9	写真52 出土遺物(土器)⑧	58
写真14 東西トレンチ西端部南壁土層断面	9	写真53 出土遺物(土器)⑨	59
写真15 東西トレンチ中央部南壁土層断面	9	写真54 出土遺物(土器)⑩	60
写真16 南北トレンチ完掘状況	9	写真55 出土遺物(土器)⑪	61
写真17 南北トレンチ北端部東壁土層断面	9	写真56 出土遺物(土器)⑫	62
写真18 南北トレンチ南端部東壁土層断面	9	写真57 出土遺物(土器)⑬	63
写真19 調査地点遠景	10	写真58 出土遺物(土器)⑭	64
写真20 調査前全景	10	写真59 出土遺物(土器)⑮	65
写真21 遺物包含層検出状況	15	写真60 出土遺物(土器)⑯	66
写真22 河川埋土完掘状況	15	写真61 出土遺物	
写真23 重機掘削風景	16	(土器・土製品・金属器・石器)⑰	67
写真24 作業風景	16	写真62 出土遺物(土器)⑱	68
写真25 作業風景	16	写真63 図書館2号館増築調査区全景	86
写真26 南区41層遺物出土状況	16	写真64 調査地点遠景	89
写真27 北西区50層遺物出土状況	16	写真65 調査前全景	89
写真28 北西区49層遺物出土状況	16	写真66 調査風景	91
写真29 東西アゼ59層遺物出土状況	17	写真67 南北トレンチ完掘状況	91
写真30 河底遺物出土状況	17	写真68 東西トレンチ完掘状況	91
写真31 河底遺物出土状況	17	写真69 南北トレンチ西壁土層断面	91
写真32 河底遺物出土状況	17	写真70 東西トレンチ北壁土層断面	91
写真33 河底遺物出土状況	17	写真71 統合移転工事中の吉田構内	91
写真34 河底遺物出土状況	17	写真72 出土遺物	94
写真35 調査区東壁土層断面	18	写真73 A・C・D調査区調査前全景	95
写真36 調査区南壁土層断面	18	写真74 B調査区調査前全景	95
写真37 東西アゼ西側南面土層断面	18	写真75 A調査区全景	101
写真38 東西アゼ東側南面土層断面	18	写真76 A調査区Pit1半截状況	101
写真39 南北アゼ北側東面土層断面	19	写真77 A調査区河川1土層断面	101
写真40 南北アゼ南側東面土層断面	19	写真78 A調査区河川2土層断面	101
写真41 東西アゼ西側北面土層断面	19	写真79 A調査区河川3土層断面	101
写真42 杭列1・2	19	写真80 B調査区全景	101
写真43 調査区北壁断ち割り木製品出土状況	21	写真81 B調査区Pit1土層断面	101

写真82 C調査区全景	102
写真83 C調査区東部北西壁土層断面	102
写真84 D調査区全景	102
写真85 D調査区西部北西壁土層断面	102
写真86 出土遺物	103
写真87 A地点(SD1)南西壁土層断面	105
写真88 A地点(SD2)南西壁土層断面	105
写真89 B地点(SD3)南西壁土層断面	106
写真90 C地点西端部北東壁土層断面	106
写真91 C地点東端部北東壁土層断面	106
写真92 D地点西端部SD5・ピット検出状況	106
写真93 E地点(SD6)北西壁土層断面	106
写真94 F地点(SX1)北西壁土層断面	106
写真95 G地点北西壁(SD7)土層断面	106
写真96 H地点北西壁(SD8)土層断面	106
写真97 調査区西壁土層断面	107
写真98 B地点土層断面	108
写真99 調査区西壁土層断面	109
写真100 土層断面	110
<b>第1章第3節 白石橋内(白石遺跡)の調査</b>	
写真101 土層断面	111
写真102 基礎掘削状況	112
写真103 調査区西壁土層断面	113
写真104 D地点土層断面	114
写真105 調査区北壁土層断面	115
<b>第1章第4節 光橋内(御手洗遺跡・月待山遺跡)の調査</b>	
写真106 A～D調査区調査前全景	116
写真107 E～G調査区調査前全景	116
写真108 H調査区調査前全景	116
写真109 A調査区南東壁土層断面	134
写真110 B調査区南端部土層断面	134
写真111 C調査区南西壁土層断面	134
写真112 A調査区第1遺構面	134
写真113 B調査区第1遺構面検出状況	134
写真114 B調査区第1遺構面完掘状況	134
写真115 C調査区第1遺構面完掘状況	134
写真116 A調査区第2遺構面完掘状況	134
写真117 C調査区第2遺構面検出状況	135

写真118 C調査区北西部第2遺構面	
検出遺構半裁	135
写真119 A調査区第2遺構面SK1半裁状況	135
写真120 A調査区第2遺構面SK2半裁状況	135
写真121 C調査区第2遺構面SK3半裁状況	135
写真122 A調査区第3遺構面検出状況	135
写真123 B調査区第3遺構面遺構検出状況	135
写真124 B調査区第3遺構面完掘状況	135
写真125 B調査区第3遺構面Pit11	
・SK1半裁状況	136
写真126 C調査区第3遺構面検出状況	136
写真127 C調査区第3遺構面完掘状況	136
写真128 C調査区北西部第3遺構面	
検出遺構半裁状況	136
写真129 D調査区南西壁土層断面	136
写真130 D調査区作業風景	136
写真131 D調査区第1遺構面検出遺構	
半裁状況	136
写真132 D調査区第2遺構面検出状況	137
写真133 D調査区第2遺構面完掘状況	137
写真134 D調査区第2遺構面SK1土層断面	137
写真135 D調査区第3遺構面検出状況	137
写真136 D調査区第3遺構面完掘状況	137
写真137 D調査区北西部第3遺構面検出状況	
	138
写真138 D調査区第3遺構面SK1土層断面	138
写真139 D調査区第3遺構面SX1土層断面	138
写真140 E調査区南東壁土層断面	138
写真141 F調査区南西部南東壁土層断面	138
写真142 G調査区南東壁土層断面	138
写真143 F調査区第1遺構面SK1～4半裁状況	
	138
写真144 G調査区南西部第1遺構面検出状況	
	138
写真145 G調査区北東部第1遺構面検出状況	
	139
写真146 G調査区第1遺構面Pit7検出状況	
	139
写真147 G調査区第1遺構面完掘状況	139



写真221	48地点北東壁土層断面	170
写真222	N o. 16南西壁土層断面	170
写真223	50地点南西壁土層断面	170
写真224	N o. 5-7北西壁土層断面	170
写真225	出土遺物①	182
写真226	出土遺物②	183
写真227	出土遺物③	184
写真228	出土遺物④	185
写真229	出土遺物⑤	186
写真230	出土遺物⑥	187
写真231	出土遺物⑦	188
写真232	出土遺物⑧	189
写真233	出土遺物⑨	190
写真234	出土遺物⑩	191
写真235	出土遺物⑪	192
写真236	出土遺物⑫	193
写真237	出土遺物⑬	194
写真238	出土遺物⑭	195
写真239	出土遺物⑮	195
<b>第2章第1節 資料館における展示公開活動</b>		
写真240	第33回企画展ポスター	231
写真241	展示の様様	231
写真242	第34回企画展ポスター	232
写真243	展示の様様	232
写真244	梅光学院大学会場展示解説 (山大埋文) 風景	234
写真245	梅光学院大学会場展示解説 (山大図書) 風景	234
写真246	徳山大学会場設置風景	234

写真247	徳山大学会場展示解説 (山大図書) 風景	234
写真248	山口福祉文化大学会場展示見学風景	234
写真249	山口福祉文化大学会場展示解説 (山大埋文) 風景	234
写真250	前期展示解説の様様	235
写真251	後期展示解説の様様	235
写真252	平成24年度埋蔵文化財資料館刊行物	236

#### 第2章第2節 資料館における社会教育活動

写真253	館長挨拶 (7月28日)	238
写真254	水田と雑草 (7月28日)	238
写真255	雑草の説明 (7月28日)	238
写真256	除草 (7月28日)	238
写真257	土器づくり (10月14日)	238
写真258	泥窯づくり1 (10月14日)	238
写真259	泥窯づくり2 (10月14日)	238
写真260	焼成した土器 (10月17日)	238
写真261	稲の収穫 (10月14日)	239
写真262	はぜ架け (10月14日)	239
写真263	脱穀・糶すり (10月27日)	239
写真264	火起こし (10月27日)	239
写真265	土器による炊飯 (10月27日)	239
写真266	朴葉焼 (10月27日)	239
写真267	昼食メニュー (10月27日)	239
写真268	食事風景 (10月27日)	239

#### 付圖 光市東之庄神田遺跡出土の縄文時代石棒

写真269	東之庄神田遺跡出土石棒	242
-------	-------------	-----

## 表目次

### 第1章第1節 平成24年度に実施した遺跡調査の概要

表1	平成24年度山口大学構内遺跡調査一覧表	1
----	---------------------	---

### 第1章第2節 吉田構内(吉田遺跡)の調査

表2	出土遺物(土器)観察表	69
表3	出土遺物(土製品)観察表	83
表4	出土遺物(金属器)観察表	83
表5	出土遺物(石器)観察表	83

表6	出土遺物(木製品)観察表	83
表7	出土遺物(土器)観察表	94
表8	出土遺物(土器)観察表	103

### 第1章第4節 光構内(御手洗遺跡・月待山遺跡)の調査

表9	A～C調査区第1遺構面遺構観察表	131
表10	A～C調査区第1遺構面遺構観察表	131
表11	A～C調査区第3遺構面遺構観察表	132
表12	D調査区第1遺構面遺構観察表	132

表13 D調査区第2遺構面遺構観察表	132
表14 D調査区第3遺構面遺構観察表	132
表15 F・G調査区第1遺構面遺構観察表	133
表16 F・G調査区第2遺構面遺構観察表	133
表17 F・G調査区第3遺構面遺構観察表	133
表18 H調査区遺構観察表	133
表19 出土遺物（土器）観察表	147
表20 出土遺物（土製品・石器）観察表	148
表21 出土土器観察表	196

第1章付第2 山口大学の主な調査

表22 山口大学構内の主な調査一覧表	207
--------------------	-----

第2章 山口大学埋蔵文化財資料館の活動報告

表23 埋蔵文化財資料館利用者の推移	230
表24 平成24年度月別入館者数	230

付篇 光市東之庄神田遺跡出土の縄文時代石棒

表25 山口県内出土縄文時代石棒	243
表26 九州出土板ヶ丘型石器	246

## 第1章 平成24年度山口大学構内遺跡の調査

### 第1節 平成24年度に実施した遺跡調査の概要

山口大学の関連諸施設は、山口市(吉田・白石構内)、宇部市(小串・常盤構内)、光市(光構内)の県内各市に分散しているが、各構内は「周知の埋蔵文化財包蔵地」内、つまり遺跡の上に立地している。各構内の様相を概観すると、吉田構内は縄文時代後・晩期から江戸時代にかけての全時代を網羅する複合集落遺跡として県内でも著名である吉田遺跡内に、白石構内は弥生時代から古墳時代を中心とした集落遺跡である白石遺跡内に、小串・常盤構内は旧石器時代から江戸時代にかけての遺物が出土する山口大学医学部構内遺跡内・山口大学工学部構内遺跡内に、光構内は縄文時代から江戸時代にかけての集落遺跡・遺物散布地である御手洗遺跡と月待山遺跡内にまたがって位置している。

このような環境の下、山口大学埋蔵文化財資料館は山口大学構内に埋存する貴重な埋蔵文化財を保護・調査・研究・活用する施設として、昭和53年(1978)に職員が配置されて以来、その重責を担い続けている。当館の平成24年度時の調査体制は以下の通りである。

まず、各構内において地下掘削を伴う工事が立案・計画された場合には、埋蔵文化財資料館専門委員会において事業計画の確認を行った後、文化財保護法の諸手続の下、山口大学各構内が位置する地方公共団体(山口県および各市)の指導により、埋蔵文化財保護の立場から本発掘・予備発掘・立会の3種の方法で調査を厳密に行っている。「周知の埋蔵文化財包蔵地」外に位置する大学関連施設(職員宿舎等)敷地内で地下掘削を伴う工事が実施される場合においても、埋蔵文化財の新規発見の可能性を考慮して、出来る限り工事掘削時に資料館員が確認調査を行っている。これらの調査に対する当館の平成24年度の職員配置は、専任教員2名と教務補佐員1名、事務補佐員1名である。

上記の調査の結果で埋蔵文化財が確認された場合には、埋蔵文化財資料館専門委員会において、遺跡のさらなる現状変更を避けるべく、工事計画、工事設計の変更等で現状保存が可能であるかどうか

表1 平成24年度山口大学構内遺跡調査一覧表

調査区分	調査名	構内地区	構内地区別	面積(m <sup>2</sup> )	調査期間	本書掲載頁
本発掘	図書館改修工事及び環境整備(図書館周辺道路迂回)工事	吉田	M-16	172	9月20日～11月14日	10-88
	教育学部附属光学校下水道接続工事	光		125.4	5月21日～8月16日	116-139
予備発掘	産業動物実験施設新営工事	吉田	S・T-10	45	7月2日～7月11日	5-9
	様野寮新営工事	吉田	O-21・22 P-22	48	11月16日～11月28日	89-94
立会	第1学生食堂増築工事	吉田	I-19・20、J-20	66.1	2月4日～3月4日	95-103
	陸上競技場トラック排水溝改修工事	吉田	D-17～19 E-17・19 F-16～19 G-16～	495	12月26日	104-106
	人文・理学部管理棟EV設置工事	吉田	M-20	42.75	9月21日	107
	農場本館事務室等改修機械設備工事	吉田	R-13 S-13	27	11月16・20日	108
	図書館改修その他工事(廃棄物プール設置)	吉田	K-10	25	1月21日	109
	国際交流会館1号館引込給水管改修工事	吉田	M・N-22	15	7月4日	110
	教育学部附属幼稚園遊具設置工事	白石		0.35	10月23日	111
	教育学部附属幼稚園園舎テラス取設工事	白石		7.9	3月13日	112
	教育学部附属山口中学校看板表示設置工事	白石		0.6	8月24日	113
	教育学部附属山口中学校テニスコート防球ネット嵩上げ工事	白石		4.8	3月27日	114
	教育学部附属山口中学校武道場新営植物移植工事	白石		3	3月12日	115
	教育学部附属光学校下水道接続工事	光		889	8月7日～11月20日 12月7日	140-203

について厳密な協議を行い、保存方法を選定している。また、調査成果については地方公共団体への報告後、内業整理等を経て可能な限り迅速に発掘調査概報(年報)を刊行している。

上記の調査体制の下、平成24年度に当館が実施した大学構内における埋蔵文化財の調査は、表1の通り、本発掘調査2件、予備発掘調査3件、立会調査11件の計16件であった。

**吉田構内**(本部、人文・教育・経済・理・農の各学部:山口市吉田1677-1、教育学部附属養護学校:同吉田3003所在)

例年通り、平成24年度の埋蔵文化財調査も吉田構内に集中し、その件数は本発掘調査1件、予備発掘調査3件、立会調査5件を数える。

図書館改修工事及び環境整備(図書館周辺道路迂回)工事に伴う発掘調査では、総合図書館2号館東に増設される3号館予定地を対象に本発掘調査を実施した。その結果、調査区内のほぼ全域が埋没河川である事が確認され、河川堆積土中から大量の弥生土器、土師器、須恵器、緑軸陶器、貿易陶磁



写真1 吉田構内航空写真(南東から)



写真2 白石構内(教育学部附属山口幼稚園・小学校)航空写真(東から)



写真3 白石構内(教育学部附属山口中学校)航空写真(南から)



図1 山口大学吉田・白石構内位置図

器などが出土した。遺物の主体は弥生時代であるが、古墳時代のものも相当数含まれている。河川は長期にわたり機能していたようで、河底に鎌倉時代の遺物が混ざる事から、豪雨の際の出水などで繰り返し堆積土が攪拌されたものと推定される。なお、これらの遺物の由来に関しては、当時の居住域である調査区北方の丘陵上から投棄されたものと推定している。また、埋没河川を覆う遺物包含層からも古代を中心とする多量の遺物が出土した。中でも表裏金具が結合した銅製鈿帯具丸軛は県内でも稀少な資料である。

予備発掘調査は、産業動物実験施設新宮、楳野寮新宮、第1学生食堂増築の各工事に伴い実施した。前2者の工事予定地では、削平および攪乱のため遺構が遺存している状態にないことが確認されたが、遺跡保存公園に隣接する第1学生食堂増築予定地では、攪乱が著しいもの埋没河川と少数のピットを確認したため、翌年度の工事時に立会調査を実施する事となった。

立会調査では、埋蔵文化財に支障が生じた工事は少なかったものの、陸上競技場トラック排水溝改修工事に伴う立会調査では、所属時期は不明であるが埋没河川と複数の溝を検出した。

**白石構内**（教育学部附属山口幼稚園：山口市白石三丁目1-2、同山口小学校：白石三丁目1-1、同山口中学校：白石一丁目9-1所在）

立会調査5件を実施した。このうち教育学部附属山口中学校武道場新宮植物移植工事に伴う立会調査では、埋没河川または谷の埋土の可能性のある土層を確認した。立会調査地の北隣では平成25年に武道場新宮に伴う予備発掘調査が予定されており、地下の基礎情報を獲得する事ができた。

**小串構内**（医学部、同付属病院：宇部市南小串1丁目1-1）

土地の掘削を伴う工事計画は立案されなかった。

**常盤構内**（工学部：宇部市常盤台2丁目16-1、尾山宿舍：同上野中町2658-3所在）

土地の掘削を伴う工事計画は立案されなかった。

**光構内**（教育学部附属光小学校、同光中学校：光市室積8丁目4番1号）

教育学部附属光学校下水道接続工事に伴い本発掘調査1件と立会調査1件を実施した。本発掘調査では、3枚の遺構面に溝、土壇、ピットなど多くの遺構が分布することを確認した。遺物としては、少数ではあるが縄文時代後晩期の土器や、古墳時代後期と見られる甕形土器、甕がまとまって出土したほか、韓式系軟質土器、陶質土器も出土した。引き続き実施した立会調査においても、敷地の広範囲においてピットや落ち込み等を検出し、縄文時代の包含層が形成されている可能性がある地点も確認した。また、検出した包含層の遺物含有量は多く、縄文時代から古墳時代までの遺物が混在するが、古墳時代中期から後期が主体である事を確認した。これらの遺物のうち、注目されるのは韓式系軟質土器、韓式系瓦質土器、陶質土器である。韓式系軟質土器には甕、鉢、甔、韓式系瓦質土器には、坏もしくは埴、鍋、陶質土器には壺もしくは甕、鉢、高坏、があり、分布状況から一時期に複数地点で使用・廃棄されていたと考えられることから、この地に朝鮮半島から来た渡来人が居住していたかもしくは立ち寄っていた可能性がきわめて高いと推定される。室積湾周辺が古柳井水道周辺と同様、古墳時代における海上交通上の重要な拠点であった根拠となる資料群である。その他、弥生時代終末期から古墳時代初頭の東海系土付甕は搬入品と見られ、県内では初確認であり大きな成果と言える。

平成24年度は、開発工事の計画はさほど多くなかったが、本発掘および予備発掘調査による対応が必要な事案が多く、開発面積も広がったこともあり、現場対応に多くの時間を割く事となった。その一方で、地域の考古学研究を促進する上で貴重な成果を得た1年であった。また、当該年度の出土遺物は膨大で、整理作業および遺物実測は平成25年度から平成27年度の3ヶ年が必要であった。



図2 小串・常盤構内位置図



写真4 小串構内航空写真（南東から）



写真5 常盤構内航空写真（南から）



写真6 光構内航空写真（北東から）



図3 光構内位置図

## 第2節 吉田構内(吉田遺跡)の調査

### 1. 産業動物実験施設新営工事に伴う

#### 予備発掘調査

**調査地区** 吉田構内S-10区、T-10区

**調査面積** 45㎡

**調査期間** 平成24年7月2日～7月11日

**調査担当** 横山成己 松浦暢昌

#### 調査結果

##### (1) 調査の経緯(図4、写真7・8)

平成24年(2012)2月、農学部より吉田構内東部、農学部附属農場牛舎・豚舎間の空閑地において、産業動物実験施設の新営計画が提出された。開発予定地周辺における既往調査の状況を見ると、昭和41年(1966)に実施された計画地の南西に隣接する牛舎新営工事に伴う本発掘調査においては、弥生時代の溝、土壇、古墳時代の堅穴住居、中世の掘立建物等が発見されているのに対し、平成7年(1995)に実施された西に隣接する牛舎新営工事に伴う予備発掘調査においては埋蔵文化財が検出されていないことから、予備発掘調査を実施し、開発予定地の地下の様相を確認する必要があると判断し、その旨平成23年度第4回埋蔵文化財資料館専門委員会(平成24年2月15日開催:メール審議)に諮り、了承された。

調査においては、予定地に対し幅2m、南北長9m、東西長15.5mのL字形トレンチを設定した。

#### 【註】

- 1) 小野忠熙(1976)『山口大学構内 吉田遺跡発掘調査概報』  
小野忠熙(編),山口
- 2) 報告書未刊行

##### (2) 調査の経過

調査は平成24年7月2日から11日の期間で実施した。7月2日に重機掘削、7月4日および9日に地山面精査および調査区断面精査を行い、7月10日には諸記録作業を終了した。翌7月11日に埋め戻し作業を行い、調査を終了した。



図4 調査区位置図



写真7 調査地遠景(北から)



写真8 調査前全景(南西から)

## (3) 調査成果(図5・6、写真13~18)

調査の結果、調査区内全域において地山の削平・攪乱を受けており、旧地形をとどめていないことを確認した。また、検出した地山面に遺構を確認することはできず、遺物の出土も見られなかった。なお、東西トレンチ東部は大きく攪乱を受けており(写真13・14)、地山の確認を断念した。

層序については、現表土下に最大6層の造成土が盛られており、造成土直下は地山となっているが、東西トレンチ東端部にてわずかに確認された地山上の灰オリーブ色弱粘質土は水田の床土である可能性が残る。地山は、明黄褐色シルト下ににぶい赤褐色シルト、さらに下位に灰オリーブ色岩盤風化土が確認された。

開発予定地の削平および攪乱に関しては、現在は解体されているがかつてこの地に存在した牛舎や、当調査時に東に隣接して存在した豚(牛)舎の建設に伴うものと推測される。前者は昭和43年(1968)、後者は昭和48年(1973)に竣工しているが、埋蔵文化財保護対応を行ったという記録は残っていない。前述したように、調査地の南西に隣接する地で昭和41年(1966)に実施された牛舎新営に伴う発掘調査(吉田第IV地区)では、削平は受けているものの方形の堅穴住居跡や柱穴、溝などが検出されている(写真9~12)ことから、今回調査地周辺において埋蔵文化財が遺存した可能性は否定できない。本学の埋蔵文化財保護体制が不十分であった時期のことは言え、極めて遺憾である。

## 【註】

- 1) 小野忠熙氏により実施された牛舎新営に伴う発掘調査(吉田第IV地区)に関しては、来年度刊行の山口大学埋蔵文化財資料館年報にて詳細を報告する予定である。



写真9 建設中の農学部附属農場本館（南西から）

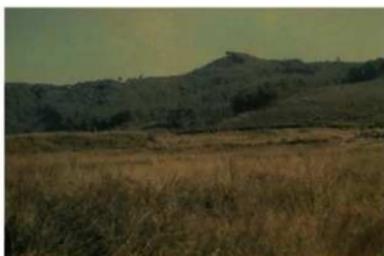


写真10 吉田第IV地区調査遠景（南西から）



写真11 吉田第IV地区調査風景（西から）



写真12 吉田第IV地区調査風景（北東から）

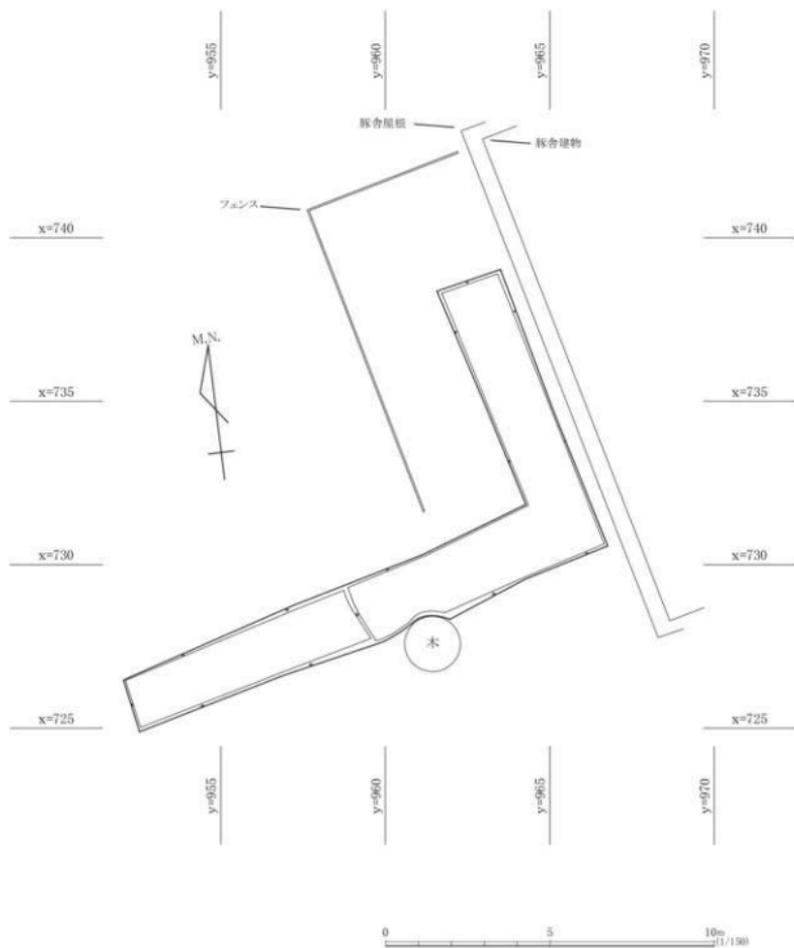
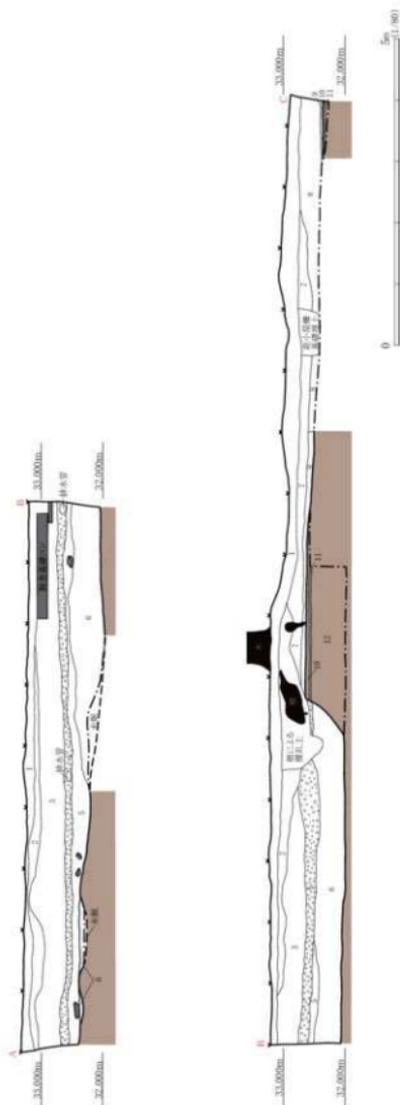


図5 調査区平面図



- |   |                              |
|---|------------------------------|
| 1 黒褐色 (10YR2/2) 粘質土…粘土                        | 9 灰リリープ色 (5Y6/2) 弱粘質土…旧床土か   |
| 2 灰色 (5Y5/1) 砂質土…道成土1                         | 10 明黄褐色 (2.5Y7/6) シルト…地山     |
| 3 灰土…道成土2                                     | 11 にこい赤褐色シルト…地山              |
| 4 砕石…道成土3                                     | 12 灰リリープ色 (7.5Y6/2) 岩盤風化土…地山 |
| 5 にこい紫色 (7.5Y6/4) 礫・コンクリート混雑土…道成土4            |                              |
| 6 明黄褐色 (2.5Y5/4) 砂質土 (1~4mmの山砂利) …道成土5        |                              |
| 7 明紫褐色 (10YR6/6) 硬質粘土…道成土6                    |                              |
| 8 灰黄色 (2.5Y6/2)・灰褐色 (7.5YR4/2) 等基なる硬質粘土…礫乱埋理土 |                              |

図6 調査区土層断面図



写真13 東西トレンチ完掘状況（西から）



写真14 東西トレンチ西端部南壁土層断面（北西から）



写真15 東西トレンチ中央部南壁土層断面（北から）



写真16 南北トレンチ完掘状況（南から）



写真17 南北トレンチ北端部東壁土層断面（北西から）



写真18 南北トレンチ南端部東壁土層断面（南西から）

## 2. 図書館改修工事及び環境整備(図書館周辺道路迂回)工事に伴う本発掘調査



図7 調査区位置図

調査地区 吉田構内M-16区

調査面積 172㎡

調査期間 平成24年9月20日～11月14日

調査担当 横山成己 松浦暢昌

## 調査結果

## (1) 調査の経緯(写真19・20)

吉田構内総合図書館北東隅空地において図書館建物の増築が計画された。総合図書館敷地においては、1号館(昭和45年竣工)建設時は埋蔵文化財保護対応が確認できないものの、建物北方に2号館が建設される際には本発掘調査が実施され、3枚の遺物包含層と護岸の杭列が施された自然河川ほか溝7条、土壌5基、柱穴が確認されている。今回の開発予定地は2号館の東隣接地であり、地下の埋蔵文化財に抵触することは確定的であったが、増築場所に選択の余地もなかったため、開発予定地全域に本発掘調査を実施する運びとなった(平成23年度第5回埋蔵文化財資料館専門委員会にて承認)。

## 【註】

1) 河村吉行(1985)「中央図書館増築予定地M-16区の発掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報Ⅱ』,山口

## (2) 調査の経過(図6、写真23～25)

調査は、平成24年9月20日に着手した。大学移転時の造成土を重機により除去することより始めたが、2号館増築に伴う本発掘調査にて報告された旧耕作土および遺物包含層の検出高より1m以上高位に旧耕土・床土・遺物包含層上面が検出されたため、調査区南西部を部分的に掘りすぎてしまった(写真21参照)。その後、下位の堆積層は全て人力により慎重に掘削を進めることとなったが、調査区西端部は図書館2号館増築、また調査区北端部は共同溝の埋設のため大きく攪乱を受けており、土層の確認が不可能であったことから、調査区中央よりやや西側と調査区東側にそれぞれ土層観察用のアゼ



写真19 調査地遠景(北から)



写真20 調査前全景(東から)

を設けた。結果的に遺物包含層の下位は調査区のほぼ全域が自然河川であることが確認され、河川埋積土からは大量の遺物が出土した。調査はほぼスケジュール通りに進んだが、調査終了予定日までに土層観察用のアゼを除去することが困難な見込みとなったため、本学開発部局である施設環境部をはじめ大学情報機構および図書館との協議の上、5日間調査を延長し、アゼを完全に除去し、遺物を回収することとなった。11月8日までに調査諸記録までの作業を終え、11月9日より埋め戻し作業を開始し、11月14日に埋め戻しを終了した。

### (3) 基本層序(図9・10、写真35～41)

調査区の基本層序は、①造成土(約100cm)、②旧耕土・床土、③遺物包含層(約10～20cm)、④自然河川堆積土(最深約130cm)である。調査区中央西部は図書館2号館大走りに降下する階段取設時に破壊を受けたようであり、地山まで大きく抉られていた。その他の範囲も大学造成時にある程度削平を受けているようで、旧耕作土は調査区南部にのみ遺存する状況であった。調査区北部から南東部にかけては遺物包含層上部も削平を受けている。調査区の南東端部および北西端部に地山の高まりが検出されており(写真22参照)、これが河川の両岸に当たる。調査範囲で見られる限りは河川は東北東-西南西方向に走っているようである。河川両岸の距離は約15m、河川の深度は最深部で約130cmを測る。なお、遺物包含層と河川堆積土の区分に関しては、第3層と部分的に見られる下位の第4層が明確に地山を覆う(写真41参照)ことから、これを河川完全埋没後の堆積層と判断した。地山は黄～灰色またはオリーブ色のシルト層であるが、部分的に砂礫となっている。側溝を掘り下げ遺物の有無を確認したが、無遺物層であったことからこれも地山と認定した。

河川の埋積状況は極めて複雑であるものの、大別すると上層の黒色系シルト層と下層の灰～褐色系砂礫層とに区分される。河底の堆積土は水流の痕跡を明確に示しており、出土遺物は弥生時代のものが9割以上を占める。しかし、古墳時代以降の遺物も認められ、断続的に大雨による急激な出水、増水等で攪乱削平・再堆積を繰り返していることが土層断面からも観察される。このような状況下で、出土した遺物相から見ると調査区内では古墳時代後期より南から徐々に河川の埋没が進行し、流路が北方に移動しつつ室町時代初頭にはほぼ埋没を終えたと推定されるのであるが、あくまでも遺物相からの推測であり、土層観察からはその状況を看取できない。

### (4) 遺構(図8・11、写真42～44)

前述の通り、調査区のほぼ全域が埋没河川である。河川両岸の地山の高まりに平面的に遺構を検出することはできなかったが、調査区東壁断面に河川堆積土上から掘り込まれたピット状の遺構が確認されている(図9参照)。河川堆積土掘削開始時に湧水を除去するため調査区周囲に側溝を設けたため、遺構の平面形を確認することができなかった。

河底では、調査区南西端部に南北に並ぶ2基の環状杭列(杭列1・2)を検出した(写真42参照)。南方の杭列1は列の南西部を欠失するが、環の直径約は90cmを測る。北方の杭列2はやや小ぶり、環の直径は約40cmを測る。いずれも地山面にて検出しており、河川の埋没以前に設けられたものである。所属時期に関しては、杭列1に沿う位置に古墳時代後期のほぼ完形の須恵器環身が2点出土しており(図20の250・251、写真33参照)、同一層の42層(図10参照)にはそれ以降の時期の遺物が含まれないことから、上限の一端を推定することも可能であるが、基本層序で述べたように観察できた限りの層序からは保証できない。この杭列の機能については、類例が乏しく断定できないが、アユやウナギなどの小魚を

吉田橋内(吉田道路)の調査

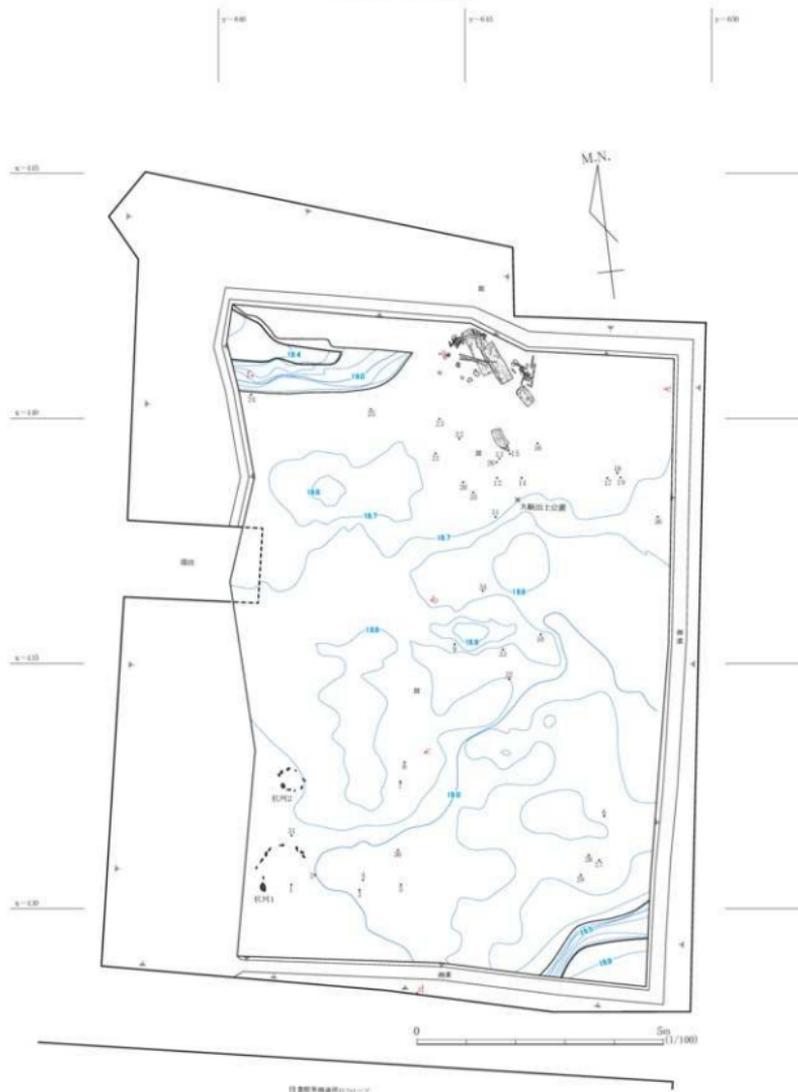


図8 調査区平面図







写真 21 遺物包含層検出状況（南東から）



写真 22 河川埋土完掘状況（南東から）



写真 23 重機掘削風景 (南東から)



写真 24 作業風景 (南東から)



写真 25 作業風景 (西から)



写真 26 南西区 41 層遺物出土状況 (南東から)



写真 27 北西区 50 層遺物出土状況 (南西から)



写真 28 南西区 49 層遺物出土状況 (北西から)



写真 29 南北アゼ 59 層遺物出土状況 (東から)



写真 30 河底遺物出土状況 (南から)



写真 31 河底遺物出土状況 (北西から)



写真 32 河底遺物出土状況 (西から)



写真 33 河底遺物出土状況 (南東から)



写真 34 河底遺物出土状況 (南東から)



写真 35 調査区東壁土層断面 (北西から)



写真 36 調査区南壁土層断面 (北から)



写真 37 東西アゼ西側南面土層断面 (南から)



写真 38 東西アゼ東側南面土層断面 (南から)



写真 39 南北アゼ北側東面土層断面 (東から)



写真 40 南北アゼ南側東面土層断面 (東から)



写真 41 東西アゼ西側北面土層断面 (北から)



写真 42 杭列1・2 (北から)

捕獲する定置漁具と推定している。

この他、調査区の北端部中央やや東よりに木が集中して検出された(図11、写真43～44)。木の多くは板材など木製品の未成品または自然木の枝で、水流で自然に集積したとは考えられない状態であった。平面的に掘り込み範囲を確認できたわけではないが、東西アゼで土層を観察すると、河川最下層の褐色粘土混じり砂礫層(61層)を切り込んで木製品集中層である黒色粘土質砂層が形成されていることから、河川の右岸(丘陵側)付近に設けられた木器溜め土壌と推測される。土壌の規模は、木製品の分布から最大で南北幅約2.5m、東西幅で約2mが推定される。当遺構の所属時期に関しては、河川最下層(61層)に13世紀～14世紀代と見られる土師器坏・皿が混ざっていることから、その上限年代を推定することが可能となっている。

#### 【註】

1)木製品集中部は、当初東西アゼ北辺に河川堆積層確認のために入れたサブトレンチにて確認された(写真43参照)。人為的な掘り込みの存在を想定して調査を行ったが、平面的に木製品が集中する堆積層と上位の黒褐色シルト質砂層とを区別することは困難であった。また、サブトレンチで木製品を検出した10月9日以降、濡れタオルをかけ資料の保存に努めたが、河川堆積土の腐削が長期間に及んだため、遺物取り上げ時までの約1ヶ月間で劣化が進行することとなった(写真44参照)。

#### (5) 遺物(図12～40、写真45～62、表2～6)

河川堆積土に包含されていた遺物は大量で、狭小な調査区であるにもかかわらず深型遺物収納コンテナ(60×37×14cm)で20箱にのぼる。調査ではできる限り層位的な掘削を試みたが、急激な増水や出水で度重なる攪拌を受けた堆積土は複雑な様相を示しており、厳密な意味では層位的な遺物の取り上げを行っていない。取り上げ時の土層と最終的な土層断面図との照合は現地調査後に行い、各遺物の所属層を最終的に決定している。

#### 【土器】

##### 3層出土土器(図12～14、写真45～49)

3層は河川が完全埋没した後に堆積した遺物包含層である。大量の土器が出土しているが、細片が大多数であり、完形復元可能な資料は存在しない。遺物相の特徴として、古墳時代以前の遺物が極めて少なく、古代に所属する遺物が大多数を占める。

1は縄文時代晩期の深鉢口縁部片。今回の調査で唯一確認された縄文土器である。6～8は土師器の甕または甕の把手。9は器形不明の土師器。天地も不明。10～69は須恵器。確実な古墳時代の須恵器は存在しない。蓋は口縁部がほぼ垂直に下垂するタイプ、口縁が外方に屈曲して端部が鳥嘴状に下垂するタイプ、口縁端部の下垂がほぼ見られないタイプが存在する。高台付坏は断面方形の小ぶりな高台が付くタイプが主体であるが、外方に長く張り出す古手のタイプ(38)も存在する。70～77は緑釉陶器。70は吉田遺跡では稀な須恵質の緑釉陶器の口縁部片。今回の調査では緑釉の発色が良好な資料が複数出土している。78・79は内面に布目を残す六連式製塩土器体部片。80は黒色土器A類形の口縁部片。81・82は青磁。81は龍泉窯系の碗口縁部片。84～89は白磁皿・碗の口縁部片。遺跡ではこれまでも調査区北方丘陵周辺において多数出土している。90～114は土師器坏。高台は断面三角形の小ぶりなものが主体だが、長方形のもの(112)も存在する。多くは内面にミガキが施されており、ミガキが外面に及ぶものも存在する。115～125は土師器坏。底部片であり、回転糸切り痕を明瞭に残すものとナデ消しが図られるものがある。119は焼成後人為的に底部に穿孔が行われた可能性がある。126～128は皿。128は高い円盤高台を有する皿で、吉田遺跡では出土数が少ない。129は瓦質土器羽釜の口縁部片。図

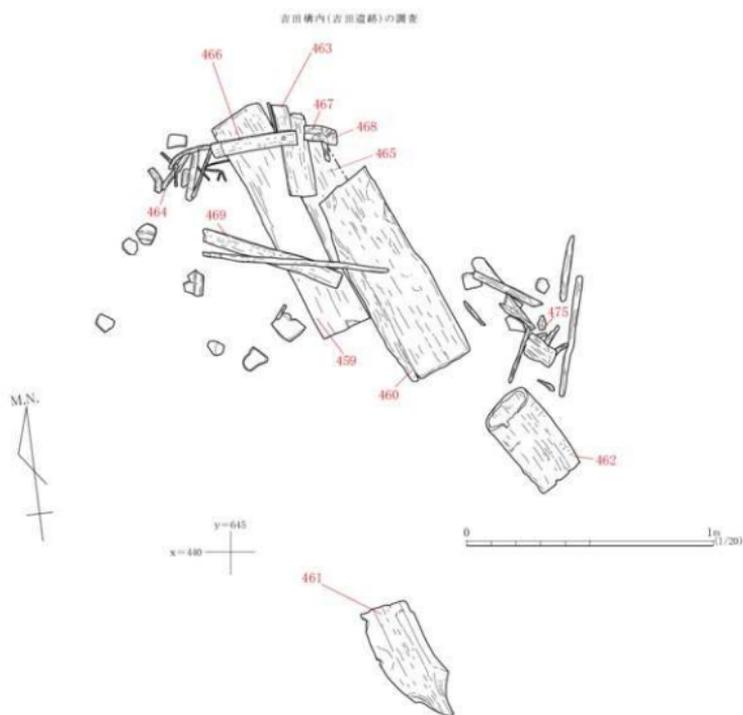


図 11 調査区北部木製品出土状況平面図



写真 43 調査区北壁断ち割り部木製品検出状況(北から)



写真 44 調査区北部木製品検出状況(北東から)

化した瓦質土器は1点であるが、体部片は複数存在する。

#### 4層出土土器(図15・16、写真49・50)

3層の下位に堆積する層で、調査区の南半部にのみ確認される遺物包含層であるが、3層とは異なりシルト質の地山を取り込んでいる。3層同様古墳時代以前の遺物は極少量である。

130・131は弥生土器。130は壺の体部片で、突帯下に有軸羽状文を施文する。132～135は土師器。135は甕または甕の把手で、3層出土資料と同形態のものである。136～151は須恵器で、136～140は蓋。136はボタン状つまみが付く扁平な蓋で、内面に平行する2本のヘラ記号が見られる。137はドーム状の天井からなだらかに口縁に降下する蓋で、口縁は上端に沈線が施される。141～147は坏。141のみ古墳時代の坏身で、他は古代に所属する。高台付坏144は断面方形の高台が底部外端の内側に付くが、高台内端に一部布目が付いている(写真49-144-2)。145も高台付坏であるが貼り付け部から高台が剥離している。152は緑釉陶器皿の口縁部片。内外面とも緑釉が明瞭に残る。153は同安窯系青磁碗の体部片。154～160は土師器の埴と坏。160の坏底部には回転糸切り痕が残る。161・162は瓦質土器。161は炭素の吸着があまり土師質焼成の足鍋脚部片。162は羽釜の鏝部片。163・164は土師質土器。163は外面に煤が付着しており、鍋と見られる。165は器種不明の土師器端部。外面にタテハケが、内面には斜め方向のミガキが施されている。

#### 5～5'・5～6層出土土器(図17、写真50)

南東部遺物包含層下位の河川堆積層で、最上層に位置付けられる。調査区南東部にある流路堆積層の上層から出土したものであるが、土器様相は上位の遺物包含層と変わらない。5層と5'層は遺物包含層3・4層直下層で、同一層である可能性が高い。

166～170は土師器。170は橙色系の土師器皿で、河川の完全埋没時期を示すものと理解している。171～174は須恵器。時期幅が大きく、古墳時代から平安時代までの須恵器が混在している。175は白磁の皿もしくは碗。

#### 5～9層出土土器(図17、写真50)

南北アセ西側に設けたサブレンチから出土したもので、層位の確定ができない資料である。なお、南東流路堆積層から出土する遺物の下限は古墳時代後期であり、それ以降の遺物は見られない。

176・177はいずれも弥生時代前期の甕口縁部小片。176は口縁端部全面に、177は口縁下端に細かな刻みを施す。178・179は須恵器甕体部片。同一個体と見られ、外面は平行叩きが施されるが、内面の当て具痕は観察できないほど丁寧なナゲ消しが図られている。初期須恵器と見られる。

#### 6～7層出土土器(図17、写真51)

南東部流路の中位層から出土したものである。

180～182は弥生土器。180は前期中葉の有段壺口縁一頸部片。181・182は中期、終末期の甕口縁一頸部片。183～190は土師器。183～185は甕。185はほぼ完形に復元できる古墳時代前期の甕で、球形の体部がい面にタテハケ、内面にケズリを施す。直立する頸部を有し、口縁を外反させる。187～190は古墳時代前～中期の高坏。

#### 7～9層出土土器(図18、写真51・52)

南東部流路の中位～下層にて出土したものである。この流路は南東～北西方向に走っているようで、9層が最下層となる。

191～194は弥生土器の甕と壺。191は中期の甕の口縁一頸部片で、口縁下端に刻み、口縁下に9条の沈線を施し、下位に山形文を施している。195～197は土師器。196は古墳時代前期の甕。球形の体部

吉田溝内(吉田遺跡)の調査

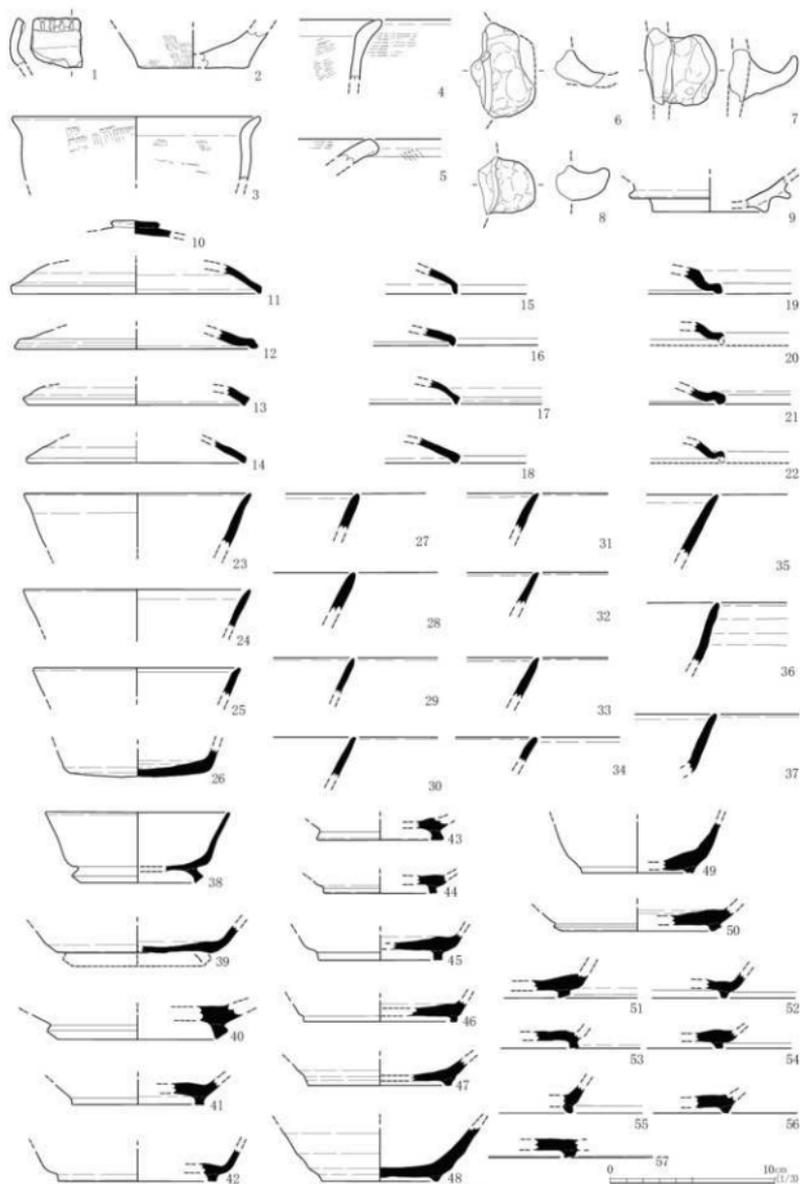


图 12 3層出土土器実測図①

吉田溝内(吉田遺跡)の調査

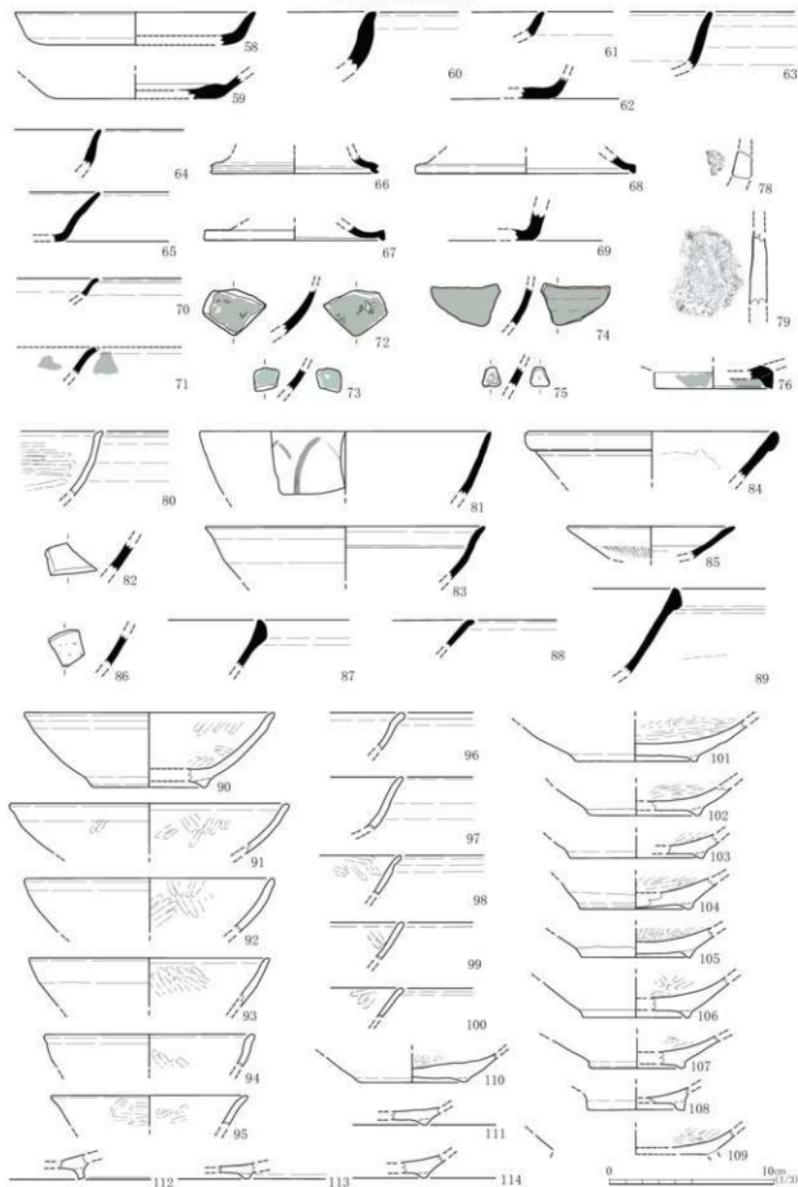


图 13 3層出土土器実測図②

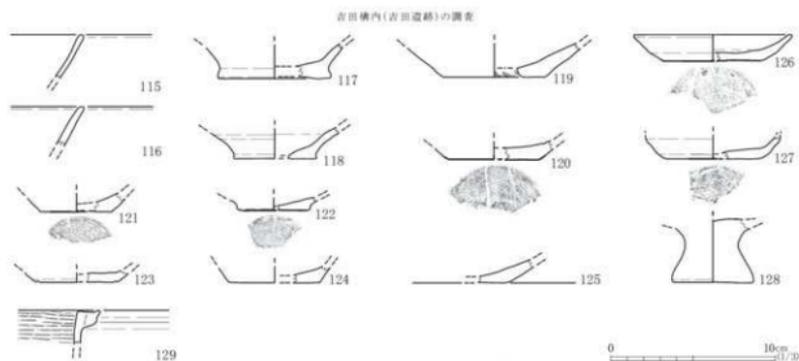


图 14 3層出土土器実測図③

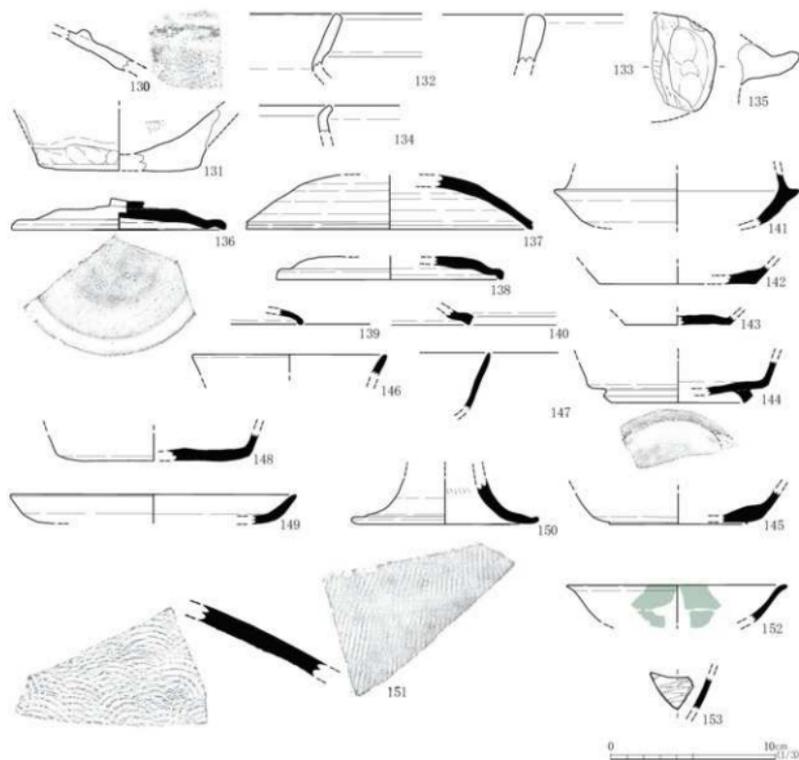


图 15 4層出土土器実測図①

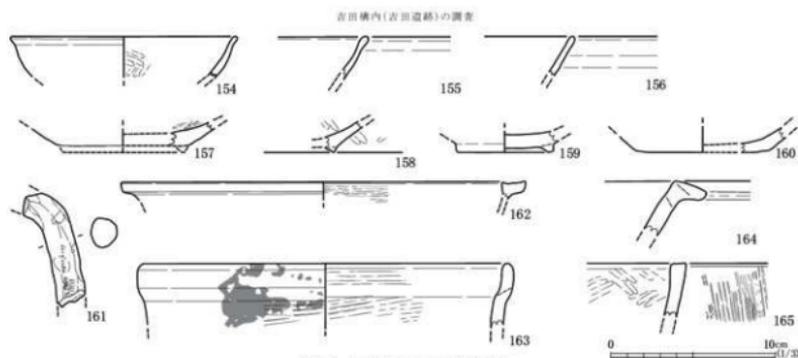


図 16 4層出土土器実測図②

外面にハケを施す。内面は剥離が著しいが、体部上位に横方向のケズリが観察される。197は古墳時代中期の高坏裾部片。198は須恵器壺体部片。外面平行叩きをヘラで間隔を開けナデ消している。内面は丁寧にナデが施されている。

#### 9層出土土器 (図18・19、写真51～53)

調査区南東流路最下層出土として取り上げたものである。層中の遺物包含量は多く、遺物の遺存状態は良好であり、器面の摩耗が少ないという特徴を持つ。

199～219は弥生土器。199～201は壺肩部片で、199は有軸、200は無軸の羽状文が、201には木の葉文が施されている。204は弥生時代中期の垂下口縁壺の口縁部片。211は弥生時代終末期の台坏鉢。内外面ともマガキが施されている。212・213は鋤先口縁の甕口縁部片。前者は内外面に丹塗りがなされ、後者は外面に丹塗りが残る。213は口縁下の突帯が剥離している。220～232は土師器。220は古墳時代前期の山陰系の複合口縁甕。図19の上下に並べた224は胎土や焼成具合から同一個体と見なした。226～231は高坏。いずれも古墳時代中期と見られる。232は吉田遺跡で初例となる移動式竈の焚き口上部片。乱雑なつくりで、ナデや指押さえて調整されているが、部分的にハケが残っている。内外面とも煤が付着している。

#### 16・17層出土土器 (図20、写真53)

調査区南東部の河川下位砂礫層から出土したものである。

233～237は弥生土器。233・234は壺の体部片で、233は多重沈線下に重弧文が、234は多重沈線上位に無軸羽状文が背紋されている。238～241は土師器。238・239は古墳時代前期の高坏。隣接して出土し(写真34参照)、同一個体と見られるが接合しない。240も高坏の坏部であるが、古墳時代中期と見られる。241は山陰系の鼓形器台で、口縁と裾部を欠失する。

#### 42・44・45層出土土器 (図20・21、写真53・54)

調査区南西部の河川下位砂礫層から出土したものである。44・45層が42層に切られているが、平面的に見分けることは困難であった。

242～249は弥生土器。242は弥生時代中期の壺頸部片。248・249は弥生時代後期または終末期の高坏。250は土師器甕の体部片。251～253は須恵器で、251・252は杭列1横に並んで出土した古墳時代後期の坏身。253は初期須恵器の甕底部。5～9層出土の甕と同様の特徴を持ち、接合しないが器壁の厚さからも同一個体と見てよい。底部は上げ底となっている。

吉田橋内(吉田遺跡)の調査

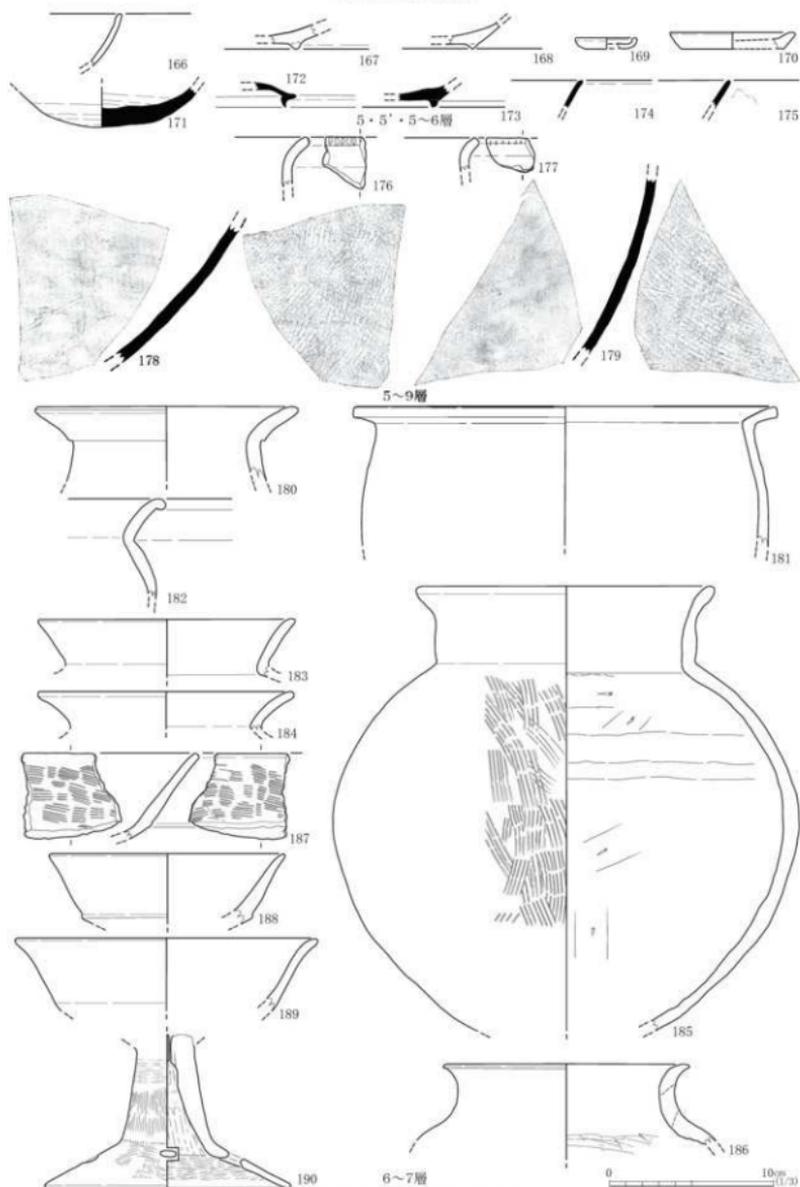


图 17 河川堆積土出土土器実測図①

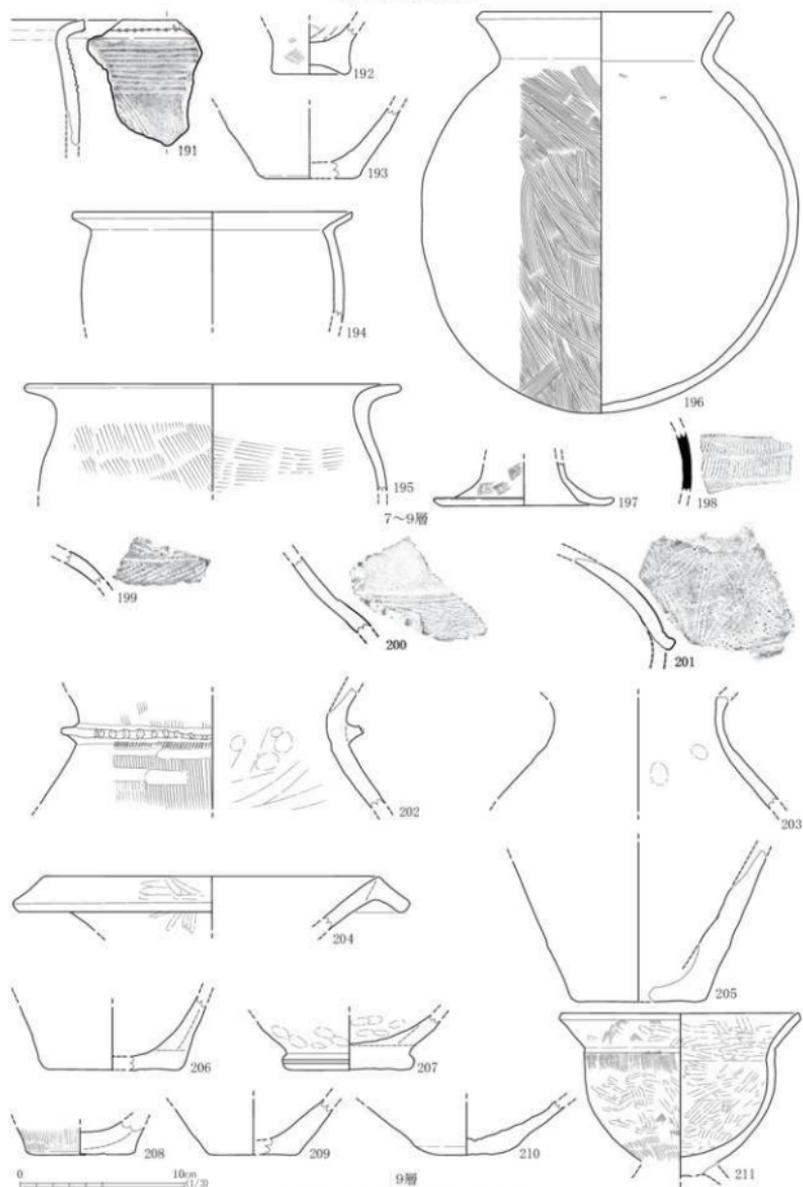


图 18 河川堆積土出土土器実測図②

吉田橋内(吉田遺跡)の調査

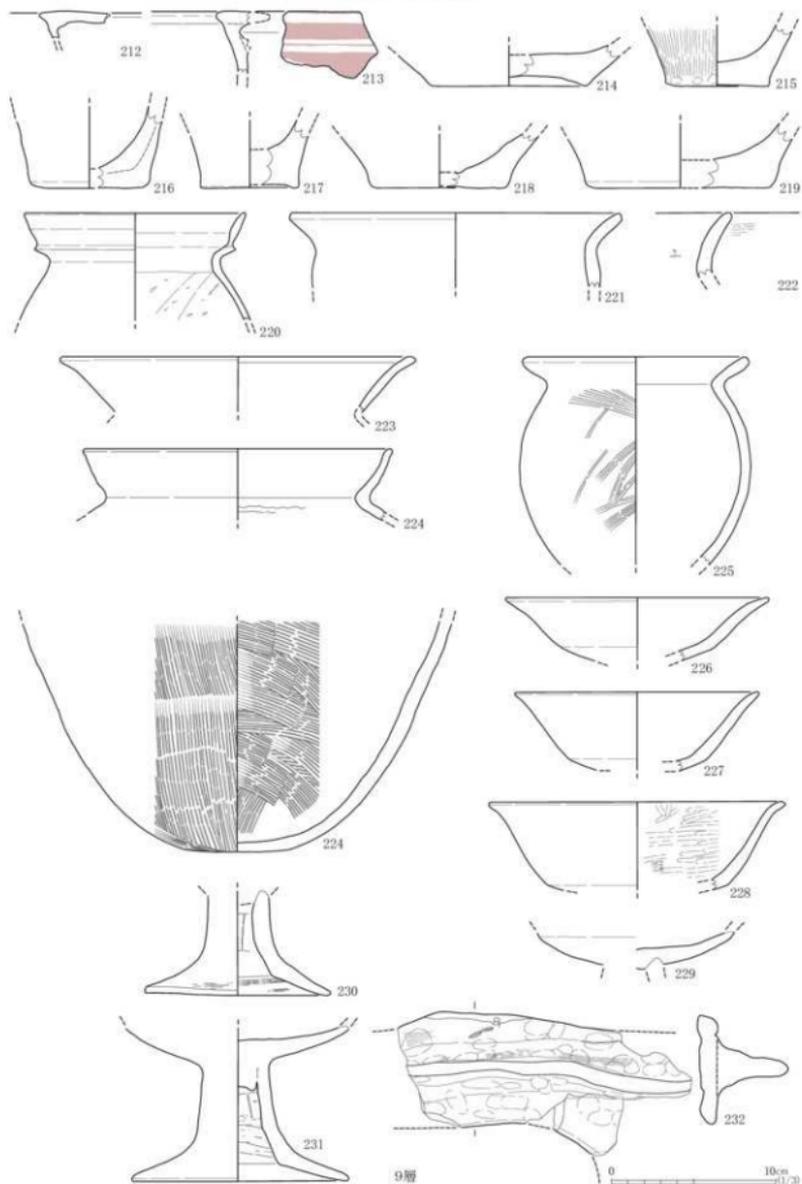
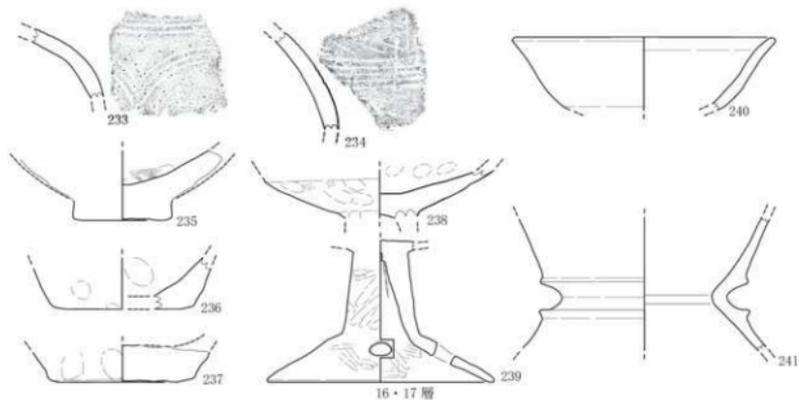
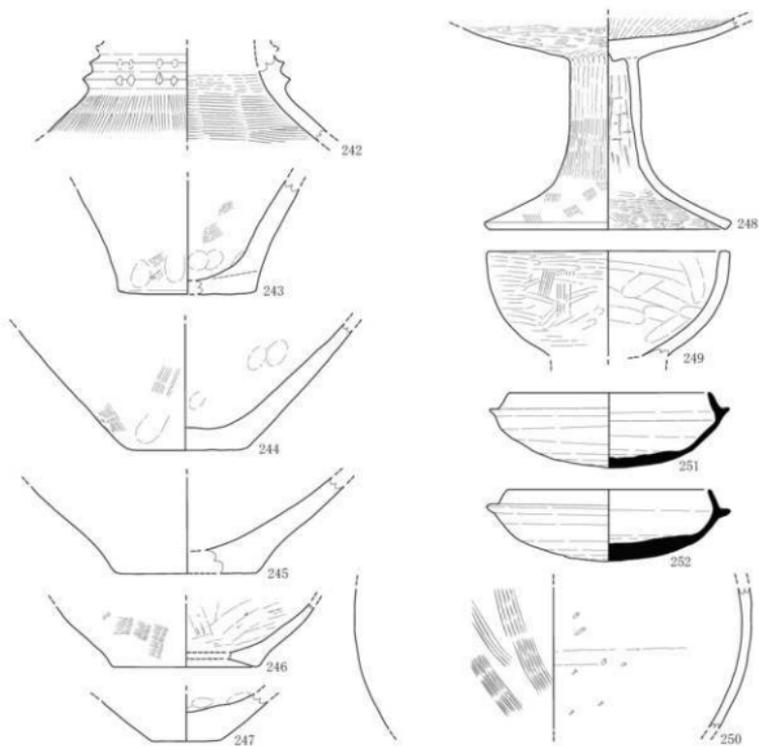


图 19 河川堆積土出土土器実測図③

吉田橋内(吉田遺跡)の調査



16・17層



42・44・45層

図20 河川堆積土出土土器実測図④

0 10cm  
0/30

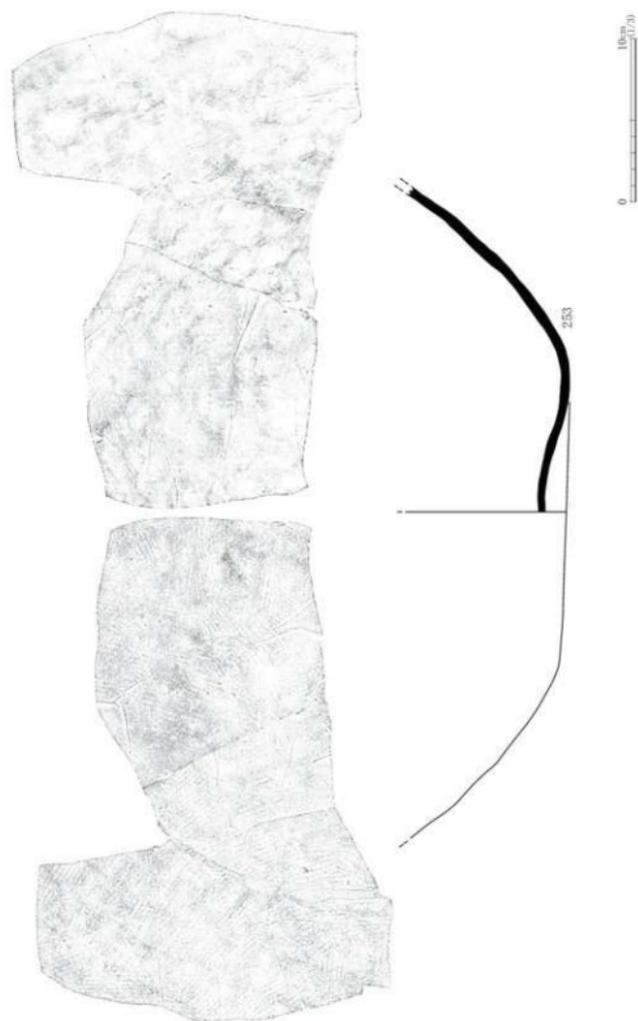


図 21 河川堆積土出土土器実測図⑤

## 調査区北部東西アゼ・南北アゼの包含層・河川堆積上部層(図22、写真54・55)

調査最終盤に取り除いたアゼに包含されていた遺物である。時間的な制限から層ごとに遺物を回収する余裕がなく、遺物包含層(3層)と河川堆積土上部黒色シルト層が混ざっている。

254～260は弥生土器。254・255は弥生時代中期の壺口縁部片で、前者は北部九州系、後者は須玖系。256は外面に丹塗りされた壺の胴部片。突帯が貼り付けられており、内面は丁寧にミガキが施されている。260はコップ形土器。珍しい器形であり、底部の形態から弥生時代中期のものである可能性が高いと思われるが特定できない。261～265は須恵器。いずれも古代に所属する。266～272は土師器の甕、坏、埴。273は緑釉陶器底部片。内外面と高台畳付きに軸が遺存する。274は瓦器埴底部片。断面方形の低い高台が付く。和泉型と見られる。

## 18～30層出土土器(図22、写真55)

調査区北東部の河川堆積上部黒色シルト層出土のものである。

275・276は弥生土器。275の底部には、網目状の圧痕が残る。277・278は古墳時代の土師器。279～282は須恵器。282の高坏は吉田遺跡に多いタイプであるが、脚柱部の沈線がやや下位に施されている。283～285は土師器の埴と坏。284・285の坏底部には回転系切り痕が残る。

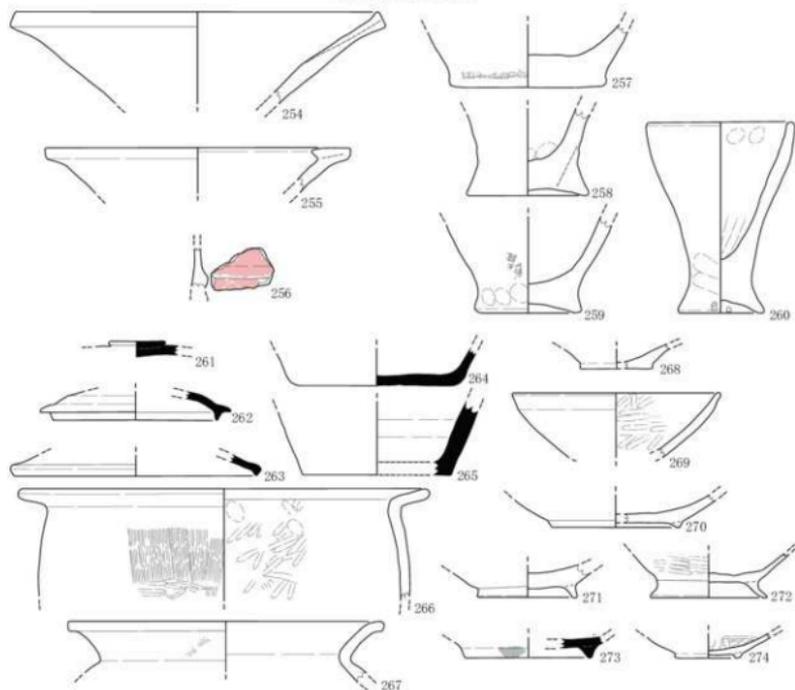
## 31～37層出土土器(図23、写真55・56)

286～294は弥生土器。壺胴部286は二枚貝の腹部で平行沈線と無軸羽状文が施されている。287は垂下口縁壺の口縁部片。288は腹部にM字状突帯を貼り付ける壺の体部片。295・296は須恵器の坏底部片と高坏坏部片。297～301は土師器の坏または皿。300・301には回転系切り痕が残る。

## 49～54・56・57層出土土器(図24～26、写真56～58)

302～330は弥生土器。調査区北東部の河川堆積上部黒色シルト層出土のものである。302～307は壺。302は胴部片で、平行沈線と無軸羽状文が施されている。303は頸部突帯に二枚貝腹部による斜格子文が施文される。304は低いM字状突帯と円形浮文が貼り付けられる。305は二枚貝の腹部で2条の平行沈線を上下に施し、内部を無軸羽状文で充填している。307は頸部を欠失しているが、須玖系の小型壺で、腹部にM字状突帯を1条貼り付ける。311～329は甕。311～318は弥生時代中期。311・312はほぼ水平に屈曲させた口縁の下端に刻みを施す。312は体部の2条平行沈線間に刺突が施される。313～317は跳ね上げ口縁の甕。318はくの字状に屈曲させた口縁端部に面を形成する甕。319・320は弥生終末期のもので、319は尖り気味の底部を有する。体部の外面調整は両者ともタテハケであるが、内面は前者はハケ後ナデ、後者はケズリが施されている。330は粗製の鉢。331～338は古墳時代の土師器。331はほぼ完形に復元できた古墳時代前期の甕で、やや下膨れであるがほぼ球形の体部を有し、口縁は直線的に外方に開く。口縁は内外面ともナデ、体部外面はタテハケ後乱雑なナデ、内面は下部にタテハケ、上部にヨコハケが施され、下部は丁寧にナデ消しを行うが上部のナデは乱雑である。333は古墳時代前期の高坏。334は口縁が内傾する器形で、器種を特定できないがここでは鉢としておく。336～338は古墳時代中期の高坏。339～353は須恵器。339だけが古墳時代のもので、他は古代に所属する。339はここでは坏身としたが、底部外面の処理が比較的丁寧であることから坏蓋の可能性もある。340・341は蓋で、前者は口縁端部を垂直に、後者は外方に下垂させる。342～350は坏。346は底部に直線のヘラ記号が施される。347～349は高台付坏底部片。いずれも底部外端に退化した低い高台が付く。350は高台付きの皿か。351・352は高坏。351は外方に開きながら内湾して立ち上がる坏部であるが、口縁は屈曲して直立気味に立ち上がる。352は坏底部と脚部が遺存する。脚部沈線が中位からやや上位に付く吉田遺跡出土高坏に通常のタイプである。353は長頭壺頸部片。354・355は緑釉陶器。皿と見られる355は須

吉田橋内(吉田遺跡)の調査



調査区北部東西アゼ・南北アゼの包含層・河川堆積土上部層

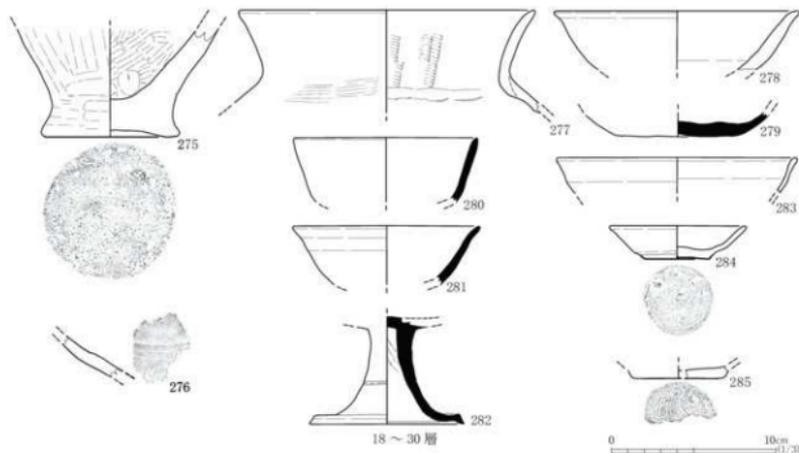


図 22 河川堆積土出土土器実測図⑥

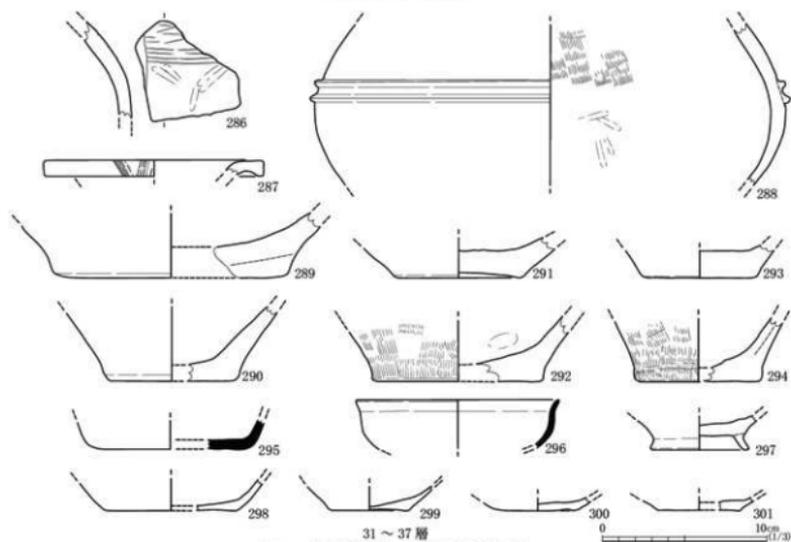


図23 河川堆積土出土土器実測図⑦

恵質であり、軸ののりが悪い。356は白磁碗。357～365は土師器。457～361は埴で、断面長方形の比較的に長い高台が付くもの(357・358)、断面方形の短い高台が付くもの(359)断面三角形の形骸化した高台が付くもの(360)がある。362～365は皿と坏で、いずれも回転糸切り痕が残る。

#### 北区南北アゼ西側断ち割り46～55層出土土器(図26、写真58・59)

調査区北西部の河川堆積層の層位と地山確認のため、南北アゼ西側を深掘りした際に出土したもので、層位を特定できない資料である。

366～368は弥生土器。壺口縁366は垂下口縁壺と瀬戸内系壺の折衷形態で、垂下部外面に凹線と山形文が施されている。367は瀬戸内系の壺頭部片。外面はタテハケの上から残存部で9条の沈線が施されている。368は外面に丁寧なミガキが施されている壺底部片。369は平底無高台の須恵器坏。

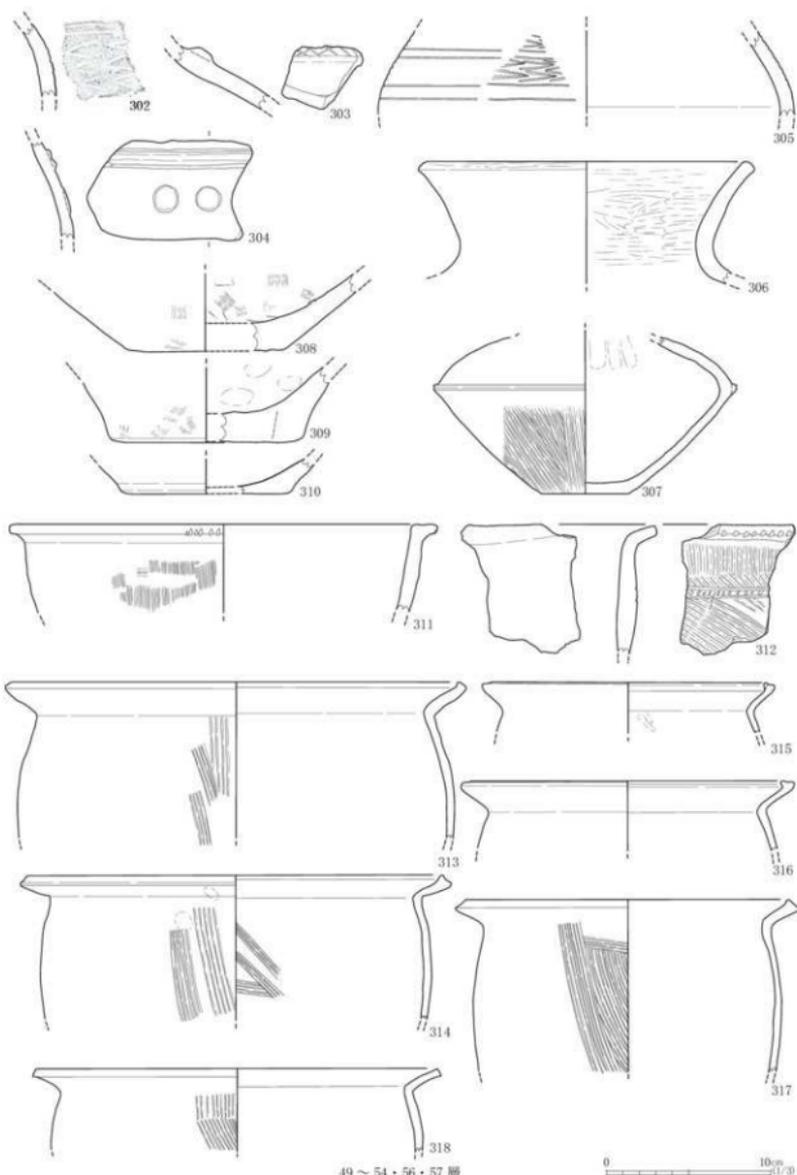
#### 38・39層出土土器(図27、写真59)

調査区北部東端部の河川最下層(砂礫層)から出土したものの。遺物量的には少ないが、弥生時代から鎌倉時代までの遺物が混在する。

370～375は弥生土器。370・371は弥生時代前期の甕口縁部片で、口縁部全面に刻みを施す。372は腹部にM字状突帯を巡らす垂下口縁壺の体部片。375は底部片であるが、焼成後底部中央に人為的に穿孔したかのようにも見える。376は古墳時代中期の土師器高坏坏底部一裾部。377は土師器皿。底部は回転糸切り後軽くナデが施されている。鎌倉時代(13世紀)に所属するものと思われる。

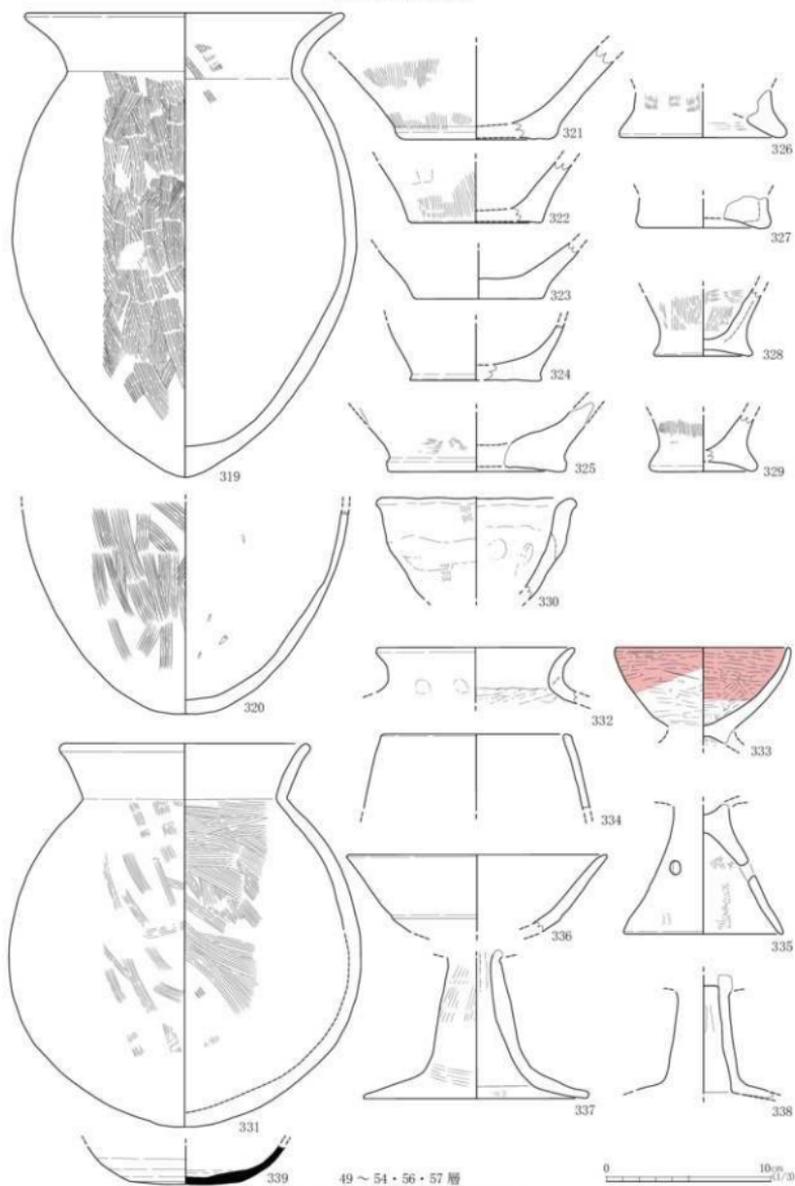
#### 55・61層出土土器(図27、写真59)

調査区北部中央～西部の河川最下層(砂礫層)から出土したものの。基本的には51層で取り上げを行っているが、61層と判別が付かず取り上げたものもここに掲載する。詳細は遺物観察表を参照いただきたい。



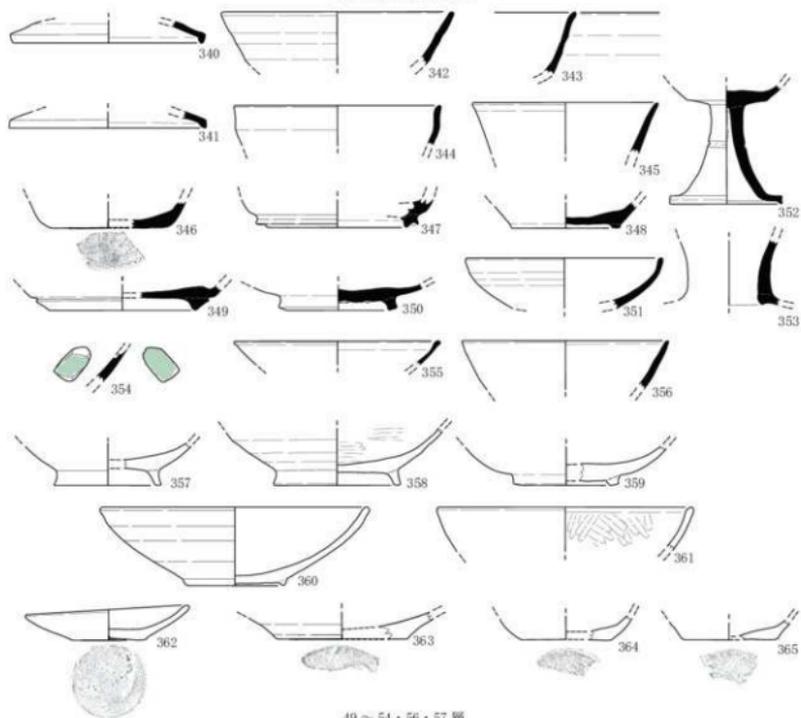
49 ~ 54 · 56 · 57 層

图 24 河川堆積土出土土器実測図⑧

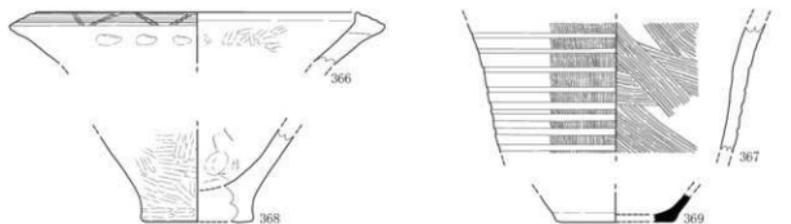


49 ~ 54 · 56 · 57 册  
 图 25 河川堆積土出土土器実測図⑨

吉田溝内(吉田遺跡)の調査



49 ~ 54・56・57 層



北区南北アゼ西側断ち割り 46 ~ 55 層

図 26 河川堆積土出土土器実測図⑩

378～389は弥生土器。378は壺の体部片。頸部下に2条、腹部に3条の平行沈線を巡らせ、内部を無軸羽状文で充填している。施文には平行沈線、羽状文とも二枚貝の腹部を用いている。379は長径壺の口縁一頭部片。口縁は器壁を薄くしながら大きく外に開く。弥生時代中期後半と見られる。口縁端部に面を形成し、端部下に断面三角形の突帯を1条巡らせている。387・388は弥生土器高坏。387は鉢形の坏部口縁部片と見られ、388は弥生時代終末期の高坏の坏底部片。389は同じく弥生時代終末期の脚坏鉢の脚部片。390は土師器甕の口縁一体部片。口縁内外面に強くヨコナデを施す。

#### 61層出土土器(図28・29、写真59・60)

調査区北西部の河川最下層(砂礫層)から出土したもの。弥生時代の遺物が主体であるが、やはり少量ではあるが古墳時代から鎌倉時代の遺物を含む。

391～418は弥生土器。391～409は壺。391～395は口縁部片。391は弥生時代前期の有段の口縁部で、内外面に丹塗りが残る。392は大きく外方に開く広口壺。393は垂下口縁壺で、垂下部外面に山形文を施す。394は392同様の壺で、瀬戸内系と在地系の折衷形態である。396・397は頸一腹部片で、396は平行沈線間に木の葉文が、397は無軸羽状文がほどこされている。398～403は腹部片で、398は二枚貝腹部により沈線と無軸羽状文が、399は平行沈線下に無軸羽状文、斜格子文が施されている。401は小型の須玖系壺で、突帯2条を巡らす。402も須玖系の壺で、丹塗りが残る。410～418は甕。410は多条平行沈線下に刺突文を施す。411～418は底部片であるが、417・418は底部中央に焼成後穿孔を行っているように見える。419～421は土師器。419は内面に粘土紐の巻き上げ痕が明瞭に残る甕。420は古墳時代中期高坏の坏底部一脚部片。421は高坏の坏部片。422・423は須恵器。422は甕の口縁部片で、口縁外面に波状文を施す。423は高坏坏部片。424～426は土師器坏部片。424は高台付きの皿。坏底部425・426は底部に回転糸切り痕が残る。

#### 旧耕作土出土・層位不明土器層出土土器(図30、写真60)

包含層(3層)上に遺存する耕作土出土遺物と、調査中に出土層が不明となってしまった遺物、排土中から出土した遺物を層位不明として掲載する。

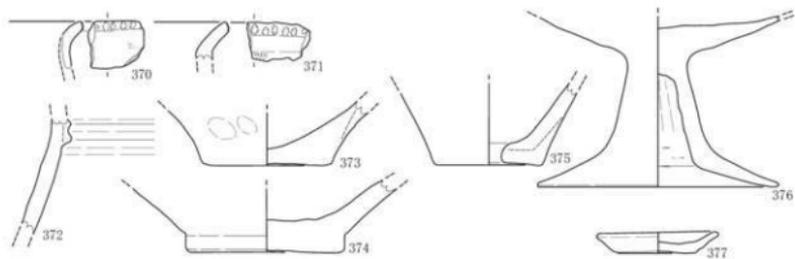
427・428は2層出土。427は須恵器蓋で、丸い口縁端部を下垂させる。428は青磁碗口縁部片。

429～441は層位不明品。429は弥生土器甕底部片。内外面ともタテハケ後ナデが施されている。430は土師器甕。外面にはわずかにタテハケが残る。431は古墳時代中期の高坏。脚部は屈曲して短く開く。432～437は須恵器坏。平底(432～435)と高台付き(436・437)のものがある。438は土師器埴口縁部片。439は緑釉陶器口縁部片。内外面とも釉の遺存状態が良好である。440は六連式製塩土器体部片。内面の布目は極めて細かい。441は瓦質土器鍋の口縁部片。

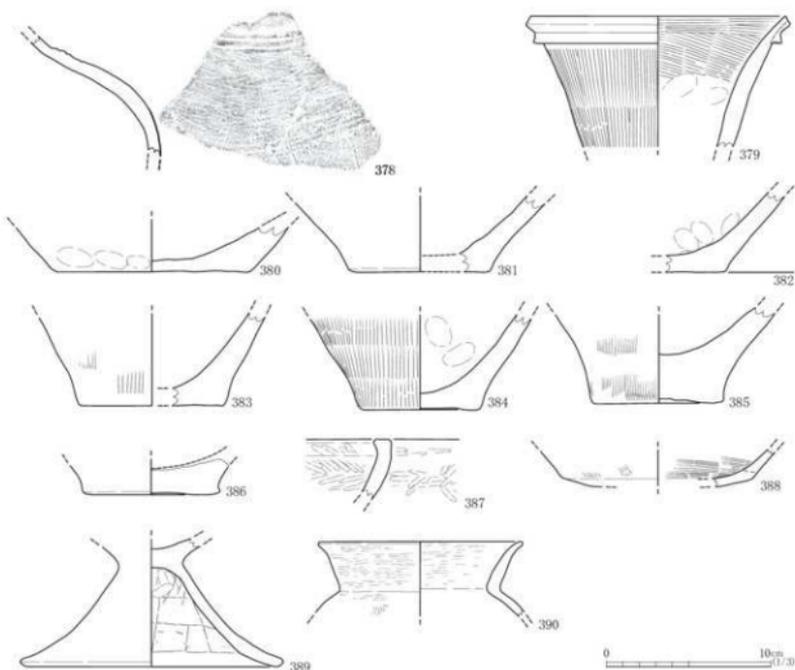
以上が今回の調査で出土した土器の概要である。紙面の都合で個別に詳細を記すことはできなかったが、小片を含め可能な限り図化し、遺物写真を公開することを優先した。

縄文土器は少なく、1点のみの確認にとどまった。弥生土器は大量に出土している。掲載した資料では弥生時代前期から一定量の資料が存在するように思えるが、これは文様のある壺を優先して掲載した結果であり、掲載しない無文の壺体部や甕の体部片の実数を考えると、中期から遺物が増加するのが実像であろう。比べて後期は遺物が減少し、終末期に再度増加するように思える。古墳時代に関しては、前期から後期にかけて一定量の資料が存在する。高坏を見ると中期に資料が急増する。古代に関しては、概観すると飛鳥時代から平安時代にかけて徐々に遺物が増加する傾向にある。中世期の資料は実数が少なくなる。土師器の遺存状態が悪いため時期を判別し難いが、小型品を見る限りでは13世紀、少なくとも14世紀には河川は完全埋没するようである。

吉田橋内(吉田遺跡)の調査

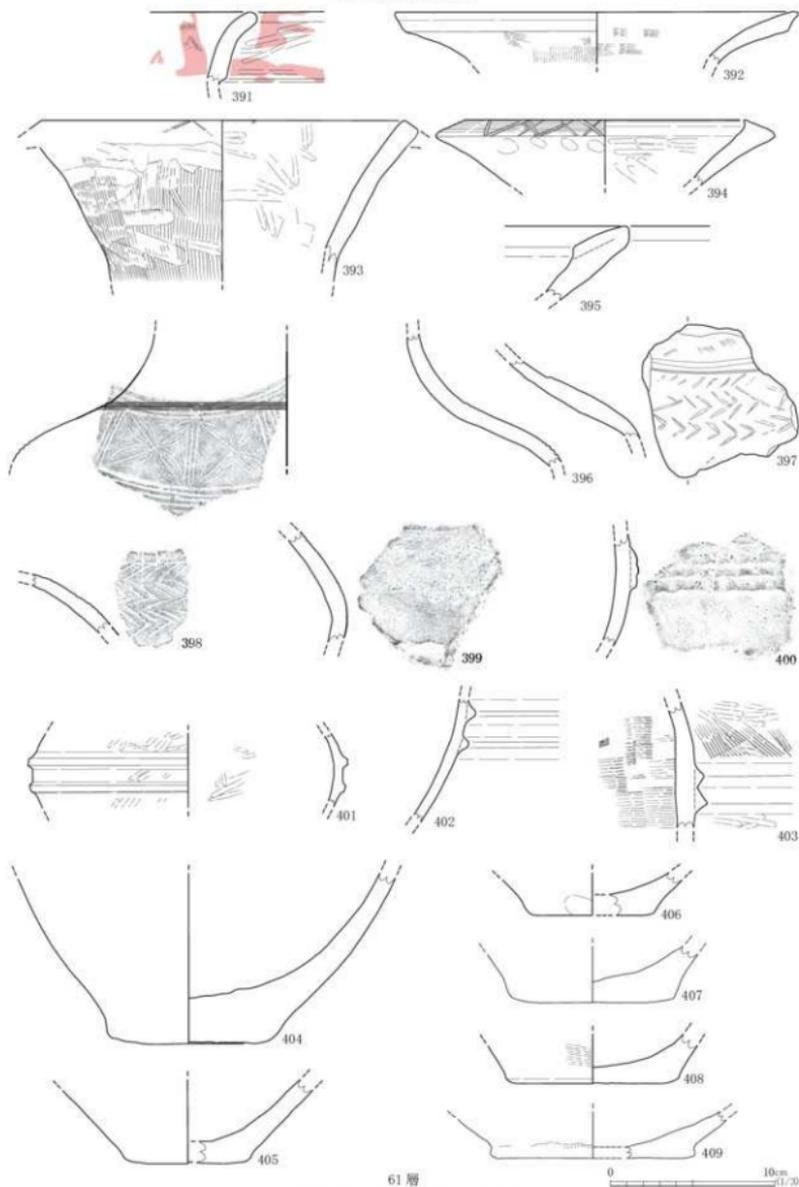


38・39 層

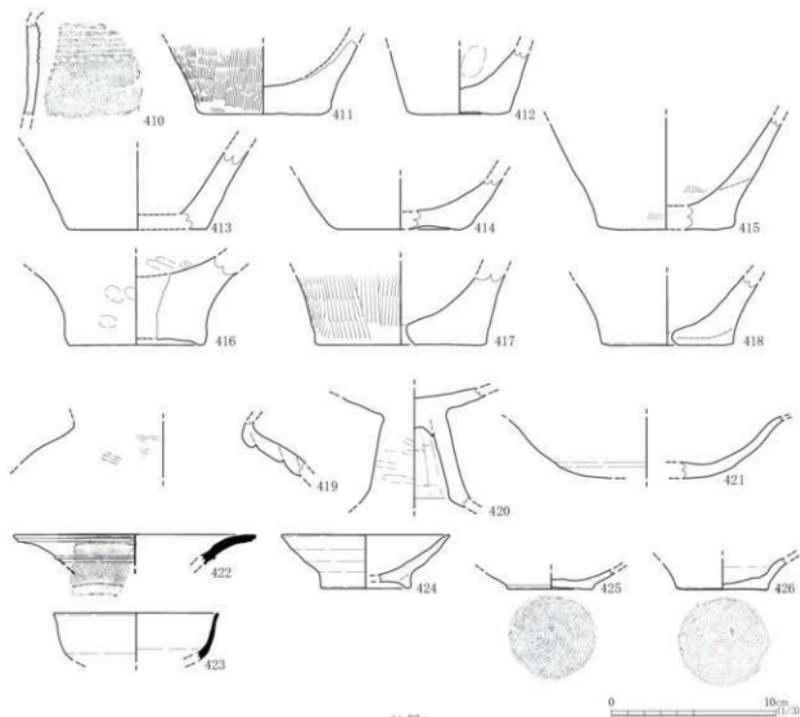


55・61 層

図 27 河川堆積土出土土器実測図①



61層  
 图 28 河川堆積土出土土器実測図⑬



61層

図 29 河川堆積土出土土器実測図⑬

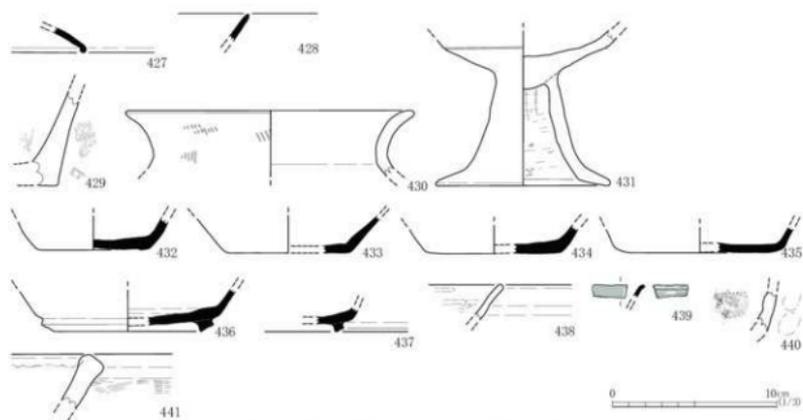


図 30 旧耕土出土・層位不明土器実測図

## 【土製品】(図31、61、表3)

土製品は土鍾のみである。いずれも遺物包含層(3・4層)出土品で、河川堆積土からは出土していない。442は棒状土鍾の半損品。443・444は管状土鍾。443は両端部を欠失しており、444は長軸で半損している。胎土や土鍾の最大径、孔径はほぼ同一である。

## 【金属器】(図32、写真61、表4)

遺物包含層(3層)から1点が出土している。445は銅製の鈔帯具丸軛。裏金具が付いた状態で出しており、横幅3.1cm、縦幅2.3cm、厚さ0.65cm、垂孔は1.55cm×0.6cmを測る。重量は8.4g。金具の隙間は0.14cmほどしかなく、当時の革帯の薄さを示している。両面とも明瞭に研磨痕が残り、3本の銚も完全に遺存している。裏金具頂部に欠損が見られるが、これは包含層掘削時の打撃によるものである。鈔は全く生じておらず、土中では全面塗布の状態では漆が遺存していたものと推測される。現状では漆は垂孔の内面にわずかに残るのみである。なお、出土後に掘削土を探したが、剥離した漆を発見することはできなかった。

遺跡における鈔帯具の出土は、表金具または裏金具が単独で出土する例が大多数であるが、これは使用時に帯から脱落したためと考えられる。本例のように銚が完全に遺存する状態で帯から脱落したとは考えがたいため、帯に付された状態で遺棄または埋められたものと思われる。表裏金具が結合した状態で出土した例は、県内では見島ジューコンボ古墳群出土例以外に存在しないことから、調査地周辺に律令官人の墓が存在した可能性すらも指摘できる。なお、吉田遺跡では当調査区北方約150mの丘陵上での調査で谷埋土から石帯具丸軛が1点出土している。

## 【石器】(図33、写真61・62、表5)

446は2面で折損した花崗岩製の石器。扁平な上下面を磨いているが、用途不明。片表面(図右側)は被熱により変色している。447角閃石安山岩製の紡錘車。復元径4.6cm、復元孔径0.7cm、厚さ0.7~0.8cm、重量5.06g。448はサスカイト製の凹基打製石鏝。先端部と両翼端部を欠失する。449は花崗岩質の磨石。端部が摩耗している。以上4点は遺物包含層(3層)出土である。450は9層出土の花崗岩製敲石。全面を敲打に使用している。451は42層出土の棒状石器端部片。全面に研磨が施される、端部をより丁寧に研磨している。452~454は砥石。455は59層出土の頁岩製大型石庖丁。横幅18cm、縦幅9.1cm、最大厚1.1cm、重量213.29g。刃部は両刃で緻密な研磨が施されている一方で背部の加工は粗い。紐孔は両面穿孔にて設けられている。吉田遺跡では初の完形石庖丁の出土となる。456~458は太型蛤刃石斧。いずれも河川堆積最下層の砂礫層から出土している。このうち457は刃部が摩耗しており、基部の一部を欠失するものの、こちらも遺跡で初の完形品の出土となる。

## 【木製品】(図36~40、表6、写真32・43)

459~469は調査区北部の木製品集中部(木器溜め:60層)出土。板材(459~461・465)や丸太加工の未成品(462)などであるが、466~469は用途不明であるものの連続して設けられた孔の周囲に使用痕が残っていることから、再利用のため水漬けにされたと思われる。466・469は片側面に長方形もしくは方形の溝を設けている。470~475は河川堆積土最下層出土の木製品。470はほぼ完形を保つ木鍾。472・473は両者とも杭先状の加工が施され、被熱箇所が存在する。矢板であろうか。

## 【註】

- 1) 斎藤忠・小野忠照(1964)「考古の部」、山口県教育委員会(編)『見島総合学術調査報告』、山口
- 2) 河村吉行・森田孝一ほか(1985)「吉田橋内大学会館新営に伴う発掘調査」、山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学橋内遺跡調査研究年報Ⅲ』、山口

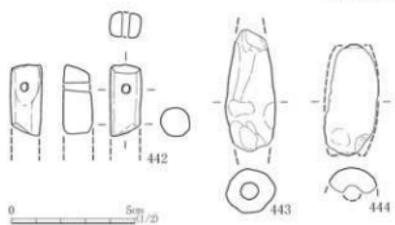


図31 出土土製品実測図

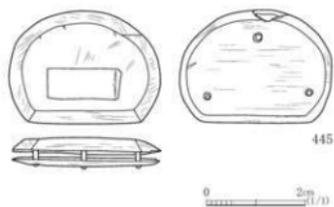


図32 出土金属器実測図

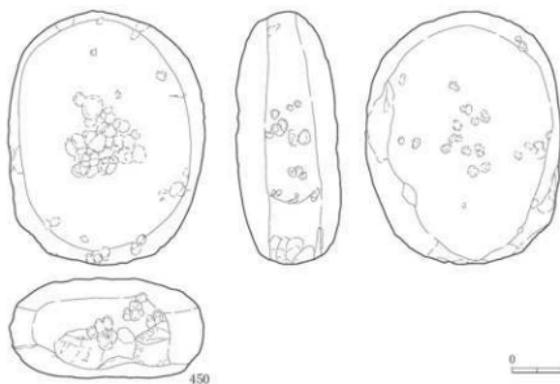
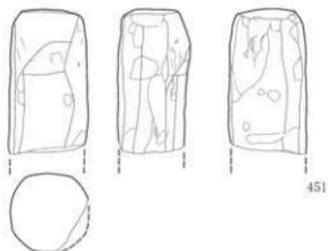
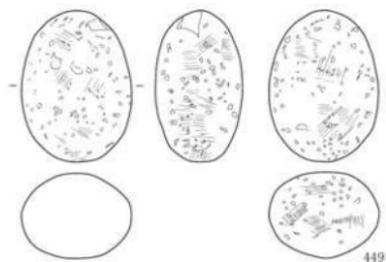
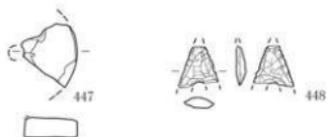
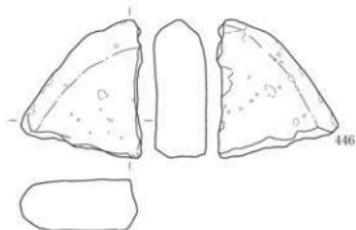


図33 出土石器実測図①

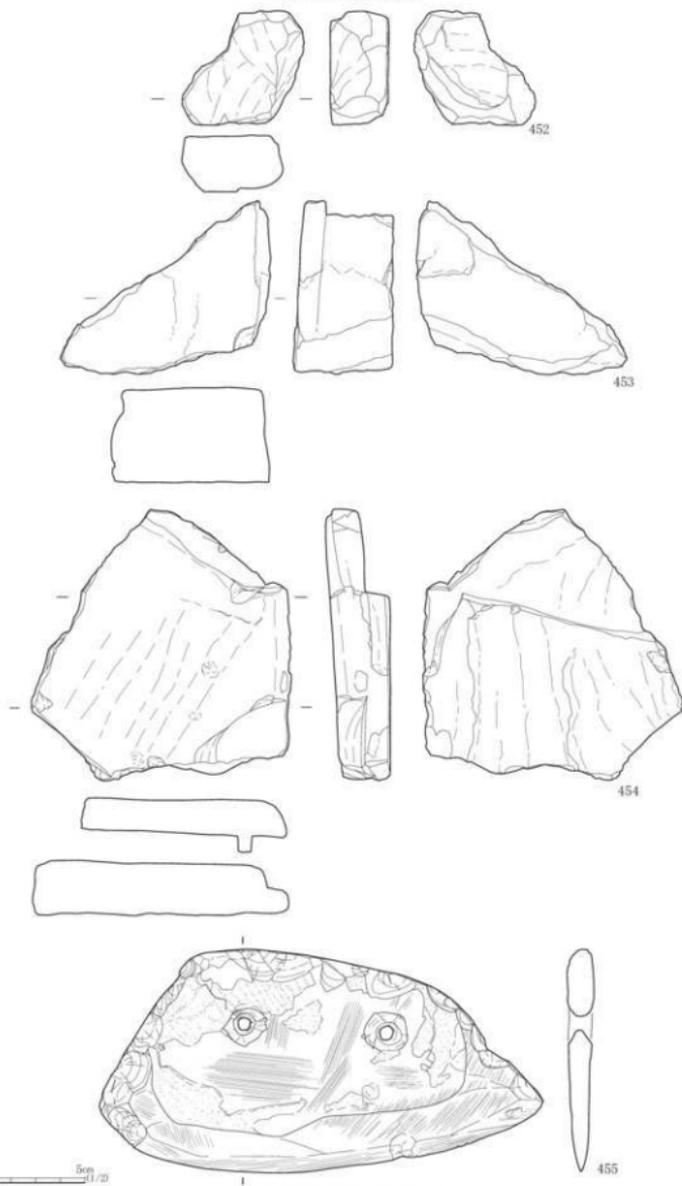


図34 出土石器実測図②

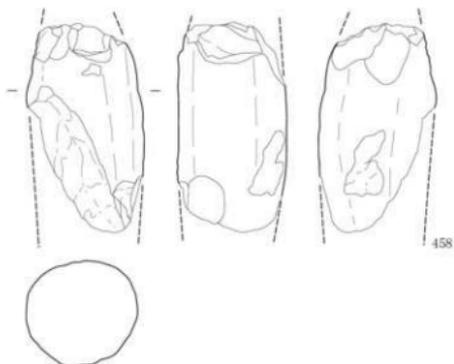
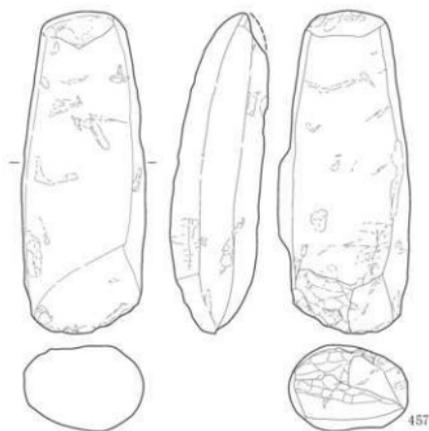
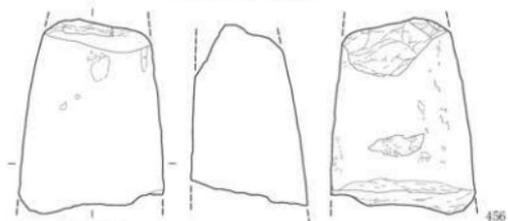


図 35 出土石器実測図③

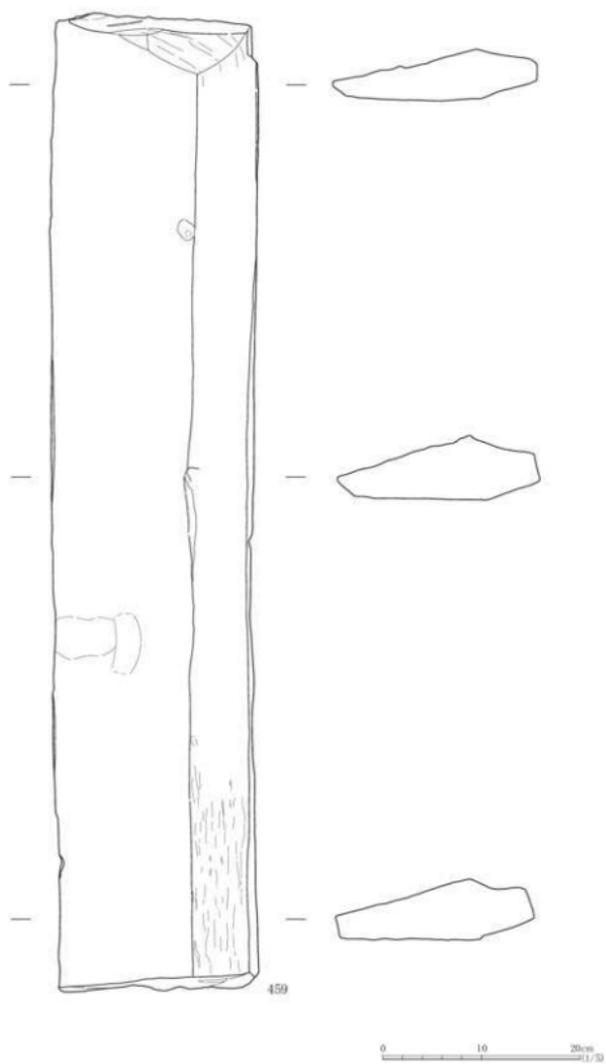


図 36 出土木製品実測図①

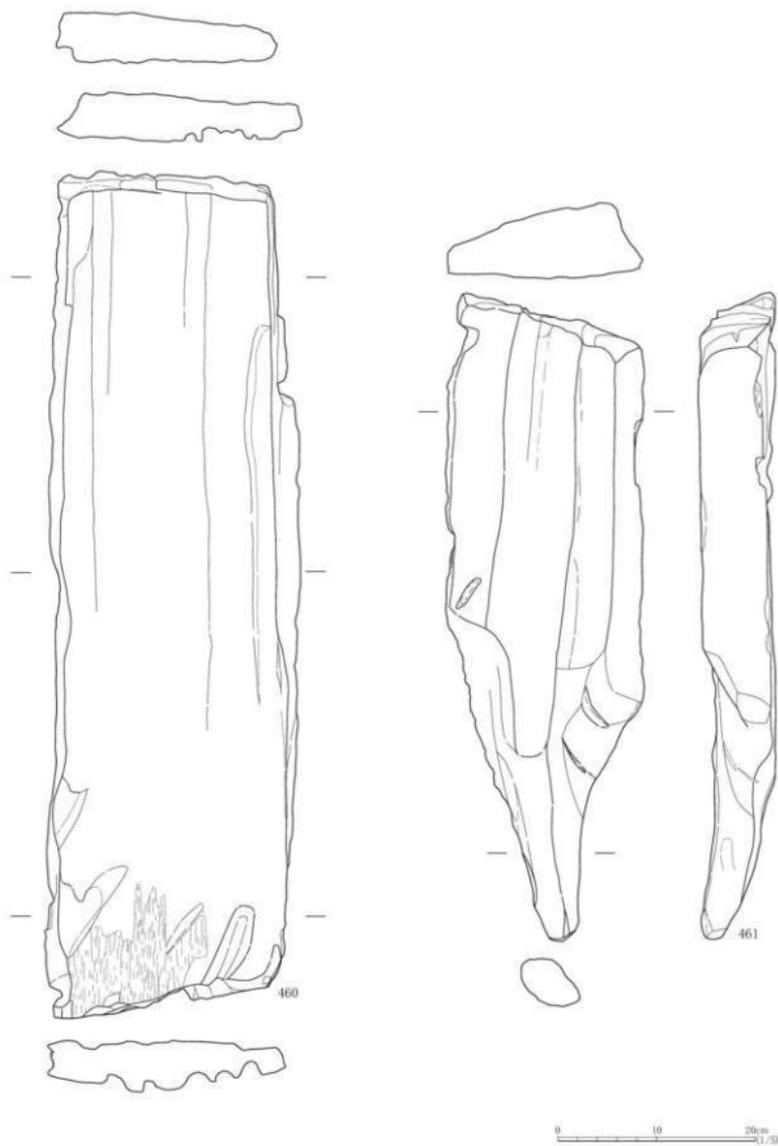


図 37 出土木製品実測図②

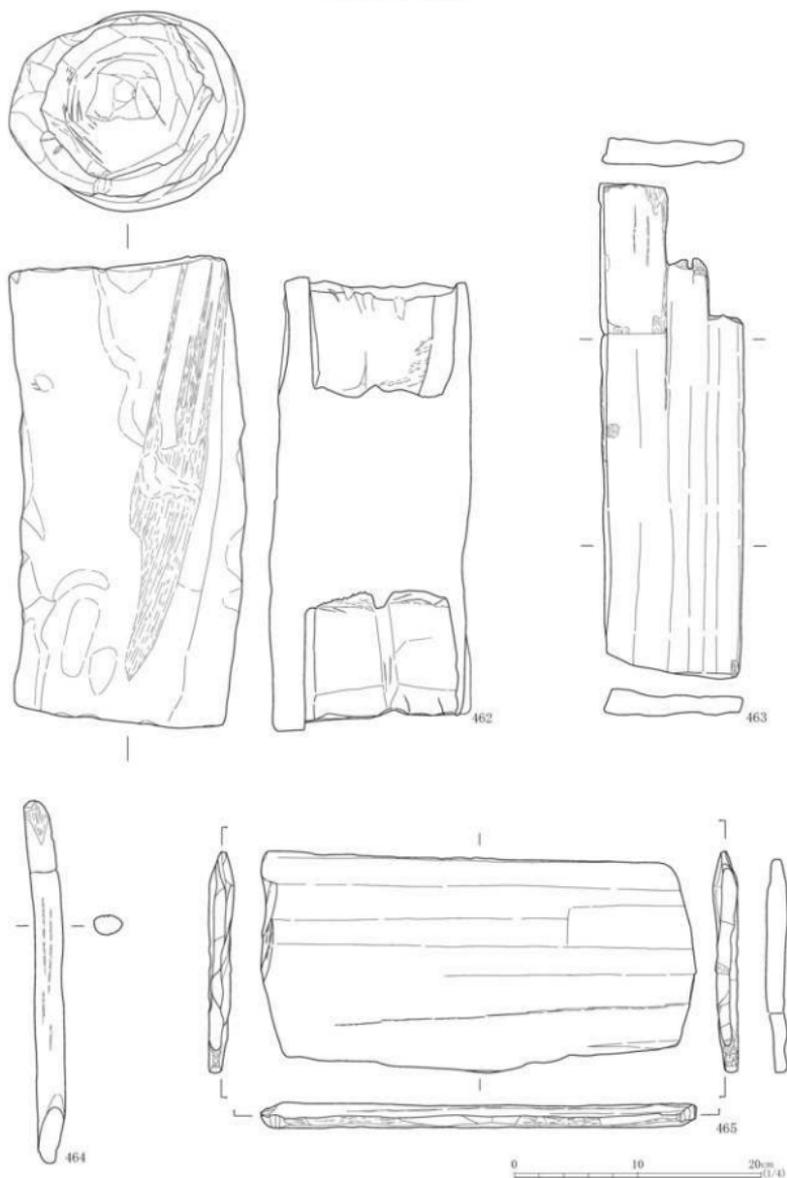


図38 出土木製品実測図③

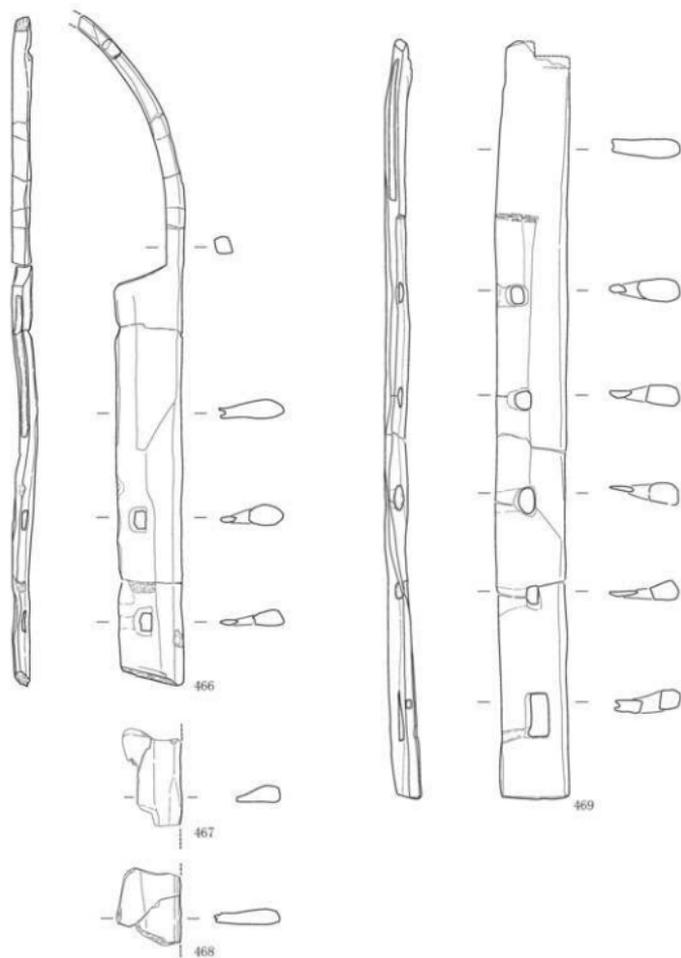


図 39 出土木製品実測図④

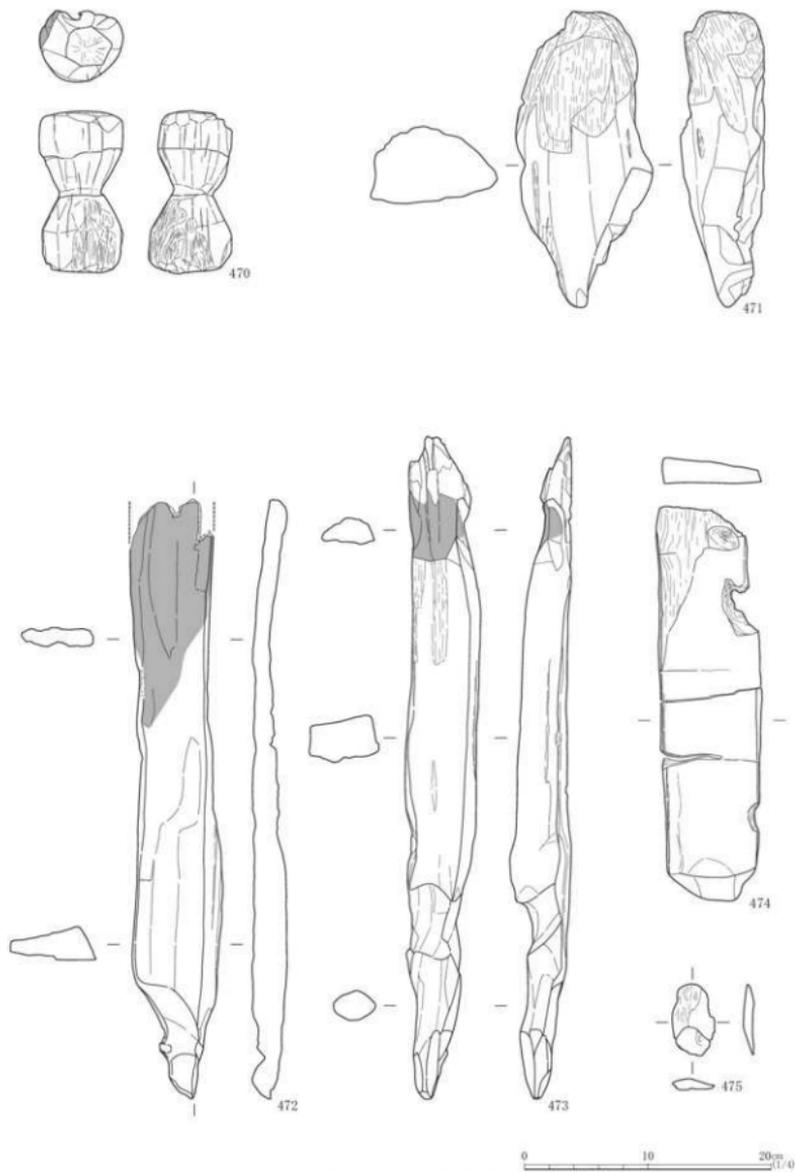


图40 出土木製品実測图⑤



写真 45 出土遺物 (土器)①



写真46 出土遺物(土器)②



写真 47 出土遺物 (土器)③



写真 48 出土遺物 (土器)④



写真 49 出土遺物 (土器)⑤



写真 50 出土遺物 (土器)⑥



写真 51 出土遺物 (土器)⑦



写真 52 出土遺物 (土器)⑤



232-1



232-2



239



230



233



234



235



236



237



238



239



240



242



243



244



245



246



247



231



241



248

写真 53 出土遺物 (土器)⑨



写真 54 出土遺物 (土器)⑩



写真 55 出土遺物 (土器)①



写真 56 出土遺物 (土器)⑤



写真 57 出土遺物 (土器) ⑤



写真 58 出土遺物 (土器) ⑩



写真 59 出土遺物 (土器)⑤

吉田橋内(吉田遺跡)の調査

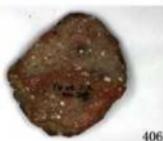


写真60 出土遺物(土器)⑥

吉田橋内(吉田遺跡)の調査



写真 61 出土遺物 (土器・土製品・金属器・石器)⑩



写真62 出土遺物(石器)⑬

表2 出土遺物(土器)観察表

法量( )は復元値

遺物番号	層位	器種	部位	法量(cm) ①口縁②縁高③器高	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
1	3層	縄文土器 深鉢	口縁部		①②黒褐色(2.5Y3/1)	粗:1~2mmの石英・長石を多量に含む		
2	3層	弥生土器 壺/甕	底部	②(6.6)	①灰黄褐色(10YR6/2) ②灰黄色(2.5Y7/2)	密:0.5~1.5mmの石英・長石を多量に含む		
3	3層	土師器 甕	口縁部	①(15.0)	①灰白色(10YR8/1) ②にぶい黄褐色(10YR7/3)	密:0.5mmの石英・長石を少量含む		
4	3層か	土師器 甕	口縁部		①にぶい赤褐色(2.5YR4/4) ②にぶい赤褐色(2.5YR5/4)	やや粗:0.5~2mmの石英・長石・角閃石を多量に含む		
5	3層	土師器 甕	口縁部		①にぶい黄褐色(10YR7/2) ②灰黄褐色(10YR6/2)	やや粗:0.5~1mmの石英・長石をやや多く含む		
6	3層	土師器 甕/瓶	把手		上 灰白色(10YR8/2) 下 にぶい黄褐色(10YR7/2)	やや粗:0.5~1.5mmの石英・長石を多量に含む		
7	3層	土師器 甕/瓶	把手		上 浅黄色(2.5Y7/3) 下 灰黄褐色(10YR6/2)	やや粗:0.5~2mmの石英・長石をやや多く含む		
8	3層	土師器 甕/瓶	把手		上 にぶい黄褐色(10YR7/2) 下 にぶい褐色(2.5YR6/3)	密:0.5~1mmの石英・長石をやや多く含む		
9	3層	土師器			①にぶい黄褐色(10YR7/3) ②黄灰色(2.5Y4/1)	密:0.5~1mmの石英・長石をやや多く含む 赤色土粒を少量含む		
10	3層	須恵器 蓋	轡部		①②灰色(N6/)	やや粗:0.5mmの石英・長石を少量含む		
11	3層	須恵器 蓋	口縁部	①(15.0)	①②灰白色(5Y7/1)	密:0.5mmの石英・長石を少量含む		
12	3層	須恵器 蓋	口縁部	①(14.8)	①②灰白色(5Y7/1)	やや粗:0.5mmの石英・長石を少量含む		
13	3層	須恵器 蓋	口縁部	①(13.3)	①灰色(N6/) ②灰色(N5/)	やや粗:0.5~1mmの石英・長石をやや多く含む		
14	3層	須恵器 蓋	口縁部	①(13.2)	①灰色(5Y6/1) ②灰色(N6/)	やや粗:0.5mmの石英をやや多く含む		灰白色(5Y7/1)の自然釉
15	3層	須恵器 蓋	口縁部		①灰白色(N8/) ②灰白色(N7/)	やや粗:0.5~1mmの石英・長石を少量含む		
16	3層	須恵器 蓋	口縁部		①②灰色(N7/)	やや粗:0.5~1mmの石英・長石をやや多く含む		
17	3層	須恵器 蓋	口縁部		①灰色(N6/) ②黄褐色(2.5Y5/1)	精練:1mmの長石を少量含む		
18	3層	須恵器 蓋	口縁部		①②灰白色(2.5Y7/1)	密:1mmの石英・長石を少量含む		
19	3層	須恵器 蓋	口縁部		①灰白色(2.5Y7/1) ②黄灰色(2.5Y5/1)	精練:0.5mmの石英を少量含む		
20	3層	須恵器 蓋	口縁部		①灰色(5Y5/1) ②灰色(N6/)	密:0.5mmの石英を少量含む		
21	3層	須恵器 蓋	口縁部		①②灰白色(2.5Y7/1)	密:砂粒をほとんど含まない		
22	3層	須恵器 蓋	口縁部		①灰色(N5/) ②灰色(N6/)	密:0.5~1.5mmの石英・長石を少量含む		
23	3層	須恵器 坏	口縁部	①(13.8)	①灰白色(2.5Y7/1) ②灰白色(5Y7/1)	密:0.5mmの石英・長石をやや多く含む		
24	3層	須恵器 坏	口縁部	①(13.8)	①②灰色(10Y6/1)	密:0.5~1mmの石英・長石を少量含む		
25	3層	須恵器 坏	口縁部	①(12.6)	①②灰色(7.5Y6/1)	密:0.5~1mmの石英・長石を少量含む		
26	3層	須恵器 坏	底部	②(8.2)	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密:0.5~1mmの石英・長石をやや多く含む		
27	3層	須恵器 坏	口縁部		①灰色(5Y6/1) ②灰色(7.5Y5/1)	密:0.5mmの石英をやや多く含む 1~2mmの黒色土粒を少量含む		
28	3層	須恵器 坏	口縁部		①黄灰色(2.5Y6/1) ②灰白色(2.5Y7/1)	やや粗:0.5~1mmの石英・長石を少量含む		
29	3層	須恵器 坏	口縁部		①②灰色(N6/)	密:0.5~1mmの石英・長石を少量含む		
30	3層	須恵器 坏	口縁部		①灰色(N5/) ②灰色(N6/)	密:0.5~1mmの石英・長石を少量含む		

吉田橋内(吉田道路)の調査

測物 番号	層位	器種	部位	法量 (cm) ①口縁②底縁③器底	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
31	3層	須恵器 坏	口縁部		①灰白色(N7/ ②灰白色(SY7/1)	密:0.5~1mmの石英・長石を少量含む		
32	3層	須恵器 坏	口縁部		①灰色(N6/ ②灰色(N5/)	密:0.5~1mmの石英・長石を少量含む		
33	3層	須恵器 坏	口縁部		①②灰白色(N7/)	密:0.5~1mmの石英・長石を少量含む		
34	3層	須恵器 坏	口縁部		①にぶい黄褐色(2.5Y6/3) ②灰黄色(2.5Y7/2)	やや粗:0.5mmの長石を少量含む		
35	3層か	須恵器 坏	口縁部		①②灰色(N6/)	やや粗:0.5~1.5mmの石英・長石をやや多く含む		
36	3層	須恵器 坏	口縁部		①灰白色(2.5Y8/2)灰黄色(2.5Y6/2) ②灰黄色(2.5Y7/2)暗灰黄色(2.5Y5/2)	やや粗:0.5mmの石英・長石を少量含む		
37	3層	須恵器 坏	口縁部		①灰白色(2.5Y7/1) ②灰黄色(2.5Y7/2)	密:0.5~1mmの石英・長石を少量含む		
38	3層	須恵器 高台付杯	底部	②(X7.0)	①灰白色(10Y7/1) ②灰白色(N7/)	精練:0.5~1mmの石英・長石を少量含む		
39	3層	須恵器 高台付杯	底部		①②灰色(SY6/1)	精練:0.5mmの長石を少量含む		
40	3層	須恵器 高台付杯	底部	②(11.0)	①②灰色(N6/)	緻密:0.5~1mmの砂粒を少量含む 1mmの黒色土粒を少量含む		
41	3層	須恵器 高台付杯	底部	②(8.0)	①灰黄色(2.5Y6/1) ②灰黄色(2.5Y6/2)	密:0.5mmの石英・長石を少量含む		
42	3層	須恵器 高台付杯	底部	②(9.6)	①②灰黄色(2.5Y5/1)	精練:0.5mmの長石を少量含む		
43	3層	須恵器 高台付杯	底部	②(7.7)	①②灰色(N6/)	密:0.5mmの長石を少量含む		
44	3層	須恵器 高台付杯	底部	②(6.9)	①灰色(N6/ ②灰色(N5/)	やや粗:0.5mmの長石を少量含む		
45	3層	須恵器 高台付杯	底部	②(7.5)	①灰白色(2.5Y7/1) ②灰色(7.5Y6/1)	密:0.5mmの石英・長石を少量含む		
46	3層	須恵器 高台付杯	口縁部		①灰色(N4/ ②灰白色(N7/)	密:0.5~1mmの石英・長石を少量含む 1mmの黒色土粒をやや多く含む		
47	3層	須恵器 高台付杯	底部	②(8.8)	①灰白色(N7/ ②灰色(N6/)	密:0.5mmの石英・長石・黒色土粒を少量含む		
48	3層	須恵器 高台付杯	底部	②(7.0)	①灰色(N5/ ②灰色(N6/)	やや粗:0.5~1mmの石英・長石をやや多く含む		
49	3層	須恵器 高台付杯	底部	②(6.8)	①②灰色(SY6/1)	密:0.5mmの石英をやや多く含む		
50	3層	須恵器 高台付杯	底部	②(10.2)	①灰色(SY5/1) ②灰色(N6/)	密:0.5~1mmの石英・長石をやや多く含む		
51	3層	須恵器 高台付杯	底部		①②灰色(N6/)	やや粗:0.5~1mmの石英・長石を少量含む		
52	3層	須恵器 高台付杯	底部		①灰色(SY4/1) ②黄灰色(2.5Y5/1)	やや粗:0.5~1mmの石英・長石をやや多く含む 1.5mmの黒色土粒を少量含む		
53	3層	須恵器 高台付杯	底部		①灰白色(7.5Y7/1)灰色(N5/ ②灰色(SY6/1)	密:砂粒をほとんど含まない		
54	3層	須恵器 高台付杯	底部		①灰色(N6/ ②灰色(N5/)	精練:0.5~1mmの石英・長石を少量含む		
55	3層	須恵器 高台付杯	底部		①②灰色(SY6/1)	精練:0.5~1mmの石英・長石を少量含む		
56	3層	須恵器 高台付杯	底部		①②灰色(N5/)	やや粗:0.5mmの長石を少量含む		
57	3層	須恵器 高台付杯	底部		①灰色(N6/ ②灰色(N7/)	密:0.5mmの石英・長石を少量含む		
58	3層	須恵器 皿	口縁部 ~底部	①(X14.6)②(X12.3) ③2.0	①灰黄色(2.5Y7/2) ②灰白色(2.5Y7/1)	やや粗:0.5~1.5mmの石英・長石を少量含む		
59	3層	須恵器 皿か	底部	②(9.6)	①灰白色(2.5Y7/1) ②灰白色(10Y8/1)	やや粗:0.5~1mmの石英・長石を少量含む		
60	3層	須恵器 皿	口縁部		①②灰色(N7/)	密:0.5~1.5mmの石英・長石を少量含む		
61	3層	須恵器 皿	口縁部		①②灰白色(2.5Y7/1)	やや粗:0.5~1mmの石英・長石を少量含む		
62	3層	須恵器 皿か	底部		①灰白色(7.5Y7/1) ②灰色(7.5Y6/1)	やや粗:0.5~1mmの石英・長石・黒色土粒を少量含む		

吉田焼内(吉田遺跡)の調査

遺物番号	層位	器種	部位	法量(cm) ①口縁②底③器高	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
63	3層	須恵器 台付皿か	口縁部		①灰白色(N7/) ②灰白色(2.5Y7/1)	密; 0.5mmの長石を少量含む		
64	3層	須恵器 高坏	口縁部		①②灰白色(2.5Y7/1)	やや粗; 0.5mmの石英・長石を少量含む		
65	3層か	須恵器 高坏	杯部	③3.0	①②灰色(N5/) 素地 灰白色(N7/)	密; 0.5~1mmの石英・長石をやや多く含む		
66	3層	須恵器 高坏	脚部	②(10.2)	①褐色(7.5YR5/1) ②褐色(7.5YR5/2)	密; 0.5mmの石英・長石をやや多く含む		
67	3層	須恵器 高坏	脚部	②(11.0)	①灰色(N6/) ②灰色(N7/)	やや粗; 0.5~1mmの石英・長石を少量含む		
68	3層	須恵器 高坏	脚部	②(13.4)	①灰色(5Y5/1) ②灰色(7.5Y6/1)	精緻; 0.5~1mmの石英・長石を極少量含む		
69	3層	須恵器 壺	底部		①灰色(10Y5/1) ②灰色(10Y6/1)	やや粗; 砂粒をほとんど含まない		
70	3層	緑釉陶器 皿	口縁部	①(10.0)	①灰オリーブ色(5Y6/2) ②灰色(5Y6/1) 素地 灰色(5Y5/1)	精緻; 砂粒をほとんど含まない	須恵質	
71	3層	緑釉陶器 皿	口縁部		①浅黄褐色(7.5Y7/3) ②灰白色(7.5Y7/2) 素地 灰白色(7.5Y8/1)	密; 砂粒を含まない		
72	3層	緑釉陶器 埴	体部		①②オリーブ灰色(10Y5/2) 素地 灰白色(10YR8/1)	やや粗; 0.5~1mmの石英・長石を少量含む		
73	3層	緑釉陶器 埴か	体部		①②暗オリーブ灰色(2.5GY3/1) 素地 灰白色(2.5Y8/1)	密; 砂粒を含まない		
74	3層	緑釉陶器 埴	体部		①浅黄褐色(7.5Y7/3) ②オリーブ黄色(7.5Y7/3) 素地 灰白色(5Y8/1)	やや粗; 0.5~2.5mmの石英を少量含む		
75	3層	緑釉陶器	体部		①②オリーブ黄色(7.5Y6/3) 素地 灰白色(2.5Y8/2)	密; 砂粒をほとんど含まない		
76	3層	緑釉陶器 埴	底部	②(7.2)	①灰オリーブ色(7.5Y6/2) ②オリーブ灰色(10Y5/2) 素地 灰白色(2.5Y8/1)	密; 砂粒を含まない		
77	3層	緑釉陶器の小破片			①明オリーブ灰色(2.5GY7/1) ②オリーブ灰色(10Y5/2) 素地 灰白色(10YR8/1)		写真のみ	
78	3層	製塩土器	体部		①浅黄褐色(10YR8/3) ②褐色(7.5YR7/6)	やや粗; 1~5mmの石英・長石をやや多く含む	六溝式	
79	3層	製塩土器	口縁部		①灰白色(7.5YR8/1) ②明褐色(7.5YR7/2)	密; 0.5~1mmの石英・長石を多量に含む	六溝式	
80	3層	黒色土器A類 埴	口縁部		①灰黄褐色(10YR6/2) ②オリーブ黒(5Y3/1)	やや粗; 0.5~3mmの石英・長石をやや多く含む	内面黒色処理	
81	3層	青磁 埴	口縁部	①(17.7)	①暗灰黄色(2.5Y5/2) ②灰オリーブ色(5Y5/2)	密	龍泉窯系	
82	3層	青磁 埴	体部		①暗灰黄色(2.5Y5/2) ②にがい黄色(2.5Y6/3)	やや粗; 砂粒を含まない		
83	3層	青磁 埴	口縁部	①(17.0)	①②灰オリーブ色(5Y6/2)	密		
84	3層	白磁 埴	口縁部	①(15.0)	①灰白色(5Y7/1) ②灰白色(7.5Y7/1)	やや粗	福建産	
85	3層	白磁 皿	口縁部	①(10.2)	①灰白色(10Y7/1) ②灰白色(10Y8/1) 素地 灰白色(N8/)	密; 砂粒を含まない		
86	3層	白磁 埴	体部		①②灰白色(5Y8/1)	やや粗; 砂粒を含まない		
87	3層	白磁 埴	口縁部		①②灰白色(7.5Y7/1)	やや粗		
88	3層	白磁 埴	口縁部		①②灰白色(5Y7/1)	密; 砂粒を含まない		
89	3層	白磁 埴	口縁部		①②灰白色(7.5Y8/1)	密		
90	3層	土師器 埴 ~底部	口縁部 ~底部	①(15.2)②(7.0) ③4.6	①灰黄褐色(10YR6/2) ②にがい黄褐色(10YR7/2)	やや粗; 0.5~1mmの石英・長石を少量含む		
91	3層	土師器 埴	口縁部	①(17.0)	①灰黄色(2.5Y7/2) ②浅黄色(2.5Y7/3)	密; 0.5mmの石英・長石をやや多く含む		
92	3層	土師器 埴	口縁部	①(15.2)	①にがい黄色(2.5Y6/3) ②浅黄色(2.5Y7/2)	密; 0.5mmの石英・長石を極少量含む		
93	3層	土師器 埴	口縁部	①(14.6)	①にがい黄褐色(10YR7/2) ②灰黄褐色(10YR6/2)	密; 0.5mmの石英・長石を少量含む		
94	3層	土師器 埴	口縁部	①(12.8)	①灰黄褐色(10YR6/2) ②褐色(10YR6/1)	やや粗; 0.5mmの石英・長石を少量含む		

吉田橋内(吉田遺跡)の調査

遺物番号	層位	器種	部位	法量 (cm) ①(1層)②(2層)③(3層)	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
95	3層	土師器 埴	口縁部	①(12.0)	①灰白色(10YR8/1) ②灰白色(10YR8/2)	密:砂粒をほとんど含まない		
96	3層	土師器 埴	口縁部		①②浅黄褐色(10YR8/3)	やや粗:0.5~1.5mmの石英・長石を少量含む		
97	3層	土師器 埴	口縁部		①灰褐色(7.5YR6/2) ②灰白色(7.5YR8/2)褐灰色(7.5YR4/1)	密:1.5mmの石英・長石を少量含む		
98	3層	土師器 埴	口縁部		①灰白色(2.5Y8/2) ②淡黄色(2.5Y8/3)	密		
99	3層	土師器 埴	口縁部		①②にぶい黄褐色(10YR7/2)	やや粗:0.5~3mmの石英・長石を少量含む		
100	3層	土師器 埴	口縁部		①②浅黄色(2.5Y8/3)	密:砂粒をほとんど含まない		
101	3層	土師器 埴	底部	②(7.6)	①浅黄色(2.5Y7/3) ②灰白色(2.5Y8/2)黒褐色(2.5Y3/1)	やや粗:0.5mmの石英・長石を少量含む		
102	3層	土師器 埴	底部	②7.7	①浅黄色(2.5Y7/3) ②灰白色(2.5Y8/2)	密:0.5~1mmの石英・長石を少量含む		
103	3層	土師器 埴	底部	②(8.2)	①②灰白色(10YR7/2)	密:0.5~1.5mmの石英・長石を少量含む		
104	3層	土師器 埴	底部	②7.0	①②灰白色(10YR8/2)	やや粗:0.5~1mmの石英・長石をやや多く含む		
105	3層	土師器 埴	底部	②(6.6)	①にぶい黄褐色(10YR7/2) ②にぶい褐色(5YR7/3)	密:0.5~1mmの石英・長石を少量含む		
106	3層	土師器 埴	底部	②(6.5)	①にぶい黄褐色(7.5YR7/3) ②灰黄褐色(10YR6.2) 灰色(N4)	密:0.5~2mmの石英・長石をやや多く含む		
107	3層	土師器 埴	底部	②(5.9)	①②灰白色(10YR8/2)	密:砂粒をほとんど含まない		
108	3層	土師器 埴	底部	②(5.9)	①灰白色(10YR8/2) ②灰白色(2.5Y8/2)	密:0.5mmの石英・長石を多量に含む		
109	3層	土師器 埴	底部		①にぶい黄褐色(10YR7/2) ②灰白色(10YR8/2)	密:砂粒をほとんど含まない	高台剥離	
110	3層か	土師器 埴	底部	②(6.4)	①灰白色(10YR8/1)褐灰色(10YR6/1) ②灰白色(10YR8/1)	密:0.5~1mmの石英・長石をやや多く含む		
111	3層	土師器 埴	底部		①にぶい黄褐色(10YR7/3) ②灰黄褐色(10YR6/2)	密:1.5mmの石英・長石をやや多く含む		
112	3層	土師器 埴	底部		①②灰黄色(2.5Y7/2)	密:0.5~1mmの石英・長石を多量に含む 赤色土粒を少量含む		
113	3層	土師器 埴	底部		①灰黄褐色(10YR6/2) ②黒褐色(7.5YR3/1)	密:0.5mmの石英を少量含む		
114	3層	土師器 埴	底部		①明赤灰色(2.5YR7/2) ②灰黄色(2.5Y7/2)	密:0.5~1.5mmの石英・長石を少量含む		
115	3層	土師器 埴/坏	口縁部		①②浅黄褐色(10YR8/3)	密:砂粒をほとんど含まない		
116	3層	土師器 埴/坏	口縁部		①にぶい黄褐色(19YR6/3) ②にぶい黄褐色(10YR7/3)	密:0.5~1mmの石英・長石を少量含む		
117	3層	土師器 坏	底部	②(6.9)	①にぶい褐色(7.5YR7/3) ②灰白色(10YR8/2)	密:0.5~2mmの石英・長石をやや多く含む		
118	3層	土師器 坏	底部	②(5.0)	①②にぶい黄褐色(10YR7/2)	やや粗:0.5mmの石英・長石をやや多く含む		
119	3層	土師器 坏	底部	②(6.2)	①②灰白色(10YR8/2)	密:0.5~1mmの石英・長石・赤色土粒をやや多く含む	底部焼成後穿孔(孔径2.8cm)	
120	3層	土師器 坏	底部	②(5.6)	①浅黄色(2.5Y7/3) ②灰白色(2.5Y8/2)	やや粗:0.5~3mmの石英・長石をやや多く含む		
121	3層	土師器 坏	底部	②(4.4)	①にぶい黄褐色(10YR6/3) ②灰黄褐色(10YR6/2)	密:1.5~2mmの石英を少量含む		
122	3層	土師器 坏	底部	②(4.4)	①②灰白色(10YR8/2)	密:砂粒をほとんど含まない		
123	3層	土師器 皿/坏	底部	②(5.0)	①②にぶい褐色(7.5YR7/4)	密:1mmの赤色土粒をやや多く含む		
124	3層	土師器 坏	底部	②(5.5)	①②にぶい黄褐色(10YR7/2)	やや粗:0.5mmの石英・長石を多量に含む		
125	3層	土師器 坏	底部		①にぶい黄褐色(10YR6/3) ②にぶい褐色(7.5YR7/4)	密:0.5mmの石英・長石をやや多く含む		
126	3層	土師器 皿	口縁部~底部		①②にぶい黄褐色(10YR7/3)	やや粗:0.5~1mmの石英・長石を少量含む		
127	3層	土師器 皿	底部	②(5.6)	①にぶい黄褐色(10YR6/3) ②褐灰色(5YR4/1)	やや粗:0.5mmの石英・長石をやや多く含む		

吉田橋内(吉田遺跡)の調査

遺物番号	層位	器種	部位	法量 (cm) ①は径②高さ③底径	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
128	3層	土師器 皿	底部	②5.0	①明褐色(7.5YR7/3) ②にぶい褐色(7.5YR7/2)	密:0.5mmの石英・長石を少量含む	柱状高台皿	
129	3層	瓦質土器 羽釜	口縁部		①黒色(N2/) ②暗灰色(N3/)	やや粗:0.5mmの石英・長石を少量含む	外面煤付着	
130	4層	弥生土器 甑	体部		①浅黄色(2.5Y7/3) ②灰黄色(2.5Y7/2)	密:0.5~2mmの石英・長石を多量に含む		
131	4層	弥生土器 甑/甕	底部	②9.8	①灰黄褐色(10YR6/2) ②にぶい黄褐色(10YR7/2)	密:0.5~1.5mmの石英・長石を多量に含む		
132	4層	土師器 甕	口縁部		①褐色(10YR4/1) ②灰黄褐色(10YR6/2)	密:0.5~1.5mmの石英・長石を多量に含む		
133	4層	土師器 甕	口縁部		①褐色(10YR5/1) ②褐色(10YR6/1)	やや粗:0.5~1.5mmの石英・長石を多量に含む		
134	4層	土師器 短頸壺小	口縁部		②にぶい黄褐色(10YR7/3)	密:0.5~1mmの石英・長石を少量含む		
135	4層	土師器 瓶	把手		上にぶい黄褐色(10YR7/2) 下 灰黄褐色(10YR5/2)	密:0.5~1.5mmの石英・長石をやや多く含む 1.5mmの赤色土粒を少量含む		
136	4層	須恵器 蓋	撮部~口縁部	①(13.0)	②灰色(N6/)	密:0.5~2mmの石英・長石をやや多く含む 黒色土粒を少量含む		
137	4層	須恵器 蓋	口縁部	①(17.4)	①灰色(5Y6/1) ②黄灰色(2.5Y6/1)	やや粗:0.5~1mmの石英・長石をやや多く含む		
138	4層	須恵器 蓋	口縁部	①(13.8)	①②灰色(N5/)	密:0.5~1mmの石英・長石を多量に含む		
139	4層	須恵器 蓋	口縁部		①灰白色(2.5Y7/1) ②灰白色(N7/)	密:0.5~1mmの石英・長石をやや多く含む		
140	4層	須恵器 蓋	口縁部		①褐色(10YR6/1) ②灰黄褐色(10YR6/2)	密:0.5mmの長石を少量含む		
141	4層	須恵器 坏身	体部		①黄灰色(2.5Y6/1) ②灰白色(2.5Y7/1)	やや粗:0.5~1.5mmの黒色土粒をやや多く含む		
142	4層	須恵器 坏	底部	②(9.6)	①灰色(7.5Y6/1) ②灰色(5Y6/1)	精練:0.5~1mmの石英・長石をやや多く含む		
143	4層	須恵器 坏	底部	②(6.4)	①灰白色(N7/) ②灰白色(5Y7/1)	密:0.5~3mmの石英・長石を少量含む		
144	4層	須恵器 高台付杯	底部	②(9.0)	①灰色(N6/) ②灰白色(2.5Y7/1)	やや粗:0.5mmの石英・長石を少量含む		
145	4層	須恵器 高台付杯	底部	②(8.4)	①灰白色(N7/) ②明赤灰色(2.5YR7/1)	やや粗:0.5~1.5mmの石英・長石を少量含む		
146	4層	須恵器 坏	口縁部	①(11.8)	①灰色(N4/) ②灰色(N5/)	密:砂粒をほとんど含まない		
147	4層	須恵器 坏	口縁部		①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	精練:0.5~1.5mmの石英・長石を少量含む		
148	4層	須恵器 皿小	底部	②(11.6)	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	やや粗:0.5~1.5mmの石英・長石をやや多く含む 黒色土粒を少量含む		
149	4層	須恵器 皿	口縁部~底部	①(17.4)②(13.6) ③(1.8)	①灰色(N5/) ②灰色(N6/)	精練:0.5~1mmの長石をやや多く含む		
150	4層	須恵器 高坏	脚部	②(11.4)	①②灰色(N6/)	精練:0.5~1mmの石英・長石をやや多く含む 1mmの黒色土粒を少量含む		
151	4層	須恵器 甕	体部		①灰色(10Y6/1) ②灰色(7.5Y6/1)	やや粗:1~2mmの石英・長石をやや多く含む		
152	4層	緑釉陶器 皿	口縁部	①(13.4)	①オリーブ灰色(10Y5/2) ②灰色(5YR/1) 素地 灰白色(5YR/1)	密:砂粒を含まない		
153	4層	青磁 埴	体部		①②オリーブ黄色(5Y6/3)	やや粗	同安窯系	
154	4層	土師器 埴	口縁部	①(13.8)	①灰白色(2.5Y8/2) ②灰白色(10YR8/2)	密:0.5mmの石英を少量含む		
155	4層	土師器 埴	口縁部		②にぶい褐色(7.5YR7/3)	密:0.5mmの石英を少量含む		
156	4層	土師器 埴	口縁部		①にぶい黄褐色(10YR7/2) ②にぶい褐色(7.5YR7/3)	やや粗:0.5mmの石英・長石を少量含む		
157	4層	土師器 埴	底部	②(8.0)	①②灰黄色(2.5Y7/2)	やや粗:0.5mmの石英・長石を少量含む		
158	4層	土師器 埴	底部		①②浅黄色(2.5Y7/3)	精練:0.5~1mmの石英・長石を少量含む		
159	4層	土師器 埴	底部	②(4.9)	①浅黄色(2.5Y7/3) ②にぶい黄褐色(10YR7/2)	やや粗:0.5~1mmの石英・長石を少量含む		

吉田橋内(吉田遺跡)の調査

遺物番号	層位	器種	部位	法量 (cm) ①(口縁)②(底径)③(高さ)	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
160	4層	土師器 坏	底部	②(8.1)	①にぶい・黄褐色(10YR6/3) ②黒褐色(2.5Y3/1)	やや粗:0.5~2mmの石英・長石を少量含む		
161	4層	瓦質土器 足跡	脚部		表 灰黄色(2.5Y7/2) 裏 黄灰色(2.5Y5/1)	やや粗:0.5~3mmの石英・長石を多量に含む		
162	4層	瓦質土器 羽釜	口縁部	①(24.6)	①灰色(N4/) ②灰色(N5/)	やや粗:砂粒をほとんど含まない		
163	4層	土師質土器 鍋	口縁部	①(22.2)	①にぶい・黄色(2.5Y6/3) ②浅黄色(2.5Y7/3)	やや粗:1~1.5mmの石英・長石を少量含む		
164	4層	土師質土器 鍋	口縁部		①灰黄色(2.5Y7/2) ②灰白色(2.5Y8/2)	やや粗:0.5~1.5mmの石英・長石を多量に含む		
165	4層	不明	口縁部		①灰黄色(2.5Y7/2) ②浅黄色(2.5Y7/3)	密:1mmの石英・長石を少量含む		
166	5~6層	土師器 坏	口縁部		①にぶい・黄褐色(10YR7/3) ②にぶい・褐色(7.5YR7/4)	密:0.5mmの石英・長石をやや多く含む		
167	5~5層	土師器 埴	底部		①浅黄褐色(10YR8/3) ②にぶい・黄色(2.5Y6/3)	密:0.5mmの石英・長石を少量含む		
168	5~6層	土師器 埴	底部		①灰黄色(2.5Y7/2) ②灰白色(2.5Y8/2)	密:0.5mmの石英・長石を少量含む		
169	5~6層	土師器 皿	口縁部 ~底部	①(3.8)②(2.4)③ 0.7	①②浅黄色(2.5Y7/4)	密:0.5mmの石英を少量含む	手塩皿か	
170	5~6層	土師器 皿	口縁部 ~底部	①(7.1)②(6.2)③ 1.0	①にぶい・褐色(5YR6/4) ②にぶい・褐色(5YR7/4)	やや粗:0.5~1.5mmの石英・長石を多量に含む		
171	5~5層	須恵器 坏身	底部		①灰色(10Y6/1) ②灰色(7.5Y6/1)	やや粗:0.5~2mmの石英・長石を少量含む 黒色土粒を多量に含む		
172	5~6層	須恵器 坏蓋	口縁部		①灰色(N5/) ②灰色(N6/)	やや粗:0.5~1mmの石英・長石をやや多く含む		
173	5~6層	須恵器 高台付杯	底部		①②灰色(10Y6/1)	密:0.5mmの石英・長石を少量含む 黒色土粒を少量含む		
174	5~6層	須恵器 坏	口縁部		①灰白色(N7/) ②灰白色(5Y7/1)	密:0.5mmの石英・長石を少量含む		
175	5~6層	白磁 皿か	口縁部		①②灰白色(7.5Y7/1)	密:砂粒を含まない		
176	5~9層	弥生土器 甕	口縁部		①にぶい・黄褐色(10YR4/3, 5/3) ②にぶい・黄褐色(10YR6/3)	やや粗:0.5~2mmの石英・長石を多量に含む		
177	5~9層	弥生土器 甕	口縁部		①灰黄褐色(10YR4/2) ②灰黄褐色(10YR5/2)	やや粗:0.5~2mmの石英・長石をやや多く含む		
178	5~9層	須恵器 甕	体部		①②灰色(N5/)	精練:0.5~1mmの石英・長石・黒色土粒を少量含む		
179	5~9層	須恵器 甕	体部		①②灰色(N5/)	精練:0.5~1mmの石英・長石を少量含む:0.5~1.5mmの黒色土粒を少量含む		
180	7層	弥生土器 甗	口縁部	①(16.0)	①②にぶい・黄褐色(10YR5/3)	粗:1~4mmの砂粒を多く含む		
181	7層	弥生土器 甕	口縁部	①(25.8)	①②にぶい・黄色(2.5Y6/3)	粗:1~3mmの砂粒を多量に含む	外面一部に煤付着	
182	7層	弥生土器 甕	口縁部		①②にぶい・黄褐色(10YR7/4)	粗:1~2mmの石英・長石を多く含む		
183	6層	土師器 甕	口縁部	①(15.6)	①灰黄褐色(10YR5/2) ②灰黄褐色(10YR6/2)	密:0.5mmの石英・長石をやや多く含む		
184	7層	土師器 甕	口縁部	①(15.6)	①浅黄色(2.5Y7/4) ②明黄褐色(2.5Y7/6)	密:0.3~2mmの石英・長石を多量に含む	外面一部に煤付着	
185	7層	土師器 甕		①(18.2)	①②浅黄色(7.5YR8/4)	4mm以下の砂粒を含む		
186	7層	土師器 甗	口縁部	①(15.0)	①②浅黄色(2.5Y7/3)	密:0.5~1.5mmの砂粒を極わずかに含む		
187	7層	土師器 高坏	口縁部		①にぶい・黄褐色(10YR5/4) ②にぶい・黄褐色(10YR6/4)	密:0.5~2.5mmの石英・長石を含む		
188	7層	土師器 高坏	口縁部	①(14.4)	①にぶい・褐色(5YR6/4) ②にぶい・褐色(7.5YR7/4)	密:1~1.5mmの長石を含む		
189	7層	土師器 高坏	口縁部	①(18.4)	①浅黄色(2.5Y7/3) ②浅黄色(2.5Y7/4)	密:0.5~1.5mmの長石を少量含む		
190	6層	土師器 高坏	脚部	②14.9	①にぶい・黄褐色(10YR6/3) ②にぶい・黄褐色(10YR7/2)	密:砂粒をほとんど含まない		
191	7~9層	弥生土器 甕	口縁部		①灰黄褐色(10YR5/2) ②灰白色(10YR8/2)	密:0.5~1mmの石英・長石を多量に含む		
192	7~9層	弥生土器 甕	底部	②4.8	①にぶい・褐色(2.5YR6/4) ②にぶい・褐色(5YR7/3)	密:0.5~3mmの石英・長石を多量に含む		

吉田焼内(吉田遺跡)の調査

遺物番号	層位	器種	部位	法量(cm) ①0.5cm②0.5cm③0.5cm	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
193	7~9層	弥生土器 甕	底部	②(6.2)	①灰黄色(2.5Y6/2)にぶい 褐色(5YR7/4) ②灰黄色(2.5Y7/2)	密:0.5~3mmの石英・長石 を多量に含む 2mmの赤色土粒を少量含 む		
194	7~9層	弥生土器 甕	口縁部	①(17.0)	①暗灰黄色(2.5Y4/2) ②灰黄色(2.5Y7/2)	やや粗:0.5~1.5mmの石 英・長石をやや多く含む		
195	7~8層	土師器 甕	口縁部	①(23.0)	①にぶい黄褐色(10YR4/3) ②灰黄褐色(10YR4/2)	粗:0.5~3mmの砂粒を多量 に含む		肩部に煤付 着
196	7~8層	土師器 甕	口縁部 ~底部	①15.2③24.0	①にぶい黄褐色(10YR7/3) ②にぶい黄褐色(10YR7/4)	5mm以下の砂粒を多く含む		
197	7~9層	土師器 高坏	脚部	②(11.0)	①にぶい褐色(7.5YR7/4) ②灰白色(2.5Y8/2)	密:1~3mmの赤色砂粒を 少量含む		
198	7~8層	須恵器 壺	体部	①②灰色(N5/)		精緻:砂粒を含まない		
199	9層	弥生土器 甕	体部		①灰黄褐色(10YR6/2) ②にぶい黄褐色(10YR7/4)	やや粗:1~2mmの石英・長 石をやや多く含む		
200	9層	弥生土器 甕	体部		①にぶい黄色(2.5Y6/3) ②灰黄褐色(10YR6/2)	密:0.5~1.5mmの石英・長 石をやや多く含む		
201	9層	弥生土器 甕	体部		①浅黄色(2.5Y7/3) ②灰黄色(2.5Y7/2)	密:0.5~1.5mmの石英・長 石を多量に含む		
202	9層	弥生土器 甕	体部		①にぶい黄(5YR6/4) ②にぶい赤褐色(5YR5/3)	やや粗:0.5~1mmの石英・ 長石をやや多く含む		
203	9層	弥生土器 甕	頸部		①浅黄色(2.5Y7/3) ②灰白色(10YR8/2)	粗:0.5~1.5mmの石英・長 石を多量に含む		
204	9層	弥生土器 甕	口縁部	①(24.2)	①灰白色(10YR8/2) ②黄灰色(2.5Y4/1)	やや粗:0.5~1.5mmの石 英・長石をやや多く含む		
205	9層	弥生土器 甕	底部	②(8.0)	①灰白色(10YR8/2) ②浅黄褐色(10YR8/3)	やや粗:1~2mmの石英・長 石をやや多く含む		
206	9層	弥生土器 甕	底部	②(4.6)	①②にぶい黄色(2.5Y6/4)	やや粗:0.5~2mmの石英・ 長石を多量に含む		
207	9層	弥生土器 甕	底部	②8.0	①にぶい褐色(7.5YR6/3) ②にぶい黄褐色(10YR7/4)	密:0.5~2mmの石英・長石 を多量に含む		
208	9層	弥生土器 甕	底部	②(6.6)	①②にぶい黄褐色 (10YR7/2)	密:0.5~1.5mmの石英・長 石を多量に含む		
209	9層	弥生土器 甕	底部	②(5.4)	①灰黄褐色(10YR6/2) ②にぶい褐色(7.5YR5/3)	粗:0.5~2mmの石英・長石 を多量に含む		
210	9層	弥生土器 甕	底部	②(6.2)	①灰黄色(2.5Y7/2) ②にぶい黄褐色(10YR7/2)	密:0.5~1.5mmの石英・長 石を多量に含む		
211	9層	弥生土器 台付鉢	口縁部 ~体部	①(14.8)	①灰黄褐色(10YR6/2) ②にぶい黄褐色(10YR7/2)	密:0.5~2.5mmの赤色砂粒 をやや多く含む		
212	9層	弥生土器 甕	口縁部		①暗赤褐色(5YR3/6) ②赤褐色(5YR4/6)	密:0.5~1mmの石英・長石 を少量含む		丹塗り
213	9層	弥生土器 甕	口縁部		①にぶい黄褐色(10YR7/4) ②灰白色(2.5Y8/2)	密:0.5mmの石英・長石を少 量含む		丹塗りにぶ い赤褐色 (2.5YR4/4)
214	9層	弥生土器 甕/甕	底部	②9.6	①にぶい黄褐色(10YR7/2) ②褐灰色(10YR6/1)	やや粗:1~2.5mmの石英・ 長石をやや多く含む		
215	9層	弥生土器 甕	底部	②6.2×6.6	①にぶい黄褐色(10YR7/2) ②にぶい黄褐色(10YR6/3)	密:0.5~2mmの石英・長石 を多量に含む		
216	9層	弥生土器 甕	底部	②(7.2)	①にぶい赤褐色(5Y5/3) ②黒色(5Y2/1)	密:0.5~2mmの石英・長石 を多量に含む		
217	9層	弥生土器 甕	底部	②(6.0)	①灰黄褐色(10YR6/2) ②にぶい黄褐色(10YR6/3)	粗:1~5mmの石英・長石を 多量に含む		
218	9層	弥生土器 甕	底部	②(8.0)	①褐灰色(10YR4/1) ②にぶい黄褐色(10YR6/3)	やや粗:0.5~1.5mmの石 英・長石を多量に含む		
219	9層	弥生土器 甕	底部	②(11.6)	①灰黄褐色(10YR6/2) ②灰白色(10YR6/2)	やや粗:0.5~2mmの石英・ 長石を多量に含む		
220	9層	土師器 甕	口縁部	①(13.4)	①にぶい褐色(7.5Y7/3) ②にぶい褐色(7.5YR7/4)	密:0.5~1mmの石英・長石 をやや多く含む		山陰系 ゆがみ大
221	9層	土師器 甕	口縁部	①(20.0)	①にぶい黄褐色(10YR7/4) ②浅黄色(2.5Y7/4)	やや粗:1~2mmの石英・長 石をやや多く含む		
222	9層	土師器 甕	口縁部		①にぶい黄褐色(10YR6/3) ②灰黄褐色(10YR6/2)	やや粗:0.5mmの石英・長 石を少量含む		
223	9層	土師器 甕	口縁部	①(11.6)	①にぶい黄褐色(10YR7/3) ②灰白色(10YR8/2)	密:0.5mmの赤色砂粒を少 量含む		
224	9層	土師器 甕	口縁部 ~底部	①(18.8)	①灰黄色(2.5Y6/2) ②灰黄色(2.5Y5/2)	密:4mm以下の角閃石など の砂粒を含む		煤付着
225	9層	土師器 甕	口縁部 ~体部	①(13.8)	①浅黄色(10YR8/3) ②浅灰色(10YR8/4)	密		外面煤付着

吉田溝内(吉田遺跡)の調査

遺物番号	層位	器種	部位	法量 (cm) ①②③(④破片⑤部高)	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
226	9層	土師器 高坏	口縁部	①(16.0)	①灰黄色(10YR5/1) ②褐色(7.5YR5/1)	やや粗:0.5~1mmの石英・長石を多量に含む		
227	9層	土師器 高坏	口縁部	①(14.8)	①にぶい黄褐色(10YR7/3) ②にぶい黄褐色(10YR7/4)	密:1mmの石英・赤色砂粒を少量含む		
228	9層	土師器 高坏	口縁部	①(18.0)	①にぶい黄褐色(10YR7/2) ②にぶい黄褐色(10YR7/3)	密:0.5~1mmの石英・長石を少量含む		
229	9層	土師器 高坏	坏部		①浅黄褐色(10YR8/3) ②浅黄色(7.5YR8/4)	密:0.5~1.5mmの石英・長石を少量含む		
230	9層	土師器 高坏	脚部	②11.4	①浅黄色(2.5Y7/3) ②にぶい黄褐色(10YR7/3)	密:砂粒をほとんど含まない		
231	9層	土師器 高坏	坏部~脚部	②13.2	①灰黄褐色(10YR6/2) ②にぶい黄褐色(10YR7/3)	密:0.5~1.5mmの石英・長石を少量含む		
232	9層	移動式甕			①黒褐色(7.5YR3/1) ②にぶい褐色(7.5YR5/3)	やや粗:0.5~2mmの石英・長石をやや多く含む		
233	16・17層	弥生土器 壺	体部		①にぶい黄褐色(10YR7/3) ②灰白色(10YR8/2)	密:1~3mmの石英・長石を多量に含む		
234	16・17層	弥生土器 壺	体部		①浅黄色(2.5Y7/4) ②にぶい黄褐色(10YR7/4)	密:1~2.5mmの石英・長石を多量に含む		
235	16・17層	弥生土器 壺	底部	②6.0	①②灰黄色(2.5Y7/2)	やや粗:0.5~1.5mmの石英・長石を多量に含む		
236	16・17層	弥生土器 甕	底部	②(8.7)	①灰褐色(7.5Y6/2) ②浅黄色(2.5Y7/3)	やや粗:1~1.5mmの石英・長石を多量に含む		
237	16・17層	弥生土器 壺/甕	底部	②8.6	①灰黄色(2.5Y7/2) ②灰色(5Y4/1)	やや粗:0.5~2mmの石英・長石を多量に含む		
238	16・17層	土師器 高坏	坏部		①浅黄褐色(7.5Y8/6)②浅黄褐色(7.5YR8/3)	密:0.5~1mmの石英・長石を少量含む 赤色土粒を極少量含む	図8-6一括	
239	16・17層	土師器 高坏	脚部	②(13.8)	①にぶい黄褐色(10YR7/3) ②にぶい黄褐色(10YR7/2)	やや粗:0.5~1.5mmの石英・長石をやや多く含む	図8-6一括	
240	16・17層	土師器 高坏	口縁部	①(16.0)	①にぶい黄褐色(10YR7/2) ②浅黄褐色(7.5YR8/3)	密:0.5~2mmの石英・長石を少量含む	図8-6一括	
241	16・17層	土師器 器台	体部		①灰黄色(2.5Y7/2) ②灰白色(2.5Y8/2)	密:0.5~1.5mmの石英・長石をやや多く含む		
242	45層	弥生土器 壺	頸部		①にぶい黄褐色(10YR5/4) ②にぶい黄褐色(10YR6/3)	やや粗:0.5~2mmの石英・長石をやや多く含む	図8-8	
243	42・44・45層	弥生土器 甕	底部	②(8.4)	①浅黄色(2.5Y7/3) ②にぶい黄褐色(10YR7/3)	やや粗:1~2mmの石英・長石を多量に含む		
244	42層	弥生土器 壺	底部	①(7.4)	①灰黄色(2.5Y7/2) ②灰白色(2.5Y7/2)	やや粗:0.5~1.5mmの石英・長石を多量に含む	図8-3	
245	45層	弥生土器 壺	底部	②(8.6)	①にぶい黄色(2.5Y6/3) ②灰黄色(2.5Y6/2)	密:0.5~2mmの石英・長石を多量に含む	図8-8	
246	42・44・45層	弥生土器 壺	底部	②(8.8)	①浅黄色(2.5Y7/3) ②灰黄色(2.5Y7/2)	密:1~1.5mmの石英・長石をやや多く含む		
247	42・44・45層	弥生土器 壺	底部	②4.2	①灰黄褐色(10YR6/2) ②暗灰色(N3/)	密:0.5~1.5mmの石英・長石をやや多く含む		
248	45層	弥生土器 高坏	脚部	②(14.4)	①にぶい黄褐色(10YR7/2) ②にぶい褐色(7.5YR7/3)	密:0.5~1.5mmの石英・長石をやや多く含む	図8-7	
249	45層	弥生土器 高坏	口縁部	①14.8	①灰黄褐色(10YR6/2) ②にぶい黄褐色(10YR7/3)	粗:0.5~1.5mmの石英・長石を多量に含む	図8-8	
250	42層	土師器 甕	体部		①②浅黄褐色(10YR8/3)	やや粗:3mm以下の砂粒を多く含む	図8-4	
251	42層	須恵器 坏身	口縁部~底部	①12.1③4.6	①灰白色(N7/) ②灰色(5Y6/1)灰白色(5Y7/1)	やや粗:0.5~3mmの石英・長石をやや多く含む	図8-1	
252	42層	須恵器 坏身	口縁部~底部	①12.2③4.4	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	やや粗:0.5~3mmの石英・長石をやや多く含む	図8-2	
253	42層	須恵器 甕	底部	②(18.5)	①灰色(N4/) ②灰色(N6/)	やや粗:0.5~2mmの石英・長石をやや多く含む 0.5~1.5mmの黒色土粒をやや多く含む	図8-5	
254	3・49~54・56・57層	弥生土器 壺	口縁部	①(22.8)	①灰黄褐色(10YR6/2) ②灰黄色(2.5Y7/2)	密:0.5~1.5mmの石英・長石・赤色土粒を多量に含む		
255	3・5・10・11・46~49・51~54層	弥生土器 壺	口縁部	①(18.6)	①にぶい黄褐色(10YR6/3) ②にぶい黄褐色(10YR7/3)	やや粗:0.5~1mmの石英・長石を多量に含む		

吉田橋内(吉田遺跡)の調査

遺物 番号	層位	器種	部位	法量(cm) ①口縁②底径③器高	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
256	3・5・10・ 11・46～ 49・51～ 54層	弥生土器 蓋	体部			①赤褐色(2.5YR4/6) ②にぶい黄褐色(10YR6/4)	密:0.5～1mmの石英・長石を少量含む	丹後?
257	3・5・10・ 11・46～ 49・51～ 54層	弥生土器 甕	底部	②(9.6)		①②にぶい黄褐色(10YR7/2)	やや粗:0.5～2mmの石英・長石を多量に含む	
258	3・5・10・ 11・46～ 49・51～ 54層	弥生土器 甕	底部	②(7.4)		①にぶい黄褐色(10YR7/2) ②黒色(N1.5) 底 灰黄褐色(10YR6/2)	やや粗:0.5～1mmの石英・長石を多量に含む	
259	3・5・10・ 11・46～ 49・51～ 54層	弥生土器 甕	底部	②(6.5)		①灰黄色(2.5Y6/2) ②黄褐色(2.5Y5/3)	やや粗:0.5～2mmの石英・長石をやや多く含む	
260	3・5・10・ 11・46～ 49・51～ 54層	弥生土器 鉢		①(9.0)②5.2③ 11.7		①灰黄色(2.5Y7/2) ②灰黄色(2.5Y6/2)	密:0.5～2mmの石英・長石を少量含む	
261	3・5・10・ 11・46～ 49・51～ 54層	須恵器 蓋	腹部			①②灰白色(N7/)	やや粗:0.5mmの石英・長石を少量含む 黒色土粒を少量含む	
262	3・5・10・ 11・46～ 49・51～ 54層	須恵器 坏蓋	口縁部	①(10.0)		①灰白色(2.5Y7/1) ②黄灰色(2.5Y4/1)	緻密:砂粒を含まない	
263	3・5・10・ 11・46～ 49・51～ 54層	須恵器 蓋	口縁部	①(14.8)		①②灰白色(N7/)	密:0.5～1.5mmの石英・長石を少量含む	
264	3・5・10・ 11・46～ 49・51～ 54層	須恵器 坏	底部	②10.2		①②灰白色(N7/)	やや粗:0.5～1mmの石英・長石を多量に含む	
265	3・5・10・ 11・46～ 49・51～ 54層	須恵器 壺/瓶	底部	②(9.0)		①②灰色(N6/)	密:0.5～1mmの石英・長石を多量に含む	
266	3・5・10・ 11・46～ 49・51～ 54層	土師器 甕	口縁部	①(25.0)		①②にぶい黄褐色(10YR7/3)黒色(10YR1.7/1)	やや粗:0.5～1mmの石英・長石をやや多く含む	
267	3・5・10・ 11層	土師器 甕	口縁部	①(19.2)		①灰黄褐色(10YR6/2) ②にぶい黄褐色(10YR6/3)	やや粗:0.5～1.5mmの石英・長石を多量に含む	
268	3・18・19・ 49・50・ 52・53・ 56・57層	土師器 坏	底部	②(4.4)		①②浅黄褐色(10YR8/3)	やや粗:0.5～1mmの石英・長石・赤色土粒を少量含む	
269	3・5・10・ 11・46～ 49・51～ 54層	土師器 埴	口縁部	①(12.8)		①②浅黄色(2.5Y7/3)	やや粗:0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
270	3・5・10・ 11・46～ 49・51～ 54層	土師器 埴	底部	②(7.8)		①②にぶい黄褐色(10YR7/2)	密:0.5～2mmの石英・長石をやや多く含む	
271	3・5・10・ 11・46～ 49・51～ 54層	土師器 埴	底部	②(6.1)		①②灰白色(10YR8/2)	密:砂粒をほとんど含まない	
272	3・5・10・ 11・46～ 49・51～ 54層	土師器 埴	底部	②7.1		①浅黄褐色(10YR8/3) ②橙色(5YR7/6)	密:赤色土粒を少量含む	
273	3・18・19・ 49・50・ 52・53・ 56・57層	緑釉陶器 埴	底部	②(7.8)		①オリーブ灰色(10Y6/2) ②灰白色(10Y7/2) 素地 灰白色(2.5Y8/2)	密:砂粒を含まない	

吉田溝内(吉田遺跡)の調査

遺物番号	層位	器種	部位	法量(cm) ①口縁②底径③器高	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
274	3・5・10・11・46～49・51～54層	瓦器 埴	底部	②(4.0)	①②灰色(N4/)		やや粗:0.5mmの石英・長石を少量含む	
275	18～30層	弥生土器 壺	底部	②8.4	①暗灰黄色(2.5Y4/2) ②灰黄色(2.5Y7/2)		密:1～1.5mmの石英・長石を多量に含む	
276	18～30層	弥生土器 壺	体部		①灰白色(2.5Y8/1) ②灰白色(2.5Y7/1)		やや粗:0.5～1.5mmの石英・長石・角閃石をやや多く含む	
277	18・19層	土師器 甕	口縁部	①(18.0)	①浅黄色(2.5Y7/3) ②にぶい黄褐色(10YR6/3)		密:0.5～4mmの石英・長石・赤色土粒を多量に含む	
278	28層	土師器 高坏	口縁部	①(15.0)	①②にぶい黄褐色(10YR7/4)		密:0.3～2.5mmの石英・長石・雲母・赤色土粒を含む	
279	18～30層	須恵器 坏	底部		①灰白色(N7/) ②灰白色(10YR7/1)		密:0.5～1.5mmの石英・長石を少量含む	
280	18～30層	須恵器 坏	口縁部	①(11.2)	①灰白色(7.5Y7/1) ②灰色(7.5Y6/1)		密:0.5mmの石英・長石をやや多く含む	
281	18～30層	須恵器 坏	口縁部	①(11.4)	①②灰白色(N7/)		やや粗:0.5～2mmの石英・長石をやや多く含む	
282	18～30層	須恵器 高坏	脚部	②(9.4)	①②灰白色(N7/)		密:0.5～3mmの石英・長石をやや多く含む	
283	18～30層	土師器 坏	口縁部	①(14.6)	①灰白色(10YR8/1) ②浅黄褐色(10YR8/3)		密:砂粒を含まない	
284	18～30層	土師器 坏	口縁部～底部	①8.3②4.0③2.1	①灰黄色(2.5Y7/2) ②浅黄色(2.5Y7/3)		やや粗:0.5mmの石英・長石を少量含む	
285	18・19層	土師器 坏	底部	②(5.6)	①にぶい黄褐色(10YR7/3) ②にぶい黄褐色(10YR7/4)		密:ほとんど含まない	
286	37層	弥生土器 壺	体部		①にぶい黄褐色(10YR7/2) ②灰白色(2.5Y7/1)		やや粗:0.5～2mmの石英・長石をやや多く含む	
287	35～37層	弥生土器 壺	口縁部	①(13.4)	①にぶい黄褐色(10YR6/3) ②灰黄褐色(10YR6/2)		密:0.5mmの石英・長石を少量含む	
288	37層	弥生土器 壺	体部		①灰白色(2.5Y8/2) ②灰白色(2.5Y8/1)		密:0.5～1.5mmの石英・長石をやや多く含む	
289	37層	弥生土器 壺	底部	②(14.5)	①にぶい黄褐色(10YR7/4) ②浅黄色(2.5Y7/3)		やや粗:0.5～1.5mmの石英・長石をやや多く含む	
290	31～37層	弥生土器 壺	底部	②(8.2)	①灰黄褐色(10YR6/2) ②にぶい黄褐色(10YR7/2)		密:0.5～2.5mmの石英・長石を多量に含む	
291	37層	弥生土器 壺	底部	②(7.4)	①褐色(2.5YR6/6) ②灰白色(2.5Y8/2)		密:1～2mmの石英・長石をやや多く含む	
292	37層	弥生土器 甕	底部	②(10.4)	①浅黄色(2.5Y7/3) ②灰白色(10YR8/1)		粗:1～2mmの石英・長石を多量に含む	
293	37層	弥生土器 壺/甕	底部	②(7.0)	①にぶい褐色(2.5YR6/4) ②灰色(5Y4/1)		やや粗:0.5～2mmの石英・長石を多量に含む	
294	31～37層	弥生土器 甕	底部	②(7.6)	①にぶい黄褐色(10YR7/2) ②灰黄褐色(10YR6/2)		やや粗:0.5～2.5mmの石英・長石を多量に含む	
295	31～37層	須恵器 坏	底部	②(9.6)	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)		やや粗:0.5～1mmの石英・長石を多量に含む 黒色土粒を少量含む	
296	37層	須恵器 高坏	口縁部	①(11.4)	①灰色(N4/) ②灰白色(N7/)		緻密:0.5mmの石英を少量含む	
297	37層	土師器 坏	底部	②6.0	①②灰白色(10YR8/2)		やや粗:0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
298	35～37層	土師器 坏	底部	②(8.2)	①灰黄色(2.5Y7/2) ②灰白色(2.5Y8/1)		密:0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
299	35～37層	土師器 坏	底部	②5.0	①灰白色(2.5Y8/2) ②浅黄色(2.5Y8/3)		密:0.5～2mmの石英・長石を少量含む	
300	35～37層	土師器 坏	底部	②5.0	①浅黄褐色(7.5YR8/3) ②にぶい褐色(7.5YR7/3)		密:0.5～1mmの石英・長石を少量含む	
301	35～37層	土師器 皿か	底部	②(5.0)	②にぶい褐色(7.5YR7/4)		密:1mmの石英を少量含む	
302	49～54層	弥生土器 壺	体部		①黒色(10YR2/1) ②にぶい黄褐色(10YR6/3)		密:1～3mmの石英・長石をやや多く含む	
303	49～54層	弥生土器 壺	体部		①にぶい黄褐色(10YR7/2) ②浅黄色(2.5Y7/3)		やや粗:0.5～2mmの石英・長石を多量に含む	
304	49～54層	弥生土器 壺	体部		①にぶい褐色(5YR7/4) ②灰白色(7.5Y7/1)		密:1～1.5mmの石英・長石を多量に含む	
305	50～54・56・57層	弥生土器 壺	体部		①灰白色(2.5Y8/2) ②灰黄色(2.5Y7/2)		粗:0.5～2.5mmの石英・長石・黒色砂粒・赤色土粒を含む	
306	49～54層	弥生土器 壺	口縁部	①(20.4)	①灰黄褐色(10YR6/2) ②にぶい黄褐色(10YR7/2)		やや粗:0.5～1mmの石英・長石をやや多く含む	

吉田溝内(吉田遺跡)の調査

遺物番号	層位	器種	部位	法量 (cm) ①口縁②底縁③器高	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
307	50~54・ 56~57層	弥生土器 壺	底部	②5.2	①暗灰黄色(2.5Y5/2) ②黒色(2.5Y2/1)	密; 石英を少量含む		
308	49~54層	弥生土器 壺	底部	②(9.6)	①黒褐色(2.5Y3/2) ②黒色(5Y2/1)	粗:0.5~1.5mmの石英・長石をやや多く含む		
309	49~54層	弥生土器 壺	底部	②(11.6)	①にぶい・橙色(5YR7/4) ②にぶい・褐色(7.5Y6/4)	粗:0.5~1.5mmの石英・長石を多量に含む 1~3mmの赤色土粒をやや多く含む		
310	50~54・ 56~57層	弥生土器 壺	底部	②(10.6)	①黒褐色(2.5Y3/1) ②灰黄色(2.5Y7/4)	密:0.5~2.5mmの砂粒を含む		
311	50~54・ 56~57層	弥生土器 甕	口縁部	①(26.0)	①黄灰色(2.5Y4/1) ②暗灰黄色(2.5Y5/2)	粗:0.5~5mmの石英を多量に含む		
312	50~54・ 56~57層	弥生土器 甕	口縁部		①にぶい・黄褐色(10YR7/2) ②灰黄褐色(10YR6/2)	やや粗:4mm以下の長石・赤色土粒を多く含む		
313	50~54・ 56~57層	弥生土器 甕	口縁部	①(28.0)	①灰オリーブ(5Y5/2) ②灰白色(5Y7/2)	密		
314	50~54・ 56~57層	弥生土器 甕	口縁部	①(26.2)	①褐灰色(7.5YR4/1) ②灰褐色(7.5YR6/2)	密		
315	49~54層	弥生土器 甕	口縁部	①(17.8)	①灰黄褐色(10YR5/2) ②褐灰色(7.5YR4/1)灰黄褐色(10YR6/2)	密:0.5~1mmの石英・長石・赤色土粒を少量含む		
316	49~54層	弥生土器 甕	口縁部	①(20.2)	①灰白色(10YR8/2) ②明褐灰色(7.5Y7/2)	やや粗:0.5~1mmの石英・長石を少量含む 1mmの赤色土粒を少量含む		
317	50~54・ 56~57層	弥生土器 甕	口縁部	①(20.8)	①にぶい・黄褐色(10YR7/4) ②浅黄褐色(10YR8/4)	密	内外面 保付着	
318	50~54・ 56~57層	弥生土器 甕	口縁部	①(24.8)	①②浅黄色(2.5Y7/3)	粗:3mm以下の白色・赤色砂粒を多く含む		
319	49層	弥生土器 甕	口縁部 ~底部	①19.4②28.4	①浅黄褐色(10YR8/3) ②灰白色(10YR8/2)	密:3mm以下の石英などの砂粒を少量含む		
320	50層	弥生土器 甕	底部		①浅黄褐色(10YR8/3) ②灰白色(10YR8/2)	やや粗:3mm以下の砂粒を含む		
321	50~54・ 56~57層	弥生土器 甕	底部	②(10.0)	①褐色(7.5YR6/6) ②明黄褐色(10YR6/8)	粗:1.5~4mmの石英・長石・赤色土粒を多量に含む		
322	50~54・ 56~57層	弥生土器 甕	底部	②(8.2)	①灰白色(2.5Y7/1) ②灰白色(5Y7/2)	粗:1~3mmの石英・長石を多量に含む		
323	50~54・ 56~57層	弥生土器 壺	底部	②(7.5)	①浅黄色(2.5Y7/3) ②灰黄色(2.5Y6/2)	粗:5mm以下の砂粒を含む		
324	50~54層	弥生土器 甕	底部	②(8.0)	①灰黄色(2.5Y7/2) ②灰色(5Y4/1)	密:0.5~1.5mmの石英・長石を多量に含む		
325	50~54・ 56~57層	弥生土器 甕	底部	②(10.7)	①にぶい・褐色(2.5YR6/4) ②にぶい・黄褐色(10YR7/2)	やや粗:0.5~2mmの石英・長石を多量に含む		
326	50~54・ 56~57層	弥生土器 甕小	底部	②(10.2)	①褐色(7.5YR6/6) 底部 ①にぶい・黄褐色(10YR7/2)	やや粗:0.5~1.5mmの石英・長石をやや多く含む		
327	50~54・ 56~57層	弥生土器 甕	底部	②(7.8)	①にぶい・褐色(2.5YR6/4) 底部 灰黄色(2.5Y6/2)	やや粗:0.5~1.5mmの石英・長石を多量に含む		
328	49~54層	弥生土器 甕	底部	②6.0	①灰黄褐色(10YR6/2) ②褐灰色(5YR4/1)	密:0.5~1mmの石英・長石を少量含む		
329	50~54・ 56~57層	弥生土器 甕	底部	②(6.6)	①灰白色(5Y7/2) ②灰色(7.5Y6/1)	密:0.3~2.5mmの砂粒を含む		
330	50~54・ 56~57層	弥生土器 鉢	口縁部	①(12.2)	①灰黄色(2.5Y6/2) ②浅黄色(2.5Y7/4)	粗:1~4mmの砂粒を多量に含む		
331	50~54・ 56~57層	土師器 甕	口縁部 ~底部	①(15.4)③23.5	①②浅黄色(2.5Y7/3)	密:5mm以下の石英・長石を含む		
332	49~54層	土師器 甕	口縁部	①(12.0)	①にぶい・黄褐色(10YR6/3) ②灰黄褐色(10YR6/2)	密:0.5~1mmの石英・長石をやや多く含む		
333	50~54・ 56~57層	土師器 高坏	口縁部	①(10.4)	①②灰黄色(2.5Y7/2)にぶい・褐色(5YR7/4)	密:0.5~1mmの石英・長石を少量含む	丹塗りか	
334	49~54層	土師器 鉢	口縁部	①(11.6)	①②浅黄色(2.5Y7/3)	密:0.5mmの石英を少量含む		
335	49・50・52 ~54・56・ 57層	土師器 小型器台	脚部	②(9.7)	①にぶい・黄褐色(10YR7/2) ②にぶい・黄褐色(10YR7/3)	密:0.5~1.5mmの石英・長石をやや多く含む		
336	49~54層	土師器 高坏	口縁部	①(15.8)	①にぶい・黄褐色(10YR7/3) ②灰白色(10YR8/2)	密:0.5mmの石英・長石・赤色土粒を少量含む		
337	49~57層	土師器 高坏	脚部	②13.7	①褐色(5YR6/8) ②にぶい・褐色(7.5Y5/4)	やや粗:0.5~1.5mmの石英・長石を多量に含む		

吉田構内(吉田遺跡)の調査

遺物番号	層位	器種	部位	法量(cm) ①口縁②底縁③器底高	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
338	50層	土師器 高坏	脚部		①浅黄褐色(10YR8/4) ②浅黄色(10YR8/3)	密		
339	46~48層	須恵器 坏身	底部	②(6.8)	①灰白色(2.5Y7/1) ②灰白色(2.5Y8/1)	密:0.5mmの石英・長石を少量含む		
340	50~54層	須恵器 蓋	口縁部	①(11.5)	①灰色(5Y6/1) ②灰白色(N7/1)	緻密		
341	50層	須恵器 蓋	口縁部	①(11.9)	①黄灰色(2.5Y6/1) ②灰色(N7/)	密:砂粒をほとんど含まない		
342	50~54・ 56~57層	須恵器 坏	口縁部	①(14.2)	①灰色(N4/) ②オリーブ灰色(2.5GY5/1)	密:0.5~2.5mmの長石・黒色砂粒を含む		
343	49~54層	須恵器 坏	口縁部		①②灰白色(7.5Y7/1)	やや粗:0.5mmの石英・長石をやや多く含む		
344	50~54層	須恵器 坏	口縁部	①(12.6)	①②黄灰色2.5Y6/1)	緻密		
345	50~54・ 56~57層	須恵器 杯	口縁部	①(11.3)	①黄灰色(2.5Y6/1) ②にぶい黄褐色(10YR7/3)	やや粗:0.5~1mmの石英・長石を少量含む		
346	49~54層	須恵器 坏	底部	②(7.0)	①②灰白色(2.5Y7/1) 底部 灰色(N6/)	やや粗:0.5mmの石英・長石を少量含む		
347	49・50層	須恵器 高台付杯	底部	②(9.8)	①緑灰色(5G5/1) ②灰色(N6/)	精練:0.5~1.5mmの長石・赤色土粒をわずかに含む		
348	50~54・ 56~57層	須恵器 高台付杯	底部	②(6.6)	①灰色(N6/) ②灰色(N7/)	やや粗:0.5~1mmの石英・長石をやや多く含む		
349	49~54層	須恵器 高台付杯	底部	②(10.5)	①灰白色(N7/) ②灰白色(5Y7/1)	密:0.5~1mmの石英・長石を少量含む		
350	50~54・ 56~57層	須恵器 高台付皿	底部	②(7.2)	①灰白色(10YR7/1) ②灰白色(2.5Y7/1)	精練:0.5~1.5mmの石英・長石を少量含む		
351	49~54層	須恵器 高坏	口縁部	①(12.0)	①灰色(N6/) ②灰白色(N7/)	密:0.5mmの石英・長石を少量含む		
352	49~54層	須恵器 高坏	坏部~ 脚部	②(6.8)	①②灰色(N6/)	密:0.5~1mmの石英・長石をやや多く含む 1.5mmの黒色土粒を少量含む		
353	49層	須恵器 長頸壺	頸部		①暗灰色(N3/) ②灰白色(N5/)	密:0.5~1.5mmの石英・長石をやや多く含む		
354	49・50層	緑釉陶器 塊か	体部		①②オリーブ灰色(10Y5/2) 釉 灰白色(7.5YR8/1)	密:砂粒を含まない		
355	49・50層	緑釉陶器 皿	口縁部	①(12.6)	釉 オリーブ黄色 素地 灰白色(7.5Y8/1)	密:砂粒を含まない		
356	49・50層	白磁 埴	口縁部	①(12.6)	①②灰白色(7.5Y8/1)	やや粗:砂粒を含まない		
357	50層	土師器 埴	底部	②(6.5)	①浅黄色(10YR8/3) ②にぶい黄褐色(10YR7/2)	密		
358	49層	土師器 埴	底部	②7.7	①にぶい黄褐色(10YR7/2) ②灰黄褐色(10YR6/2)	やや粗:0.5~3mmの石英をやや多く含む		
359	50~54・ 56~57層	土師器 埴	底部	②(6.4)	①②灰白色(2.5Y8/2)	密:1mmの石英を少量含む		
360	49・50層	土師器 埴	口縁部 ~底部	①(16.4)②(6.2) ③4.8	①②浅黄色(2.5Y7/3)	密:1~2mmの石英・長石を含む 1~2mmの赤色土粒を極わずかに含む		
361	49~54層	土師器 埴/坏	口縁部	①(15.6)	①灰白色(2.5Y8/2) ②灰白色(10YR8/2)	密:0.5~1.5mmの石英・長石を少量含む		
362	50~54層	土師器 皿	口縁部 ~底部	①10.0②4.7③ 2.1	①②にぶい黄褐色 (10YR7/3)	密:0.5~1.5mmの石英・長石を少量含む		
363	49・50層	土師器 坏	底部	②(8.3)	①黄灰色(2.5Y6/2) ②黒褐色(2.5Y3/1)	密:0.5mmの長石・赤色土粒を含む		
364	49・50層	土師器 坏	底部	②(5.4)	①灰白色(7.5YR8/2) ②浅黄褐色(7.5YR8/3)	密:砂粒を含まない	回転系切	
365	49・50層	土師器 坏	底部	②(5.6)	①灰白色(2.5Y7/1) ②灰白色(2.5Y8/1)	密:砂粒をほとんど含まない	回転系切	
366	46~55層	弥生土器 壺	口縁部	①(22.8)	①灰黄褐色(10YR5/2) ②灰白色(2.5Y8/2)	やや粗:0.5~1.5mmの石英・長石・赤色土粒をやや多く含む		
367	46~55層	弥生土器 壺	頸部		①浅黄色(2.5Y7/3) ②黄褐色(2.5Y7/2)	やや粗:4mm以下の石英を含む		
368	46~55層	弥生土器 壺	底部	②(6.8)	①灰黄褐色(10YR6/2) ②暗黄褐色(2.5Y5/2)	密:0.5~2mmの石英・長石を少量含む		
369	46~55層	須恵器 坏	底部	②(7.2)	①②灰白色(5Y7/1)	密:0.5~1mmの石英・長石をやや多く含む		
370	38・39層	弥生土器 甕	口縁部		①にぶい黄褐色(10YR6/3) ②にぶい黄褐色(10YR7/2)	やや粗:1~3mmの石英・長石をやや多く含む		
371	38・39層	弥生土器 甕	口縁部		①暗褐色(7.5YR7/2) ②灰赤色(2.5YR4/2)	粗:0.5~4mmの石英・長石を多量に含む		

吉田溝内(吉田遺跡)の調査

遺物番号	層位	器種	部位	法量(cm) ①口縁部②底面③器高	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
372	38~39層	弥生土器 壺	体部		①浅黄色(2.5Y) ②黒色(2.5Y2/1)	やや粗:0.5~1mmの石英・長石をやや多く含む		
373	38層	弥生土器 壺	底部	②7.8	①褐色(7.5YR4/1) ②明褐色(7.5YR5/8)	密:1~2.5mmの石英・長石を多量に含む		図8-17
374	38~39層	弥生土器 壺	底部	②9.6	①灰白色(10YR8/1) ②灰白色(2.5Y8/1)	密:1~2mmの石英・長石を多量に含む		
375	38~39層	弥生土器 甕	底部	②(6.6)	①浅黄色(2.5YR7/3) ②浅黄褐色(10YR8/3)	やや粗:1~2mmの石英・長石を多量に含む		
376	38層	土師器 高坏	脚部	②(14.6)	①にぶい・褐色(7.5YR7/3) ②浅黄褐色(7.5YR8/4)	密:1~1.5mmの石英・長石を少量含む		図8-18
377	38層	土師器 皿	口縁部 ~底部	②(7.4)③1.3	①②浅黄色(2.5Y7/3)	密:0.5~1.5mmの石英・長石をやや多く含む		図8-19
378	55層	弥生土器 壺	体部		①浅黄色(2.5Y7/3) ②灰白色(2.5Y8/2)	密:1~2mmの石英・長石を多量に含む		
379	55~61層	弥生土器 壺	口縁部	①(15.6)	①明灰褐色(7.5YR7/1) ②浅黄褐色(10YR8/4)	やや粗:0.5~2mmの石英・長石をやや多く含む		図8-13
380	55~61層	弥生土器 壺	底部	②(11.6)	①にぶい・赤褐色(10R6/4) ②浅黄褐色(10YR8/3)	やや粗:1~2mmの石英・長石をやや多く含む		図8-14
381	55層	弥生土器 壺	底部	②(8.6)	①浅黄褐色(10YR8/4) ②灰白色(10YR8/2)	やや粗:1~2mmの石英・長石をやや多く含む		
382	55層	弥生土器 壺	底部		①灰白色(2.5Y8/2) ②黒色(N21)	やや粗:0.5~1mmの石英・長石をやや多く含む		図8-22
383	55~61層	弥生土器 甕	底部	②(8.8)	①にぶい・褐色(5YR6/4) ②灰黄褐色(10YR6/2)	やや粗:0.5~1.5mmの石英・長石・角閃石をやや多く含む		図8-15
384	55~61層	弥生土器 甕	底部	②7.2	①灰白色(10YR7/1) ②にぶい・黄褐色(10YR7/2)	やや粗:0.5~1.5mmの石英・長石を多量に含む		図8-11
385	55層	弥生土器 壺	底部	②7.8	①にぶい・褐色(5YR6/4) ②オリーブ黒色(5Y3/1)	密:0.5~2mmの石英・長石をやや多く含む		図8-21
386	55層	弥生土器 壺/甕	底部	②8.4	①灰白色(10YR8/1) ②灰白色(5Y8/1)	粗:1mmの石英・長石を多量に含む		
387	55層	土師器 高坏	口縁部		①にぶい・黄褐色(10YR7/4) ②にぶい・黄褐色(10YR7/3)	やや粗:0.5~2mmの石英・長石をやや多く含む		
388	55層	弥生土器 高坏	坏部		①褐色(5YR6/8) ②褐色(5YR6/6)	密:0.5~1.5mmの石英・長石・赤色土粒をやや多く含む		図8-10
389	55層	弥生土器 脚付鉢	脚部	②(16.0)	①にぶい・褐色(7.5YR7/3) ②にぶい・褐色(7.5YR7/4)	密:0.5~1mmの石英・長石・赤色土粒をやや多く含む		図8-10
390	55層	土師器 甕	口縁部	①(12.4)	①浅黄褐色(10YR8/3) ②浅黄褐色(10YR7/4)	密:1mmの石英・長石を少量含む		
391	61層	弥生土器 壺	口縁部		①浅黄色(2.5YR7/3) ②にぶい・黄褐色(10YR7/3)	やや粗:0.5~1mmの石英・長石を多量に含む		丹塗り(10R4/6)
392	61層	弥生土器 壺	口縁部	①(24.6)	①にぶい・褐色(7.5YR6/4) ②にぶい・褐色(7.5YR7/4)	やや粗:0.5~1mmの石英・長石を多量に含む		
393	61層	弥生土器 壺	口縁部		①にぶい・黄褐色(10YR7/2) ②灰黄褐色(10YR6/2)	密:0.5~1.5mmの石英・長石を少量含む		
394	61層	弥生土器 壺	口縁部		①にぶい・黄褐色(10YR7/2) ②にぶい・黄褐色(10YR7/3)	やや粗:0.5~1mmの石英・長石・赤色土粒をやや多く含む		図8-25
395	61層	弥生土器 壺	口縁部		①②にぶい・褐色(7.5YR7/4)	やや粗:0.5~2.5mmの石英・長石をやや多く含む		
396	61層	弥生土器 壺	頸部		①灰白色(10YR7/2) ②灰白色(7.5Y7/1)	やや粗:1~2mmの石英・長石・赤色土粒をやや多く含む		
397	61層	弥生土器 壺	体部		①黄灰色(2.5Y4/1) ②灰白色(2.5Y8/2)	密:0.5~3mmの石英・長石を多量に含む		
398	61層	弥生土器 壺	体部		①灰黄褐色(10YR5/2) ②にぶい・黄褐色(10YR7/3)	密:1~1.5mmの石英・長石を少量含む		
399	61層	弥生土器 壺	体部		①黄灰色(2.5Y5/1) ②灰白色(2.5Y8/2)	密:1mmの石英・長石を少量含む		
400	61層	弥生土器 壺	体部		①にぶい・黄褐色(10YR7/2) ②灰黄褐色(10YR6/2)	密:1~1.5mmの石英・長石をやや多く含む		
401	61層	弥生土器 壺	体部		①浅黄色(2.5Y7/3) ②黄灰色(2.5Y4/1)	密:0.5~1.5mmの石英・長石を少量含む		
402	61層	弥生土器 壺	体部		①にぶい・黄褐色(10YR7/2) ②浅黄色(2.5Y7/3)	やや粗:0.5~1.5mmの石英・長石をやや多く含む		
403	61層	弥生土器 壺	体部		①灰白色(2.5Y8/2) ②にぶい・黄褐色(10YR7/3)	密:0.5~2mmの石英・長石をやや多く含む		
404	61層	弥生土器 壺	底部	②9.6	①褐色(10YR4/1) ②にぶい・黄褐色(10YR4/1)	やや粗:0.5~1.5mmの石英・長石を多量に含む		図8-24

吉田溝内(吉田遺跡)の調査

遺物番号	層位	器種	部位	法量(cm) ①口縁部②底縁部③器高	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
405	61層	弥生土器 壺	底部	②(7.6)	①②にぶい・黄褐色(10YR7/2)	やや粗:1~3mmの石英・長石をやや多く含む		
406	61層	弥生土器 壺	底部	②(7.6)	①灰白色(10YR7/1) ②灰白色(2.5Y7/1)	やや粗:1~2mmの石英・長石を多量に含む		
407	61層	弥生土器 壺	底部	②(10.0)	①にぶい・赤褐色(10YR6/4) ②灰黄色(2.5Y7/2)	密:1~2mmの石英・長石を多量に含む		
408	61層	弥生土器 壺	底部	②(10.4)	①浅灰色(10YR8/3) ②灰白色(2.5Y8/2) 底にぶい・褐色(2.5YR6/4)	密:1~2mmの石英・長石をやや多く含む		
409	61層	弥生土器 壺	底部	②(12.4)	①浅黄色(2.5Y7/3) ②灰黄色(2.5Y7/2)	やや粗:1~2mmの石英・長石をやや多く含む		
410	61層	弥生土器 甕	体部		①灰黄褐色(10YR4/2) ②灰黄褐色(10YR6/2)	やや粗:0.5~1.5mmの石英・長石をやや多く含む		
411	61層	弥生土器 甕	底部	②(8.2)	①にぶい・黄褐色(10YR6/3) ②黒色(7.5YR2/1)	やや粗:1~2mmの石英・長石を多量に含む		
412	61層	弥生土器 甕	底部	②(6.2)	①にぶい・褐色(5YR6/3) ②灰白色(10YR8/2)	密:1~2mmの石英・長石をやや多く含む		
413	61層	弥生土器 甕	底部	②(8.4)	①灰黄褐色(10YR6/2) ②灰黄褐色(10YR5/2)	やや粗:1~2mmの石英・長石を多量に含む		
414	61層	弥生土器 甕	底部	②(8.0)	①褐灰色(10YR4/1) ②にぶい・黄褐色(10YR5/3)	密:1~1.5mmの石英・長石をやや多く含む		
415	61層	弥生土器 壺	底部	②(4.4)	①浅灰色(2.5Y7/3) ②にぶい・黄褐色(10YR5/3)	やや粗:1~4mmの石英・長石を多量に含む		
416	61層	弥生土器 壺/甕	底部	②(8.2)	①黄灰色(2.5Y6/1) ②灰黄色(2.5Y7/2)	やや粗:1~4mmの石英・長石を多量に含む		
417	61層	弥生土器 甕	底部	②(10.4)	①褐灰色(7.5YR6/1) ②明褐灰色(7.5Y7/2)	密:0.5~2mmの石英・長石をやや多く含む		図8-25
418	61層	弥生土器 甕	底部	②(8.0)	①褐色(5YR6/6) ②にぶい・黄褐色(10YR7/2)	やや粗:0.5~2mmの石英・長石を多量に含む		
419	61層	土師器 甕	頸部		①にぶい・黄褐色(10YR7/3) ②浅黄褐色(10YR8/4)	密:0.5~4.5mmの石英・長石をやや多く含む		
420	61層	土師器 高坏	脚部		①②にぶい・黄褐色(10YR7/2)	密:0.5~1mmの石英・長石を少量含む		
421	61層	土師器 高坏	坏部		①②浅黄褐色(10YR7/3)	密:0.5~1.5mmの石英・長石を少量含む		
422	61層	須恵器 甕	口縁部	①(14.7)	①暗赤灰色(10R4/1) ②灰色(7.5Y5/1)	密:0.5~1.5mmの石英・長石を少量含む		
423	61層	須恵器 高坏	口縁部	①(10.0)	①灰白色(N8/7) ②灰色(N4/7)	密:0.5mmの石英・長石を少量含む		
424	61層	土師器 皿	口縁部 ~底部	①(10.2)②(5.6) ③3.2	①にぶい・褐色(7.5YR6/4) ②灰黄色(2.5Y6/2)	密:砂粒を含まない		
425	61層	土師器 坏	底部	②(5.4)	①②灰白色(2.5Y8/2)	密:0.5~1.5mmの石英・長石を少量含む		
426	61層	土師器 坏	底部	②(5.6)	①浅黄褐色(10YR8/3) ②灰白色(2.5Y8/2)	密:0.5~1mmの石英・長石を少量含む		
427	2層	須恵器 蓋	口縁部		①灰オリーブ色(5Y6/2) ②灰白色(N7/7)	密:0.5~1mmの石英・長石を少量含む		
428	2層	青磁 埴	口縁部		①灰オリーブ色(7.5Y4/2) ②灰オリーブ色(7.5Y5/2)	やや粗:砂粒を含まない		
429	不明	弥生土器 甕	底部		①にぶい・黄褐色(10YR7/2) ②灰黄褐色(10YR6/2)	やや粗:0.5~1.5mmの石英・長石をやや多く含む		
430	不明	土師器 甕	口縁部	①(17.6)	①明黄褐色(10YR6/6) ②にぶい・黄色(2.5Y6/3)	やや粗:1~4mmの砂粒を多く含む		
431	不明	土師器 高坏	脚部	②(10.6)	①にぶい・黄褐色(10YR6/3) ②にぶい・黄褐色(10YR4/3)	やや粗:0.5~1.5mmの石英・長石をやや多く含む		
432	不明	須恵器 坏	底部	②(7.0)	①②灰白色(7.5Y7/1)	やや粗:0.5mmの石英・長石を多量に含む 黒色土粒を少量含む		
433	不明	須恵器 坏	底部	②(7.6)	①灰色(7.5Y6/1) ②灰白色(7.5Y7/1)	やや粗:0.5~2.5mmの石英・長石を大量に含む		
434	不明	須恵器 坏	底部	②(8.2)	①灰白色(2.5Y7/1) ②灰白色(5Y7/1)	やや粗:0.5mmの石英を少量含む		
435	不明	須恵器 坏	底部	②(10.4)	①灰色(N6/7) ②灰白色(N7/7)	密:0.5~1mmの石英・長石・黒色土粒を少量含む		
436	不明	須恵器 高台付坏	底部	②(10.4)	①灰色(5Y6/1) ②灰白色(N7/7)	密:0.5~1mmの石英・長石を少量含む		
437	不明	須恵器 高台付坏	底部		①灰色(5Y6/1) ②灰色(N6/7)	密:0.5~1mmの石英・長石をやや多く含む		
438	不明	土師器 埴	口縁部		①②浅黄褐色(10YR8/3)	やや粗:0.5mmの石英・長石をやや多く含む		

遺物番号	層位	器種	部位	法量(cm) ①口径②底径③器高	色調		胎土	備考
					①外面	②内面		
439	不明	緑釉陶器 皿か	口縁部		①灰オリーブ色(7.5Y5/3) ②オリーブ黄色(7.5Y6/3) 素地 灰白色(5Y8/1)		密:砂粒をほとんど含まない	軸は内面 不透明、 外面透明
440	不明	製塩土器	体部		①②明赤褐色(5YR5/6)		密:0.5mmの石英・長石を少量含む	六連式
441	不明	土師質土器 鍋か	口縁部		①にぶい黄褐色(10YR6/4) ②灰黄褐色(10YR6/2)		密:やや粗:1~2mmの石英・長石を多量に含む 赤色土粒を少量含む	

表3 出土遺物(土製品)観察表

法量( )は残存値

遺物番号	層位	器種	法量(cm)①長さ②幅 ③厚④重量(g)	色調		胎土	備考
				①外面	②内面		
442	3層	棒状土錘	①(2.89) ②1.22 ③1.16 ④(5.09) 孔径0.35×0.25	上面 浅黄色(2.5Y7/3) 下面 灰白色(2.5Y8/2)		やや粗:0.5~1mmの石英・長石を少量含む	
443	3層	管状土錘	①(4.9) ④(12.52) 最大径(2.0) 孔径(0.7)	①浅黄色(2.5Y7/3) 黄灰色(2.5Y6/1)		密:0.5~1mmの石英・長石をやや多く含む	
444	4層	管状土錘	①4.5 ④(9.15) 最大径(2.1) 孔径(0.6)	①黄灰色(2.5Y4/1)		やや粗:0.5~1mmの石英・長石をやや多く含む	

表4 出土遺物(金属器)観察表

法量( )は残存値

遺物番号	層位	器種	法量(cm)①長さ②幅③厚④重量(g)	備考

表5 出土遺物(石器)観察表

法量( )は残存値

遺物番号	層位	器種	法量(cm) ①長さ②幅③厚④重量(g)	石材	備考
447	3層	紡錘車	径(4.6) ②(0.8) ④(5.09)	角閃石安山岩	
448	3層	凹基盤	①1.63 ②(1.58) ③0.38 ④(0.89)	サヌカ石	
449	3層	磨石	①6.2 ②4.4 ③3.5 ④127.47	花崗岩か	
450	9層	敲石	①10.3 ②7.9 ③4.1 ④515.83	花崗岩	
451	42層	石棒か	①(5.9) ②(3.2) ③(3.2) ④(99.81)	安山岩	
452	18~30層 46~54層	砥石	①(4.56) ②(0.58) ③(2.40) ④(70.20)	砂岩か	
453	50~54層	砥石	①(7.1) ②(8.45) ③(3.98) ④(245.26)	安山岩か	
454	50~54層	砥石	①(11.1) ②(10.5) ③(2.6) ④(347.73)	安山岩か	
455	59層	石包丁	①18.0 ②9.1 ③1.1 ④213.29	頁岩	
456	55~61層	大型蛤刃石斧	①(8.0) ②(5.9) ③(4.7) ④(327.42)	結晶片岩	図8-26
457	61層	大型蛤刃石斧	①13.2 ②5.0 ③3.5 ④363.77	玄武岩	表採
458	61層	大型蛤刃石斧	①(8.63) ②(4.77) ③4.36 ④(210.02)	結晶片岩	

表6 出土遺物(木器)観察表

法量( )は復元値

遺物番号	層位	器種	法量(cm) ①長さ②最大幅③最大厚	備考
460	61層	板材	①(86.2) ②25.5 ③5.2	図11
461	61層	不明	①(66.0) ②20.0 ③7.8	図11
462	61層	不明	①(37.8) ②18.1 ③15.8	図11
463	61層	板材	①(40.6) ②11.6 ③2.1	図11
464	61層	不明	①(29.5) ②2.4 ③1.7	棒状 両端部に加工痕 図11
465	61層	板材	①(35.5) ②17.4 ③1.7	図11
466	61層	不明	①(54.6) ②5.5 ③1.5	469と同様の製品 孔を2箇所に施し、一側面に溝・深みを有する ゆがみあり 図11
467	61層	不明	①(8.0) ②4.7 ③1.4	両端部折損 図11

遺物番号	層位	器種	法量(cm)			備考
			①長さ	②最大幅	③最大厚	
468	61層	不明	①(6.4)	②5.2	③1.35	467と同一体か 図11
469	61層	不明	①(61.7)	②5.9	③1.8	ねじれの強い板状製品で5ヶ所に孔を施し、両みを2ヶ所設ける一側面に溝・凹みを有する 図11
470	17層	木鐺	①13.1	②6.8	③6.9	くびれ部最大幅3.3cm 図8-27
471	15層	杭	①(24.1)	②10.7	③6.8	先端部 図8-34
472	55層	矢板または杭か	①(49.1)	②7.0	③2.8	図8-32
473	55層	矢板または杭か	①(54.3)	②5.8	③3.4	図8-33
474	61層	板材か	①(32.1)	②8.2	③2.1	
475	61層	不明	①(5.85)	②3.4	③0.8	表面に2方向に削り痕あり 図11

## (6) 小結(図41・42、写真63)

当調査では、東北東-西南西方向に走ると見られる自然河川が検出され、河川堆積土およびその上位を覆う遺物包含層から多量の遺物が出土した。遺物は弥生時代～古代のものが主体であり、河川は鎌倉時代に埋没を終えたと推定される。この河川は、本学吉田構内統合移転前から存在し、調査区の北側、吉田構内循環道北縁を現在も流れる用水路にその姿を変えている可能性が高い。

吉田遺跡の既往の調査成果により、鎌倉時代の遺構の欠落は室町期に大規模な土地改変が行われた結果と推定される。鎌倉時代まで生活や農耕のための取水は自然河川に依存していたが、室町時代以降、耕地の拡大および居住域の整備が行われ、同時に溜池や用水路等の水利設備が拡充したのであろう。

多量の遺物の由来地は、調査区北に隣接する丘陵に求められる。現在大学本部1号館および2号館、学生会館、第2学生食堂が建設されているが、遺構の分布が密であることから一部を「遺跡保存地区」に指定している。既往の調査成果では、遺跡保存地区では弥生時代中期後半の土壇<sup>21</sup>や後期後半から終末期の竪穴住居、土壇<sup>22</sup>が検出されており、古墳時代では第2学生食堂敷地に古墳時代中期の竪穴住居跡が6棟確認されている<sup>23</sup>。その他、第2学生食堂増築・改修に伴う調査では平安時代の大溝と2棟の掘立柱建物跡が検出されるなど、断片的ではあるが生活痕跡を見いだすことが可能である。これまでの調査報告においても、丘陵縁辺部の遺物包含層から当該時期の遺物が多量に出土することから長期に及ぶ集落形成が指摘されてきたが、当調査における遺物の多量出土も、弥生時代以降、丘陵上に集落を営んだ人々が不要物を河川に投棄し続けた結果と見なして良い。

遺物に関しては、河川堆積土中より弥生時代から古墳時代の良好な資料を得るに至った。在地系土器に混ざり北部九州系、瀬戸内系、山陰系の土器が出土する状況はこの地域の土器様相をよく示す事例となる。古代以降の遺物に関しては、須恵器、土師器の他に緑釉陶器、白磁、青磁、製塩土器などが多量に出土しており、奈良時代以降の地に地方官衙が設けられ、鎌倉時代にも地域の有力者が居住していたことを暗示しているものの、主として遺物包含層から出土であるため、遺存状況は良好とは言いがたい。一方で表裏金具が結合した鈎帯具丸柄は、塗布されていたであろう漆を失ってしまったものの、極めて稀少な資料と言える。その他、河川右岸付近に設けられた鎌倉時代と推定される木器溜め土壇の確認は、当時の木工文化を知る上でも貴重な成果と言える。

最後に、当調査区の西に隣接する地点で実施された図書館2号館(以下「2号館」と標記)増築に伴う発掘調査との関係に触れておく。昭和57年(1982)5月31日から同年9月11日にかけて、増築予定地の約600㎡について当館が発掘調査を実施した。報告によると、調査区の北部および南部西半は後世の削平が遺構面まで及んでいたが、残存部については弥生時代から鎌倉時代の3層の遺物包含層、土壇5基、溝7条、旧河川跡、柱穴を検出したとされる。

座標から今回調査区と2号館調査区とを合成したのが図41である。2号館調査区が現存する2号館敷地の南側に及んでいないことが気にかかるが、調査区北側の共同溝埋設による攪乱部にあまり齟齬を来していないため、測量に誤りがあったとしても大きなものではないと推測される。報告書に掲載された断面図(図42)を見ると、東西に走る溝であるSD3はSK3により切られており、SK3は南東から北西に走る河川(NR)に切られている。各遺構からの出土遺物は、SD3が弥生時代～鎌倉時代、SK3も弥生時代～鎌倉時代、河川も弥生時代～鎌倉時代と、量の差こそあれ相違が見出せない。これらの遺構のうちSD3は今回調査区でも延長部が検出されるであろう位置にあるが、確認できていない。

2号館調査で問題となるのが、3枚の包含層と地山の認識である。2号館調査の基本層序は、第1層:表土、第2層:暗灰褐色砂質土、第3層:灰褐色粘質土、第4層:黒褐色粘質土とされ、調査区東端部に確認される第5層は明るい灰色砂質土、地山は $y=605$ 付近以西は黄褐色粘質土、以东は暗青灰色砂質土と記述されている。各層の性質に関しては、第2層が耕作土、第3・4層は弥生時代から鎌倉時代の遺物を包含する遺物包含層、さらに第5層も弥生時代から鎌倉時代の遺物を包含するとの記述があり、各層出土の遺物実測図も掲載されている。遺構と各層との関係を見ると、河川は第4層を削り込んでおり、SD3は5層を掘り込んでいる。

今回調査区の層序と照合すると、第3層=3層と見て間違いはなく、第4層=河川堆積土上層の黒色シルト層、第5層と調査区西部の地山(暗青灰色砂質土)=河川堆積土下層の砂礫層ということになる。写真63を見ると、溝とされるSD3の底面に真の地山である黄色シルト層が顔を覗かせていることから、2号館調査では河川のある時期の流路(今回調査の49層など)を溝(SD3)と認識したと考えられ、河川堆積最下層のほぼ全てを掘り残した可能性が高い。また測量図が正確であるならば、調査区の南側約5mの範囲は未調査のまま開発工事が行われたと解釈せざるを得ない。

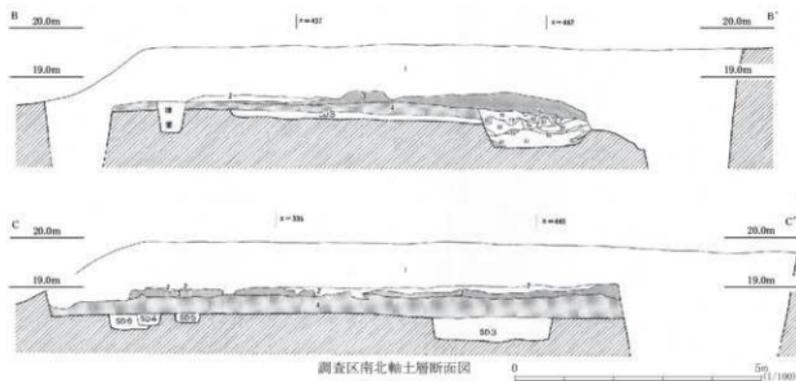
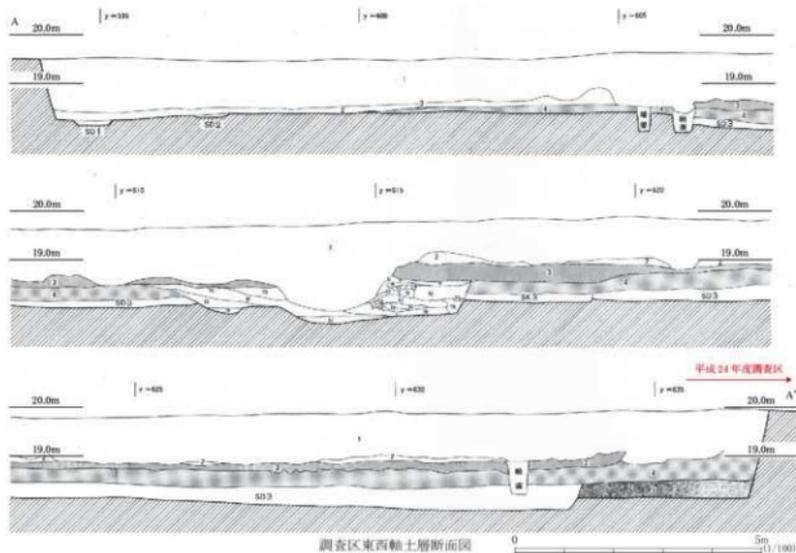
30年以上前の調査・開発であり、埋蔵文化財資料館に人員が配置されて5年目、本学において埋蔵文化財保護に関する認識および理解が確立する途上にある時期とは言え、大量の遺物を喪失した可能性は極めて高く、当館の責任は重い。これを過去の問題とすることなく、本学各局との綿密な連携の下、慎重な埋蔵文化財保護対応と正確な遺跡情報の取得、適切な調査方法を心がけたい。

#### 【註】

- 1) 農学部附属農場の溜池の成立は古く、18世紀前半から中頃にかけて作成されたと見られる「地下上申絵図 吉田村清園」(山口県文書館所蔵)にはすでに描かれている。
- 2) 豆谷和之(1993)「吉田遺跡第1地区A区の調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報X1』,山口
- 3) 森田孝一・河村吉行ほか(1986)「吉田構内学生会館環境整備に伴う試掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報V』,山口
- 4) 豆谷和之(1994)「吉田遺跡第1地区E区の調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報X2』,山口
- 5) 田畑直彦(2004)「平成7・10～14年度山口大学構内遺跡調査の概要」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報XVI・XVII』,山口
- 6) 河村吉行(1985)「中央図書館増築予定地M-16区の発掘調査」,山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学構内遺跡調査研究年報II』,山口
- 7) 今回調査区において作製した断面図と2号館調査で作製された断面図では、今回調査区の西端部、2号館調査の東端部において約1mもの齟齬が生じているが、これは2号館調査の測量の誤りである。



吉田橋内(吉田道路)の調査



- 1 表土 (腐植土、構内造成時等の置土)
  - 2 暗灰色砂質土 (水田耕作土)
  - 3 灰褐色粘質土
  - 4 黒褐色粘質土
  - 5 明灰色砂質土
- ※土質注記は図のキャプションではなく報告文を採用

河村吉行 (1985) 『中央図書館地下定礎 M-16 区の発掘調査』、  
山口大学埋蔵文化財資料館 (編) 『山口大学構内遺跡発掘調査年報Ⅱ』  
の Fig.2 および Fig.3.4 転載・加筆

図 42 図書館2号館増築調査区土層断面

## 山口県吉田遺跡出土金属製品の成分分析調査

## — 蛍光X線分析 —

株式会社 吉田生物研究所

## 1. はじめに

山口県に所在する吉田遺跡で出土した金属製品1点について、以下の通り成分分析を行ったのでその結果を報告する。

## 2. 資料

調査した資料は、丸鞘(図32-445、写真61-445)1点である。

## 3. 方法

資料を用いて蛍光X線分析を行い、金属元素を同定した。装置はRIGACK製の波長分散型蛍光X線分析装置ZSX-PRIMUS IIを用いた。

## 4. 分析結果

成分分析結果のスペクトルを付し(下図)、その結果を以下に示す。分析値から、丸鞘は銅(Cu)が主成分であり、次いで砒素(As)、鉛(Pb)が多く、微量成分として銀(Ag)、アンチモン(Sb)、ビスマス(Bi)が検出された。その他の元素は土中成分(Al~Fe)である。また、数値は参考である。

元素(wt%) Al(1.68) Si(3.37) S(0.11) Cl(0.22) K(0.50) Ca(0.18) Fe(0.37)

Cu(85.86) As(3.51) Pb(3.40) Ag(0.25) Sb(0.230) Bi(0.18)

## 5. 考察

丸鞘は検出された成分から銅製品である。その他の成分の砒素については銅の製錬過程で残留する割合(~数%)の範囲内なので、添加されたものでなく残留したものと考えられる。鉛については銅製品を造る際の湯通りを良くする事や銅の融点を下げる為に添加されたものと考えられる。微量成分の銀、アンチモン、ビスマスは銅の製錬過程で製錬しきれずに残留したものと考えられる。

参考文献:成瀬正和(1999):正倉院鏡を中心とした唐式鏡の化学的調査,日本の美術2 No.393 至文堂 p87-98

